2024年度
大学院経済学研究科
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧 ［発行日：2024/5/1］最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

凡例　その他属性

〈他〉：他学部公開科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目
〈S〉：サーティフィケートプログラム_SDGs
〈ダ〉：サーティフィケートプログラム_ダイバーシティ
〈カ〉：サーティフィケートプログラム_カーボンニュートラル
〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈ア〉：サーティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈未〉：サーティフィケートプログラム_未来教室

【X3001】経済学基礎Ａ［倪　彬］春学期前半/Spring(1st half) 1
【X3002】経済学基礎Ｂ［倪　彬］春学期後半/Spring(2nd half) 2
【X3003】実証経済学基礎Ａ［河村　真］春学期授業/Spring 3
【X3004】実証経済学基礎Ｂ［河村　真］秋学期授業/Fall 4
【X3005】経済史Ａ［進藤　理香子］春学期授業/Spring 6
【X3006】経済史Ｂ［杉浦　未樹］秋学期授業/Fall 7
【X3007】計量経済学Ａ［明城　聡］春学期授業/Spring 9
【X3008】計量経済学Ｂ［池上　宗信］秋学期授業/Fall 10
【X3009】社会経済学Ａ［森本　壮亮］春学期授業/Spring 12
【X3010】社会経済学Ｂ［森本　壮亮］秋学期授業/Fall 13
【X3011】マクロ経済学Ａ［宮﨑　憲治］春学期授業/Spring 14
【X3012】マクロ経済学Ｂ［八木橋　毅司］春学期前半/Spring(1st half) 15
【X3013】ミクロ経済学Ａ［鈴木　豊］春学期授業/Spring 16
【X3014】ミクロ経済学Ｂ［平瀬　友樹］秋学期授業/Fall 17
【X3015】応用マクロ経済学Ａ［八木橋　毅司］春学期後半/Spring(2nd half) 18
【X3016】応用マクロ経済学Ｂ［蓮見　亮］秋学期授業/Fall 19
【X3017】応用ミクロ経済学Ａ［鈴木　豊］春学期授業/Spring 20
【X3018】応用ミクロ経済学Ｂ［平瀬　友樹］秋学期授業/Fall 21
【X3019】開発経済論Ａ［池上　宗信］秋学期授業/Fall 22
【X3021】金融ファイナンス論Ａ［胥　鵬］秋学期授業/Fall 24
【X3022】金融システム論A［胥　鵬］秋学期授業/Fall 25
【X3029】地域経済論ⅠＡ［馬場　敏幸］春学期授業/Spring 26
【X3030】地域経済論ⅠＢ［馬場　敏幸］秋学期授業/Fall 27
【X3033】統計学Ａ［菅　幹雄］春学期授業/Spring 28
【X3034】統計学Ｂ［菅　幹雄］秋学期授業/Fall 29
【X3040】企業経済学Ｂ［砂田　充］春学期授業/Spring 30
【X3045】国際金融論Ａ［ブー　トウン　カイ］春学期授業/Spring 31
【X3046】国際金融論Ｂ［ブー　トウン　カイ］秋学期授業/Fall 32
【X3051】環境政策論Ａ［西澤　栄一郎］春学期前半/Spring(1st half) 34
【X3052】環境政策論Ｂ［西澤　栄一郎］春学期後半/Spring(2nd half) 35
【X3056】経済地理学Ｂ［近藤　章夫］秋学期授業/Fall 36
【X3059】社会保障論Ａ［小黒　一正］春学期授業/Spring 37
【X3060】社会保障論Ｂ［小黒　一正］秋学期授業/Fall 38
【X3063】労働経済学Ａ［酒井　正］春学期授業/Spring 39
【X3064】労働経済学Ｂ［酒井　正］秋学期授業/Fall 40
【X3072】応用計量経済学Ｂ［明城　聡］秋学期授業/Fall 41
【X3073】ミクロ計量分析B［明城　聡］秋学期授業/Fall 42
【X3081】日本語ⅠＡ［清水　由美］春学期授業/Spring 43
【X3082】日本語ⅠＢ［清水　由美］秋学期授業/Fall 45
【X3083】日本語ⅡＡ［清水　由美］春学期授業/Spring 47
【X3084】日本語ⅡＢ［清水　由美］秋学期授業/Fall 49
【X3085】日本語ⅢＡ［大場　理恵子］春学期授業/Spring 51
【X3086】日本語ⅢＢ［大場　理恵子］秋学期授業/Fall 52
【X3101】経済学演習ⅡＡ［近藤　章夫］春学期授業/Spring 53

【X3102】経済学演習ⅡＢ［近藤　章夫］秋学期授業/Fall 54
【X3103】経済学演習ⅡＡ［酒井　正］春学期授業/Spring 55
【X3104】経済学演習ⅡＢ［酒井　正］秋学期授業/Fall 56
【X3105】経済学演習ⅠＡ［胥　鵬］春学期授業/Spring 57
【X3106】経済学演習ⅠＢ［胥　鵬］秋学期授業/Fall 58
【X3107】経済学演習ⅠＡ［菅　幹雄］春学期授業/Spring 59
【X3108】経済学演習ⅠＢ［菅　幹雄］秋学期授業/Fall 60
【X3109】経済学演習ⅡＡ［鈴木　豊］春学期授業/Spring 61
【X3110】経済学演習ⅡＢ［鈴木　豊］秋学期授業/Fall 62
【X3111】経済学演習ⅡＡ［馬　欣欣］春学期授業/Spring 63
【X3112】経済学演習ⅡＢ［馬　欣欣］秋学期授業/Fall 64
【X3113】経済学演習ⅡＡ［松波　淳也］春学期授業/Spring 65
【X3114】経済学演習ⅡＢ［松波　淳也］秋学期授業/Fall 66
【X3115】経済学演習ⅡＡ［宮﨑　憲治］春学期授業/Spring 67
【X3116】経済学演習ⅡＢ［宮﨑　憲治］秋学期授業/Fall 68
【X3117】経済学演習ⅠＡ［田村　晶子］春学期授業/Spring 69
【X3118】経済学演習ⅠＢ［田村　晶子］秋学期授業/Fall 70
【X3119】経済学演習ⅠＡ［武智　一貴］春学期授業/Spring 71
【X3120】経済学演習ⅠＢ［武智　一貴］秋学期授業/Fall 72
【X3121】経済学演習ⅠＡ［馬　欣欣］春学期授業/Spring 73
【X3122】経済学演習ⅠＢ［馬　欣欣］秋学期授業/Fall 74
【X3125】経済学演習ⅠＡ［宮﨑　憲治］春学期授業/Spring 75
【X3126】経済学演習ⅠＢ［宮﨑　憲治］秋学期授業/Fall 76
【X3129】経済学演習ⅠＡ［JESS DIAMOＮD］春学期授業/Spring 77
【X3130】経済学演習ⅠＢ［JESS DIAMOＮD］秋学期授業/Fall 78
【X3131】経済学演習ⅠＡ［倪　彬］春学期授業/Spring 79
【X3132】経済学演習ⅠＢ［倪　彬］秋学期授業/Fall 80
【X3133】経済学演習ⅠＡ［池上　宗信］春学期授業/Spring 81
【X3134】経済学演習ⅠＢ［池上　宗信］秋学期授業/Fall 82
【X3137】経済学演習ⅠＡ［酒井　正］春学期授業/Spring 83
【X3138】経済学演習ⅠＢ［酒井　正］秋学期授業/Fall 84
【X3151】論文指導ⅡＡ［杉浦　未樹］春学期前半 85
【X3152】修士ワークショップＡ［杉浦　未樹］春学期後半 86
【X3153】論文指導ⅡＢ［杉浦　未樹］秋学期前半 87
【X3154】修士ワークショップＢ［杉浦　未樹］秋学期後半 88
【X3315】応用マクロ経済学ＤＡ［八木橋　毅司］春学期後半/Spring(2nd half) 89
【X3316】応用マクロ経済学ＤＢ［蓮見　亮］秋学期授業/Fall 90
【X3317】応用ミクロ経済学ＤＡ［鈴木　豊］春学期授業/Spring 91
【X3318】応用ミクロ経済学ＤＢ［平瀬　友樹］秋学期授業/Fall 92
【X3319】開発経済論ＤＡ［池上　宗信］秋学期授業/Fall 93
【X3320】金融ファイナンス論ＤＡ［胥　鵬］秋学期授業/Fall 95
【X3321】地域経済論ⅠＤＡ［馬場　敏幸］春学期授業/Spring 96
【X3322】地域経済論ⅠＤＢ［馬場　敏幸］秋学期授業/Fall 97
【X3323】統計学ＤＡ［菅　幹雄］春学期授業/Spring 98
【X3324】統計学ＤＢ［菅　幹雄］秋学期授業/Fall 99
【X3325】企業経済学ＤＢ［砂田　充］春学期授業/Spring 100
【X3326】国際金融論ＤＡ［ブー　トウン　カイ］春学期授業/Spring 101
【X3327】国際金融論ＤＢ［ブー　トウン　カイ］秋学期授業/Fall 102
【X3328】環境政策論ＤＡ［西澤　栄一郎］春学期前半/Spring(1st half) 104
【X3329】環境政策論ＤＢ［西澤　栄一郎］春学期後半/Spring(2nd half) 105
【X3330】経済地理学ＤＢ［近藤　章夫］秋学期授業/Fall 106
【X3331】社会保障論ＤＡ［小黒　一正］春学期授業/Spring 107
【X3332】社会保障論ＤＢ［小黒　一正］秋学期授業/Fall 108
【X3333】労働経済学ＤＡ［酒井　正］春学期授業/Spring 109
【X3334】労働経済学ＤＢ［酒井　正］秋学期授業/Fall 110
【X3335】応用計量経済学ＤＢ［明城　聡］秋学期授業/Fall 111
【X3401】経済学演習ⅤＡ［池上　宗信］春学期授業/Spring 112

【X3402】経済学演習ⅤB［池上　宗信］秋学期授業/Fall 113
【X3403】経済学演習ⅤA［後藤　浩子］春学期授業/Spring 114
【X3404】経済学演習ⅤB［後藤　浩子］秋学期授業/Fall 115
【X3405】経済学演習ⅤA［酒井　正］春学期授業/Spring 116
【X3406】経済学演習ⅤB［酒井　正］秋学期授業/Fall 117
【X3407】経済学演習ⅣA［松波　淳也］春学期授業/Spring 118
【X3408】経済学演習ⅣB［松波　淳也］秋学期授業/Fall 119
【X3409】経済学演習ⅣA［宮﨑　憲治］春学期授業/Spring 120
【X3410】経済学演習ⅣB［宮﨑　憲治］秋学期授業/Fall 121
【X3411】経済学演習ⅢA［JESS DIAMOＮD］春学期授業/Spring 122
【X3412】経済学演習ⅢB［JESS DIAMOＮD］秋学期授業/Fall 123
【X3451】論文指導ⅤA［鈴木　豊］春学期前半/Spring(1st half) 124
【X3452】博士ワークショップⅢA［鈴木　豊］春学期後半/Spring(2nd half) 125
【X3453】論文指導ⅤB［鈴木　豊］秋学期前半/Fall(1st half) 126
【X3454】博士ワークショップⅢB［鈴木　豊］秋学期後半/Fall(2nd half) 127
【X3455】論文指導ⅤA［田村　晶子］春学期前半/Spring(1st half) 128
【X3456】博士ワークショップⅢA［田村　晶子］春学期後半/Spring(2nd half) 129
【X3457】論文指導ⅤB［田村　晶子］秋学期前半/Fall(1st half) 130
【X3458】博士ワークショップⅢB［田村　晶子］秋学期後半/Fall(2nd half) 131
【X3459】論文指導ⅤA［宮﨑　憲治］春学期前半/Spring(1st half) 132
【X3460】博士ワークショップⅢA［宮﨑　憲治］春学期後半/Spring(2nd half) 133
【X3461】論文指導ⅤB［宮﨑　憲治］秋学期前半/Fall(1st half) 134
【X3462】博士ワークショップⅢB［宮﨑　憲治］秋学期後半/Fall(2nd half) 135
【X3463】論文指導ⅤA（2016年度以前入学者）［小黒　一正］春学期授業/Spring 136
【X3464】論文指導ⅤB（2016年度以前入学者）［小黒　一正］秋学期授業/Fall 137
【X3465】論文指導ⅤA（2016年度以前入学者）［馬場　敏幸］春学期授業/Spring 138
【X3466】論文指導ⅤB（2016年度以前入学者）［馬場　敏幸］秋学期授業/Fall 139
【X3901】経済学演習ⅠA（代表シラバス）［経済学専攻教員］春学期授業/Spring 140
【X3902】経済学演習ⅠB（代表シラバス）［経済学専攻教員］秋学期授業/Fall 141
【X3903】経済学演習ⅡA（代表シラバス）［経済学専攻教員］春学期授業/Spring 142
【X3904】経済学演習ⅡB（代表シラバス）［経済学専攻教員］秋学期授業/Fall 143
【X3909】経済学演習ⅢA（代表シラバス）［経済学専攻教員］春学期授業/Spring 144
【X3910】経済学演習ⅢB（代表シラバス）［経済学専攻教員］秋学期授業/Fall 145
【X3911】経済学演習ⅣA（代表シラバス）［経済学専攻教員］春学期授業/Spring 146
【X3912】経済学演習ⅣB（代表シラバス）［経済学専攻教員］秋学期授業/Fall 147
【X3913】経済学演習ⅤA（代表シラバス）［経済学専攻教員］春学期授業/Spring 148
【X3914】経済学演習ⅤB（代表シラバス）［経済学専攻教員］秋学期授業/Fall 149
【X3915】論文指導ⅤA（代表シラバス）［経済学専攻教員］春学期前半/Spring(1st half) 150
【X3916】博士ワークショップⅢA（代表シラバス）［経済学専攻教員］春学期後半/Spring(2nd half) 151
【X3917】論文指導ⅤB（代表シラバス）［経済学専攻教員］秋学期前半/Fall(1st half) 152
【X3918】博士ワークショップⅢB（代表シラバス）［経済学専攻教員］秋学期後半/Fall(2nd half) 153
【X3919】論文指導ⅤA（2016年度以前入学者）（代表シラバス）［経済学専攻教員］春学期授業/Spring 154
【X3920】論文指導ⅤB（2016年度以前入学者）（代表シラバス）［経済学専攻教員］秋学期授業/Fall 155

ECN501C1－1（経済学 / Economics 500）

経済学基礎Ａ

倪　彬

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済学では、経済活動の担い手である消費者や企業の行動を学び、それらを結びつける市場（しじょう）の役割について考えます。本講義では、ミクロ経済学の基礎的な概念、理論的枠組みを学ぶことを通じて、経済学的なものの見方や考え方を身につけていきます。ひいては、経済社会に対する洞察力、判断力を養うことを目指します。

【到達目標】
1. ある財の需要と供給を一致させる価格の調整メカニズムについて説明できる。
2. 市場の効率性を判断するための余剰分析について理解できる。
3. 経済学の基礎的な知見に基づき、市場における政府の役割について自分なりの意見を述べることができる。
4. 需要曲線と供給曲線がそれぞれどのように導かれているのかを説明できる。
5. 上記 1～4 をはじめとして、ミクロ経済学の基礎的な概念を理解し、重要な専門用語を適切に用いることができるとともに、適切な計算方法と関連付けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式により、言葉による直観的説明を重視しながら、基礎的な経済理論を解説します。講義ノートは事前にアップし、学生自分でダウンロードやプリントアットしてもらいます。
授業後演習問題を適宜に与えるので、それを通じて学生の理解度を高めてもらいます。
今年は対面（メイン）の形で進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロ	ミクロ経済学とは
第2回	需要と供給（1）	需要曲線
第3回	需要と供給（2）	供給曲線
第4回	市場均衡	価格調整メカニズム
第5回	市場の効率性と政府介入（1）	社会厚生と余剰分析
第6回	市場の効率性と政府介入（2）	課税がもたらす非効率性
第7回	市場の失敗と政府の役割（1）	外部性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習： 日頃から意識的に経済ニュースに触れるように努めてください。取っ掛かりとしては、以下で参考書として掲げる新書のような、一般向けに書かれた経済学の啓蒙書を手にとってみることもお勧めです。
事後学習： 前回までの講義内容を復習したうえで各回の講義に臨むようにしてください。
また、経済学に使う経済数学の演習（や復習）もしっかりやって貰いたいです。
必要な学習時間：目安として、4時間/回。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
古澤泰治・塩路悦朗 (2012) 『ベーシック経済学 – 次につながる基礎固め』、有斐閣
マンキュー経済学Ⅰ　ミクロ編（第3版）、東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】
授業内試験*（70点相当）、授業期間中に 2 回実施する宿題（15 点＋15 点＝計 30 点）によって評価します。試験問題は、講義中の小テストや宿題で扱った内容をベースに作成されます。
*補講日がもし必要であれば学生と相談して決めます。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
私語は慎むこと。
面談などはメールで事前にアポを取ってください: bin@hosei.ac.jp

【担当教員の専門分野等】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/105/0010453/profile.html

【Outline (in English)】
In this course we will study the basic concepts and frameworks of microeconomics.
The goal of this course is as follows:
1. How price adjusts demand and supply in the market.
2. Basic knowledge in surplus analysis.
3. Understand the role that government plays in the market.
4. How to derive demand the supply curve.
5. Understand the other basic concepts in microeconomics.
Work to be done outside of class:
It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule.
It is also important that students review the basic mathematics that is used in economics.Estimated time of study: 4 hours each time.
Grading critera:
The final written exam will cover 70% of the total score. Two homeworks will cover the rest 30%. The final exam will be based on homeworks and quiz problems given in the class.

ECN501C1－2（経済学 / Economics 500）

経済学基礎Ｂ

倪　彬

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
マクロ経済学では、一国の経済状況の重要な指標である総生産（GDP）や物価水準、利子率といった概念を学び、それらが決定されていく仕組みについて考えます。本講義では、マクロ経済学の基礎的な概念、理論的枠組みを学ぶことを通じて、経済学的なものの見方や考え方を身につけていきます。ひいては、経済社会に対する洞察力、判断力を養うことを目指します。

【到達目標】
1. 名目と実質、フローとストック、長期と短期の違いや三面等価の原則について説明できる。
2. 総生産や物価水準、利子率が決定される仕組みについて理解するとともに、経済学の基礎的な 知見に基づき、政府による財政政策や金融政策の効果を分析し、説明することができる。
3. 最近の日本・世界経済における重要な出来事を理解する。
4. 長期にわたる持続的経済成長の実現について、経済成長理論の基本モデルであるソロー・モデ ルから得られる含意を理解できる。
5. 上記 1～4 をはじめとして、マクロ経済学の基礎的な概念を理解し、重要な専門用語を適切に用 いることができるとともに、適切な計算方法と関連付けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
スライドを使って、講義形式により、言葉による直観的説明を重視しながら、基礎的な経済理論を解説します。
授業後演習問題を適宜に与えるので、それを通じて学生の理解度を高めてもらいます。
今年は対面（メイン）の形で進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロ	講義の概要、マクロ経済学とは
第2回	基本概念(1)	名目と実質GDP、三面等価の原則
第3回	基本概念(2)	各種マクロ経済指標とグラフの読み方
第4回	マクロ経済モデル入門	長期モデル
第5回	財市場の役割	45度線分析、IS曲線
第6回	貨幣市場の役割	貨幣・金融の機能、LM曲線
第7回	財政・金融政策の効果	流動性の罠

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習： 日頃から意識的に経済ニュースに触れるように努めてください。取っ掛かりとしては、以下で参考書として掲げる新書のような、一般向けに書かれた経済学の啓蒙書を手にとってみることもお勧めです。
事後学習： 前回までの講義内容を復習したうえで各回の講義に臨むようにしてください。
また、経済学に使う経済数学の演習（や復習）もしっかりやって貰いたいです。
必要な学習時間：目安として、4時間/回。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
斎藤誠他　(2016)　『マクロ経済学 新版』、有斐閣
古澤泰治・塩路悦朗 (2012) 『ベーシック経済学 – 次につながる基礎固め』、有斐閣
（※ 本講義で扱うのは第 II 部のみ）
マンキュー　マクロ経済学（第3版）1入門篇、東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】
授業内試験*（70点相当)、授業期間中に 2 回実施する宿題（15 点＋15 点＝計 30 点）によって評価します。
*補講日がもし必要であれば学生と相談して決めます。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/105/0010453/profile.html

【Outline (in English)】
We will learn the basic knowledge and frameworks of macroeconomics.
The goal of this course is as follows:
1. Tell the difference between nominal and real indicators,flow and stock, etc.
2. Explain the fiscal and financial policies made by the government.
3. Understand the important happenings in Japanese and world economy.
4. Understand Solow Model and its policy implications.
5. Understand the basice concepts in macroeconomics.
Work to be done outside of class:
It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule.
It is also important that students review the basic mathematics that is used in economics. Estimated time of study: 4 hours each time.
Grading criteria:
The final written exam will cover 70% of the total score. Two homeworks will cover the rest 30%. The final exam will be based on homeworks and quiz problems given in the class.

ECN504C1－1（経済学 / Economics 500）

実証経済学基礎Ａ

河村　真

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済学「生産者の理論」の中の要素需要に関する説明を理解する。あわせて、要素需要の説明から導かれる費用関数の理論的説明も理解する。さらに、費用関数を、現実のデータおよび統計学のソフトを用い、最小二乗法など計量経済学モデルの推定を行い、推定結果の評価を行う。

【到達目標】
導入科目として、ミクロ経済学の「生産者の理論」の生産要素需要の説明およびその延長線上にある費用関数に関する説明を復習し、理解する。さらに、費用関数の推定および規模の経済性の計測を実習を通じて行い、最小二乗推定量の基本的な理解とパネルデータを用いる際の推定結果の基本的な診断および改善に関する手続きを各自で行えるようにすること。併せて、費用関数の推定、仮説検定に用いる統計学ソフトstataの基本的なコマンドを使えるようになることおよび計測結果の出力を各自で行えるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、6回までは、オンライン授業で行う。この間の講義では、完全競争モデルの生産要素需要体系の説明とそれより派生する費用関数に関してのミクロ経済学の図解を用いた復習である。そのため、板書（電子ノート）を用いた説明となる。この間の質疑応答は、オンラインを通じて授業時間内に行います。第７回以降は主に実習授業である。そのため、対面で行います。ハイフレックスで行いますが、実習授業なので、なるべく対面で行いたい。
授業の内容の進め方について説明する。まず、ミクロ経済学の「生産者の理論」における生産要素需要の決定と費用関数の導出を解説する（主にミクロ経済学の復習）。公益事業のデータを用いて、ミクロ経済学の理論で提示されている費用関数と整合的な費用関数の推定を統計ソフトstataを計用いて体験してもらう。それに基づき、規模の経済性の計測値を求め、その計測値のミクロ経済学的な解釈を説明する。講義の目的は、簡単なミクロ経済学の理論を用いても、計量経済学による計測結果を政策的な課題の判断材料として提示できることを体感してもらうことにある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明と注意
第2回	費用関数および生産関数の計測を通じた応用軽量経済学の研究成果	規模・範囲の経済性の計測、代替弾力性の計測の過去のサーベイ
第3回	利潤最大化行動と生産要素需要関数	ミクロ経済学の「生産者の理論の復習」：利潤最大化行動に基づく生産要素需要の決定の解説
第4回	要素需要と要素価格フロンテイア	要素需要の決定と要素価格フロンテイアとの対応
第5回	費用関数の性質	要素需要関数と整合的な費用関数の性質
第6回	生産関数と双対な費用関数の性質と関数の特定化	生産関数と双対な費用関数の導出、費用関数の特定化に関する解説
第7回	費用関数の推定に用いる計量経済学（Ⅰ）	最小二乗推定量の基礎の復習（標準誤差、F-検定、t-検定の解説)
第8回	費用関数の推定に用いる計量経済学（Ⅰ）	最小二乗推定量の基礎の復習（標準誤差、F-検定、t-検定の解説)
第9回	費用関数の推定に用いる計量経済学（Ⅱ）	最小二乗推定量に基づく推定結果の改善（系列相関、分散不均一などの簡単な解説)
第10回	費用関数の推定・規模の経済性の計測の実習（Ⅰ）	計量経済学のソフトstataを用いた費用関数の推定および推定結果の問題点の検出
第11回	費用関数の推定・規模の経済性の計測の実習（Ⅰ）	計量経済学のソフトstataを用いた費用関数の推定および推定結果の問題点の検出
第12回	費用関数の推定・規模の経済性の計測の実習（Ⅱ）	fixed effects modelおよびrandom effects modelの推定さらに、規模の経済性の推定値の統計学的解釈
第13回	費用関数の推定・規模の経済性の計測の実習（Ⅱ）	fixed effects modelおよびrandom effects modelの推定さらに、規模の経済性の推定値の統計学的解釈
第14回	レポート作成指導	レポート作成の質問等に答える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。受講生より要請があれば、参考文献等含めて知らせる。

【参考書】
奥野正寛、鈴村興太郎『ミクロ経済学Ⅰ』（モダンエコノミックスシリーズ）岩波書店　計量経済学入門の教科書やそれ以外等は、講義中に示す。

【成績評価の方法と基準】
実習での費用関数に関わる推定及び検定のstataプログラミング作業に関する評価に40％及び期末レポートの評価に60％のウェイトを付け、評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
貸出ノートパソコン（stataインストール済み）、および、授業支援システムを利用する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 応用計量経済学
＜研究テーマ＞規制産業の規模の経済性、全要素生産性の計測
＜主要研究業績＞"Estimates of Optimal Public Capital Stocks in Japan Using a Public Investment Discount Rate Framework", Empirical Economics 24, 1999.（根本二郎氏、釜田公良氏と共著）
「大都市公営バス事業の密度の経済とサイズの経済の計測」『季刊理論経済学』44巻3号,pp,269-274,1993

【Outline (in English)】
This course introduces factor demand theory in microeconomics, cost function and elasticity substitution, estimating cost function by OLS, using STATA, and evaluating the extent of scale economy.
The goal of this course for students to acquire the basic understandings for factor demand theory, theoretical properties of cost function as summarizing factor demand system. Other goals of this course are to estimate cost function by econometric model(eg. OLS, fixed effects model, etc.) model using STATA programs, and evaluate the extent of scale economy.
Before/after class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.
Your overall grade will be decided based on the following
Mid-term report(for factor demand theory, and cost function theoretical properties):30%, Term-end report(for estimating results of cost function by STATA, evaluating results of the extent of scale economy, and statistical test result for scale economy):50%, and the quality of STATA programing performance in the class: 20%.

ECN504C1－2（経済学 / Economics 500）

実証経済学基礎Ｂ

河村　真

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済学の「消費者の理論」における財の需要関数に関する説明を理解する。個別の財の需要関数の導出の背後にある効用一定下の支出最小化行動およびその結果が集約された支出関数も併せて理解する。家計調査の都道府県県庁所在地別データなどを用い、支出関数の推定及び多財（10費目）支出体系の推定を実習を通じて行う。さらに、それらの推定に基づき、複数（10費目）の財の（自己および交差）価格弾力性および支出（所得）弾力性の計測も行う。これら作業を行う際に、統計学ソフトstataを用いて行うため、推定に必要なstataの基本的な操作も併せて取得する。複数の（10費目）財の価格・支出弾力性を計測するために必要な多財支出体系の特定化の例をいくつか紹介し、多財支出体系の推定に必要な計量経済学モデル(主に見かけ上無相関な回帰）も併せて理解する。

【到達目標】
導入科目として、ミクロ経済学の「消費者の理論」の説明およびその延長線上にある支出関数に関する説明を復習し、理解する。さらに、支出関数および支出関数から導かれる複数財の支出比率方程式の体系（AI需要体系）の推定および各財の自己･交差価格弾力性および支出弾力性の計測を統計学ソフトstataを利用した実習を通じて、これを行えるようになること。支出比率方程式を個別の財に限って最小二乗推定量に基づき推定した結果、見かけ上無相関な回帰推定量に基づき、複数の財の支出比率方程式を同時推定した推定結果を比較し、見かけ上無相関な回帰を用いる統計学上のメリットを理解する。
これらの作業に必要となる統計学ソフトstataの基本的なコマンドを使えるようになることおよび計測結果の出力を各自で行えるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、7回までは、オンライン授業で行う。この間の講義では、消費者の理論の複数の財の需要体系（需要関数群）体系の説明とそれより派生する支出関数に関してのミクロ経済学の図解を用いた復習である。そのため、板書（電子ノート）を用いた説明となる。この間の質疑応答は、オンラインを通じて授業時間内に行います。第７回以降は主に実習授業である。そのため、対面で行います。ハイフレックスで行いますが、実習授業なので、なるべく対面で行いたい。
授業の内容の進め方について説明する。まず、ミクロ経済学の「消費者の理論」における複数財の需要の決定と支出関数の導出を解説する（主にミクロ経済学の復習）。総務省『家計調査年報』、『消費者物価指数年俸』の県庁所在地別10費目のデータを用いて、ミクロ経済学の理論で提示されている支出関数とそれに整合的な10費目の支出比率方程式（AI需要体系）の推定を統計ソフトstataを利用いて体験してもらう。それに基づき、10費目の需要の自己・交差価格弾力性および支出弾力性の計測値を求め、その計測値のミクロ経済学的な解釈を説明する。(10費目の需要間の代替・補完関係の推測、各10費目の需要の上級財・下級財の分類の推測など)。この講義の目的は、簡単なミクロ経済学の理論を用いても、計量経済学による計測結果を政策的な課題の判断材料として提示できることを体感してもらうことにある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明と注意
第2回	消費者の予算制約下効用最大化行動と複数財の需要関数	ミクロ経済学の消費者の理論の複数財の需要関数の導出の理解
第3回	普通需要関数および補償需要関数の違い	普通需要関数および補償需要関数に基づく、（普通）需要の価格弾力性および補償された需要の価格弾力性、二つの価格弾力性の関係について理解
第4回	予算制約下の最大化行動に基づく複数財需要量決定と効用水準一定下の支出最小化行動に基づく複数財需要量決定の対応関係	効用関数および間接効用関数の双対性（対応関係）の理解
第5回	間接効用関数と支出関数の対応関係および支出関数の理論的な性質	間接効用関数およびそれから導かれる支出関数の理論的な性質の理解
第6回	多財支出体系の特定化例（Ⅰ）	線形支出体系(Linear Expenditure System)による特定化の紹介。これに基づく、価格弾力性および支出弾力性の評価式導出への理解
第7回	多財支出体系の特定化例（Ⅱ）	AI需要体系(Almost Ideal Demand System :複数財の支出比率方程式の体系）による特定化の紹介。これに基づく価格弾力性および支出弾力性の評価式導出への理解
第8回	多財支出体系（支出関数に基づく）の推定に用いる計量経済学（Ⅰ）	最小二乗推定量の基礎の復習（標準誤差、F-検定、t-検定の解説)、最小二乗推定量の問題（分散不均一性、複数式の誤差項間の相関の可能性）
第9回	多財支出体系の推定に用いる計量経済学（Ⅱ）	見かけ上無相関な回帰推定量の説明および理解
第10回	多財支出体系の推定・自己および交差価格弾力性および支出弾力性の計測の実習（Ⅰ）	計量経済学のソフトstataを用いた家計調査10費目の個別の支出比率方程式の最小二乗推定量に基づく推定をおこなう
第11回	多財支出体系の推定・自己および交差価格弾力性および支出弾力性の実習（Ⅱ）	計量経済学のソフトstataを用いた家計調査10費目の支出比率方程式を無かけ上無相関な回帰推定量に基づき同時推定を行う。
第12回	多財支出体系の推定・自己および交差価格弾力性および支出弾力性の実習（Ⅲ）	10費目の支出比率方程式個別推定と10費目支出比率方程式体系の同時推定の結果の比較により、最小二乗法に基づく単独推定の場合、各係数の標準誤差にバイアスの可能性あることを認識する。
第13回	多財支出体系の推定・自己および交差価格弾力性および支出弾力性の実習（Ⅳ）	見かけ上無相関な回帰推定量に基づきAI需要体系（10費目の支出比率方程式体系）の推定に基づき、標本平均での家計調査10費目の自己・交差価格弾力性および支出弾力性の計測。これら計測結果に基づく、10費目間の代替・補完関係の推測、10費目の上級財・下級財の分類を行う。
第14回	レポート作成指導	レポート作成の質問等に答える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書)】
特に定めず、各教員が参考文献を示す。

【参考書】
奥野正寛、鈴村興太郎『ミクロ経済学Ⅰ』（モダンエコノミックスシリーズ）岩波書店　計量経済学入門の教科書やそれ以外等は、講義中に示す。

【成績評価の方法と基準】
実習での多財支出体系に関わる推定及び検定のstataプログラミング作業に関する評価に40％及び期末レポートの評価に60％のウェイトを付け、評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
貸出ノートパソコン（stataインストール済み）、および、授業支援システムを利用する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 応用計量経済学
＜研究テーマ＞規制産業の規模の経済性、全要素生産性の計測
＜主要研究業績＞"Estimates of Optimal Public Capital Stocks in Japan Using a Public Investment Discount Rate Framework", Empirical Economics 24, 1999.（根本二郎氏、釜田公良氏と共著）
「大都市公営バス事業の密度の経済とサイズの経済の計測」『季刊理論経済学』44巻3号,pp,269-274,1993

【Outline (in English)】
The first aim of the course is to understand duality of budget constraint to utility maximizing problem and utility constraint to expenditure minimizing problem for determining multiple commodity demands. By using this duality, expenditure function could be derived at the function from certain utility function. Based on specifying this expenditure function, for 10 expenditure items, 10 expenditure share equations could be specified. (specification on AI demand system). From "Japanese Household Expenditure Survey", by 10 expenditure item and prefectural capital city, expenditures and price indeces could be acquired. The AI demand system estimation is conducted by STATA. Finally, we could estimate own-cross price elasticities on 10-item expenditure demands and expenditure elasticities on demands. Then, on these estimations, we could guess the relationships(substitute or complement) among 10-expenditure item demands.

ECN512C1－1（経済学 / Economics 500）

経済史Ａ

進藤　理香子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか)】
19世紀半ばから現代に至るアジアとヨーロッパの相互関係について、とりわけ日本とドイツの関係に焦点をあてつつ、社会経済史的に考察する。日本の近代化と帝国主義化における欧州の影響、二度の世界大戦、冷戦体制、高度経済成長、そして21世紀の現代に至る日欧の相互関係、そのアジア諸国への影響などについて学習する。

【到達目標】
・文献や史料を解読し、自ら考え理解し、論証する力を養う。
・日本とドイツ間の問題に限定せず、アジア・ヨーロッパ間というより大きな枠組と比較しながら考察できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
対面授業とオンライン（Zoom）授業を行う。教員による講義、学生によるテキスト輪読、史料解読、研究報告から構成される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期の導入	講義計画に関する説明と学生の報告順などを調整する。
第2回	19世紀後半の日本とドイツ①	日本・プロイセン修好通商条約について文献・史料を読み、討論。
第3回	19世紀後半の日本とドイツ②	岩倉遣欧使節団、殖産興業、富国強兵について文献・史料を読み、討論。
第4回	19世紀後半の日本とドイツ③	日本とドイツの憲法制定、社会制度に関する文献・史料を読み、討論。
第5回	帝国主義と植民地進出①	欧州諸国のアジア進出について文献・史料を読み、討論。
第6回	帝国主義と植民地進出②	日本による東アジア進出について文献・史料を読み、討論。
第7回	第一次世界大戦	日独間の青島をめぐる戦い、俘虜収容所などについて文献・史料を読み、討論。
第8回	戦間期から第二次世界大戦①	日独の接近と東アジアをめぐる諸問題について文献・史料を読み、討論①。
第9回	戦間期から第二次世界大戦②	日独の接近と東アジアをめぐる諸問題について文献・史料を読み、討論②。
第10回	終戦と連合国占領政策	日本とドイツの敗戦、占領政策、復興について文献・史料を読み、討論。
第11回	冷戦体制と高度経済成長	日本と西ドイツの高度経済成長期の関係について文献・史料を読み、討論。
第12回	冷戦下の東側陣営との関係	日本と東ドイツの関係について文献・史料を読み、討論。
第13回	東西ドイツ再統一から現代まで①	日本と再統一後のドイツとの関係について文献・史料を読み、討論。
第14回	東西ドイツ再統一から現代まで②	現代の日本・EU関係が直面する諸問題について文献・史料を読み、討論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書)】
テキストは授業内および学習支援システム上で指示・配布する。

【参考書】
福岡万里子『プロイセン東アジア遠征と幕末外交』東京大学出版会、2013年.
工藤章・田嶋信雄 編『日独関係史：一八九〇-一九四五』（第１巻：総説東アジアにおける邂逅；第２巻：枢軸形成の多元的力学；第３巻：体制変動の社会的衝撃）、東京大学出版会、2008年.
工藤章・田嶋信雄 編『戦後日独関係史』東京大学出版会、2014年.
熊野直樹・田嶋信雄・工藤章編『ドイツ=東アジア関係史一八九〇-一九四五 ： 財・人間・情報』九州大学出版会、2021年.

【成績評価の方法と基準】
平常点（50％)、期末レポート（50％)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業が受けれるように、パソコンとインターネット接続が確保できることを前提とする。また学習支援システム上で連絡や資料を配布する。

【担当教員の専門分野等】
担当教員の分野・業績については以下参照。https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/102/0010191/profile.html?lang=ja

【Outline (in English)】
This lecture studies the economic, social and political relationships between East Asia and Europe from the 19th century to the 21st century with a special focus on Japanese-German relations.
Lecture (two-credits): Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on the following performances: in-class contribution (50%) and a term-end report (50%).

ECN512C1－2（経済学 / Economics 500）

経済史Ｂ

杉浦　未樹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1500年から2000年までの世界経済の長期的な発展を「地域間格差—大分岐」、「交易」、「工業化」、「労働編成」、「環境史」などの大テーマを軸に学ぶ。前期となる経済史Aでは、経済発展の概略をつかむため、大分岐論および世界経済と交易の関わり、東アジアとアフリカ経済の長期的な発展について、最新の学説動向を学ぶ。

【到達目標】
1500年から2000年までの経済史の重要テーマを網羅して捉えられるようになる。
諸地域の経済発展の歴史動向の比較分析ができるようになる。
一つのテーマについて、日本語と英語の概説書を読み、最新の研究動向を知る。
日本語、英語のテキストの要点を整理し、発表するスキルを得る。
文献から論点を出し、討論できるようになる。
経済発展をめぐるテーマについて、研究文献を整理し、自分の問題視角が抽出できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
最初にテキストの割り当てを行う。受講者は担当分の要約報告と問題提起を行う。授業ではそれをもとに議論する。授業後半は、受講者は関心のあるテーマを選択し、それについて主要文献を整理し、研究動向を論述する演習を行う。講師からフィードバックを重ねることによって、論述スキルを向上させるように授業をすすめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入：なぜ経済の発展を学ぶのにグローバルな視点が必要なのか。	グローバル・エコノミック・ヒストリーの研究の視点を概略する。コースの到達目標と計画を説明する。
第2回	世界経済発展の見取り図と大分岐論（１）	人口・所得・地域格差のマクロ動向を説明したあと、テキスト（河崎他4章、2章、一部）の論点発表をもとに討論
第3回	世界経済発展の見取り図と大分岐論（２）	ポメランツの大分岐論争について、テキスト（Roy and Riello 第一章、北川他第2章）の論点発表をもとに討論
第4回	交易と世界経済の一体化（16～18世紀）（１）	ユーラシア大陸とアメリカ大陸の接合がもたらした世界交易の変化について討論
第5回	交易と世界経済の一体化（16～18世紀）（２）	交易と世界経済の一体化について討論
第6回	交易と世界経済の一体化（19世紀）（１）	長い19世紀における交易の制度的枠組みの変化についてテキスト（河崎他第6～7章）の論点発表をもとに討論
第7回	交易と世界経済の一体化（19世紀）（２）	19世紀～20世紀のグローバルな商品連鎖の成立について、テキスト（Roy and Riello 第12章）の論点発表をもとに討論
第8回	世界経済のなかの東アジア（１）	東アジアの17世紀～20世紀の経済発展について、グローバル化との関連に留意しながらテキスト（北川他第5章、河崎他11, 12章一部）の論点発表を行い討論する。
第9回	世界経済のなかの東アジア（２）	前回に引き続き、東アジアの経済発展を世界経済の動向の中に位置付けられるように、テキスト（Roy and Riello 第16章）の論点発表を行い討論する。
第10回	最終レポートの説明	最終レポートはテーマを自分で選んで研究動向を書く課題である。構成、書式、文献の検索方法、引用方法などを説明する
第11回	世界経済のなかのアフリカ（１）	アフリカの経済発展を世界経済の動向の中に位置付けるため、論点報告をもとに討論する
第12回	世界経済のなかのアフリカ（２）	前回に引き続きアフリカ経済の世界経済との関わりについて論点報告をもとに討論する。
第13回	最終レポートの発表とフィードバック	受講者はそれぞれ研究動向レポートを発表する。それに対してフィードバックを行う。
第14回	授業の総括とレポートの最終確認	コース全体を振り返り何を学んだか総括する。提出レポートの最終確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
輪読テキストの精読、論点発表の準備および最終課題レポートの準備（文献調査、アウトライン作成、執筆）のため、準備学習を必要とする。通常授業の準備復習に2時間、論点発表準備に2－3時間、最終課題レポートの準備に10時間程度の授業時間外学習が必要となる。

【テキスト（教科書）】
河崎信樹、村上衛、山本千映『グローバル経済の歴史』有斐閣、2020年
T.Roy and G. Riello, Global Economic History, Bloomsbury Academic, 2019.
北川勝彦、北原聡、西村雄志、熊谷幸久、柏原広樹『概説世界経済史—改訂版』昭和堂、2022年。
水島司、島田竜登『グローバル経済史』放送大学出版会、2018年。

【参考書】
杉原薫『世界史の中の東アジアの奇跡』名古屋大学出版会、2020年。
ポメランツ（川北稔訳）『大分岐—中国、ヨーロッパ、そして近代世界経済の形成』名古屋大学出版会、2015年。

【成績評価の方法と基準】
隔週ごとに和文テキストの短いセクションの論点発表、コースを通して1回か2回英語テキストの論点発表を分担する。そのレジュメと発表方法を評価する。これらに対するものが授業評価の40％を占める。最終課題として研究動向をまとめたレポートを課する。このレポートへの取り組みと発表と最終成果物に対する評価が、授業評価の50％とする。残りの10％は授業における討論への参加度を平常点として評価する。
授業への出席は単位取得の前提条件とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
春学期と秋学期を合わせて履修するとより総合的な知識とスキルが身につきますが、別々に受講することも可能です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
世界経済史、
＜研究テーマ＞
18～20世紀の繊維品の発展と世界的流通
都市における商品流通と地域ネットワークの形成
女性と財産形成
＜主要研究業績＞

The urban logistic network. Cities, transport and distribution in Europe from the Middle Ages to the Modern Times（共編著）Palgrave, 2019; 'The Mass consumption of refashioned clothes: Re-dyed kimono in post war Japan' in Business History,61-1; 'Coolies' Hats. Chinese Coolie Hats: Global Dialogues on a Sign of Servitude, c. 1840-1940', C.Breward,B.Lemire, G.Riello eds., The Cambridge History of Fashion , Cambridge UP, 2022.

【Outline (in English)】
（Course outline）This course introduces theories and current debates of Global Economic History. It also enhances students' advanced skills for academic writing.
At the end of the course, students are expected to be able to compare economic development from comparative and global perspectives, as well as gain academic skills for writing elaborated historiography on themes on economic development.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours for reading texts and preparing for presentations. For the last assignment students will need to spend more than 10hrs for writing a report.
Students' overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end report:50%、Class presentations : 40%、in class contribution:10%.

ECN515C1－1（経済学 / Economics 500）

計量経済学Ａ

明城　聡

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
計量経済学の基礎と標準的な分析手法の習得

【到達目標】
統計学の基礎を復習するとともに計量経済学で用いられる手法の理論を学ぶ。特に古典的回帰モデルの推定方法と検定について学ぶとともに、必要となる仮定が成り立つかどうかを判断できる知識をつける。また仮定が成り立たない場合の対応方法についても学習する。（本講義は計量経済学の理論を学ぶので、実際にデータを使った分析を学ぶには合わせて「応用計量経済学」を履修することが望ましい）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は配布資料や教科書を用いた通常の講義形式で行う。また適宜、練習問題や宿題を行うことで講義内容の理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業内容の紹介 ・成績評価
第2回	統計学の復習(1)	・確率の概念 ・確率変数と離散型確率分布
第3回	統計学の復習(2)	・期待値オペレータ ・結合確率分布
第4回	統計学の復習(3)	・連続型確率変数 ・母集団、標本、母数 ・標本抽出
第5回	統計学の復習(4)	・標本平均の統計的性質 ・推定と推定量の性質
第6回	計量経済学の基礎(1)	・計量経済学とは ・最小二乗法(1)：データの整理、最小二乗法と回帰直線
第7回	計量経済学の基礎(2)	・最小二乗法(2)：回帰直線の当てはまりの尺度、計算手順のまとめ
第8回	計量経済学の基礎(3)	・単純回帰分析(1)：単純回帰モデル、推定量の期待値と分散、最良線形不偏推定量と一致性
第9回	計量経済学の基礎(4)	・単純回帰分析(2)：推定量の分散の推定、単回帰モデルの仮説検定、変数選択とt検定
第10回	計量経済学の基礎(5)	・重回帰分析(1)：多重回帰分析、多重回帰分析の推定値の解釈、多重共線性
第11回	計量経済学の基礎(6)	・重回帰分析(2)：自由度調整済み決定係数、変数の過不足とその影響、定数項を持たない回帰モデル、
第12回	計量経済学の基礎(7)	・モデルの関数形と特殊な変数
第13回	計量経済学の基礎(8)	・F検定と構造変化の検定
第14回	計量経済学の基礎(9)	・標準的仮定の意味と不均一分散

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義資料を配布する。

【参考書】
・J. H. Stock and M. W. Watson, Introduction to Econometrics, 4th eds., Pearson
・浅野晳・中村二郎「計量経済学」第2版、有斐閣

【成績評価の方法と基準】
・期末試験(100%)

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
実証産業組織論、応用統計学
＜研究テーマ＞
企業合併、規制緩和、および政府補助金等の効果についての構造推定と統計的分析手法の開発
＜主要研究業績＞
1.　On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available, International Economic Review, Vol.53, no.3, pp.887-937, 2012.
2.　Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: The Case of Solar Photovoltaic Systems in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, vol.48, pp.55-67, 2018.

【Outline (in English)】
Standard basic econometrics is covered in this course. Students are required to master basic statistics and econometric skills and utilize them to well understand the empirical data analysis.
Students also learn the potential problems of applying the classical linear regression models based on the standard assumptions to the observed economic data.
Preparation and review: 2hours including homework assignments
Grading: term exam 100%

ECN515C1－2（経済学 / Economics 500）

計量経済学Ｂ

池上　宗信

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
計量経済学Aでは、回帰分析およびその基礎となる統計学を学んだ。
計量経済学Bでは、回帰分析の続きとして、ミクロ計量経済学の理論・手法を学ぶ。
重回帰分析だけでは欠落変数バイアスを除去しきれない場合、相関ではなく因果を調べる場合を考察する。
それらの場合のための手法として、固定効果、操作変数法、差の差の分析、Regression Discontinuity Designを学ぶ。
被説明変数が連続変数ではなく2値変数・離散変数の場合、センサリング、サンプル・セレクションがある場合の回帰分析の手法も学ぶ。

【到達目標】
各自の研究分野で、この講義で学んだ実証分析手法を用いた論文が出てきたときに、手法がわからないことが原因でつまづかないようになる。
実証分析手法を考慮しながら、各自の論文の問、アイデアを探すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
各講義前の課題として、各自、教科書のうち、リーディング・アサイメントとして指定された部分を読む。
各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づく。
授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問する。
授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをする。
演習問題、試験には統計計算ソフトRを用いた問題が含まれる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	単回帰	相関、因果、推定、検定、不均一分散、クラスターに対して頑健な標準誤差
第2回	重回帰	外生性、内生性、欠落変数バイアス、ランダム化比較試験、変数選択
第3回	操作変数法1	2段階最小2乗推定量
第4回	操作変数法2、固定効果1	操作変数の強さの検定、パネルデータ
第5回	固定効果2	2方向固定効果、固定効果操作変数法
第6回	差の差の分析	並行トレンドの仮定、時間差介入
第7回	まとめと復習、中間試験	第1回から第6回までの内容を復習、中間試験
第8回	2値選択	プロビット・モデル、ロジット・モデル
第9回	多項選択	順序付プロビット・モデル、順序付ロジット・モデル、多項ロジット・モデル
第10回	センサリング、セレクション	トービット・モデル、ヘキット・モデル
第11回	ノンパラメトリック回帰	局所平均、局所回帰、局所線形回帰
第12回	Regression Discontinuity Design	連続性条件、条件付き平均トリートメント効果
第13回	Fuzzy Regression Discontinuity Design	カットオフにおいて、トリートメントを受ける確率のジャンプが1より小さい場合
第14回	まとめと復習、期末試験	第8回から第13回までの内容を復習、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義スライドの基となっている20ページほどの文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読む。
授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。

【参考書】
西山慶彦、新谷元嗣、川口大司、奥井亮(2019)『計量経済学』有斐閣
星野匡郎、田中久稔、北川梨津（2023）『Rによる実証分析 回帰分析から因果分析へ 第2版』オーム社
Hansen, B. (2022) Econometrics, Princeton University Press
Stock, J. H. and Watson, M. M. (2020) Introduction to Econometrics, 4th edition, Pearson
Wooldridge, J. (2020) Introductory Econometrics: A Modern Approach, 7th edition, Cengage

【成績評価の方法と基準】
中間試験40％、期末試験40％、平常点20％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
担当教員が本講義を担当するのは今年度が初めてです。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
開発ミクロ経済学
＜研究テーマ＞
家計の異時点間の意思決定と貧困動学
東アフリカ乾燥地におけるインデックス型家畜保険
＜主要研究業績＞
“Can Insurance Alter Poverty Dynamics and Reduce the Cost of Social Protection in Developing Countries?” Journal of Risk and Insurance, 88(2), pp. 293-324. 2021.
“Does Index Insurance Crowd In or Crowd Out Informal Risk Sharing? Evidence from Rural Ethiopia.” American Journal of Agricultural Economics, 101(3), pp. 672-691. 2019.
“Poverty Traps and the Social Protection Paradox” in C. B. Barrett, M. R. Carter and J.-P. Chavas eds. The Economics of Poverty Traps, chapter 6, pp.223-256. University of Chicago Press. 2019.

【Outline (in English)】
< Course outline >
We studied Statistics and regression analysis in Econometrics A.
We will study Micro-Econometrics as the 2nd part of regression analysis.
When we cannot remove omitted variable bias with a basic multiple regression, we can use panel data and fixed effect estimation.
When we pursue causality rather than correlation, we can use instrument variable method, difference-in-difference analysis, and regression discontinuity design.
We will study regression analysis when the dependent variable is a binary or discrete variable rather than a continuous variable and when there is censoring and sample selection.
< Learning Objectives >
We will try to become able to understand the empirical methods in journal articles. We will try to become able to look for a research paper idea keeping the empirical methods in our minds.
< Learning activities outside of classroom >
Before each class, we will read assigned article, on which class slides are based.

After each class, if needed, we will review class materials by ourselves.
We expect 2 hours for preparing for each class and 2 hours to review class materials by ourselves after class.
< Grading Criteria/Policies >
We will make class grade based on the following factors and weights: mid-term exam 40%; end-term exam 40%; participation 20%.

ECN511C1－1（経済学 / Economics 500）

社会経済学Ａ

森本　壮亮

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、『資本論』第１巻内容を中心に、マルクス経済学分野の近年の著作や論文を読んでいくことで、マルクス経済学の基礎理論と近年の研究動向を知り、修士論文執筆にむけての準備を行うことを目的とします。

【到達目標】
マルクス経済学の近年の研究動向を知ることで、それぞれの学生が自分なりのマルクス経済学的分析をできるようになることが到達目標です。
具体的には、『資本論』第1巻内容の労働、貨幣、未来社会といった、これまで研究がよく行われてきた分野について、どのようなことが論点になってきて、どのような議論がされてきたのかを学ぶことで、これまでの先行研究の延長上にオリジナルな修士論文を書くことができるようにするのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストの輪読とそれに関わる討論、そして各自の研究発表とそれに関わる討論も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	各自の自己紹介と研究の方向性について
第2回	日本経済が抱える問題について	テキスト第1講の輪読
第3回	労働時間と過労死問題について	テキスト第2講の輪読
第4回	技術革新について	テキスト第3講の輪読
第5回	商品・貨幣論について	テキスト第4講の輪読
第6回	労働力の再生産について	テキスト第5講の輪読
第7回	生産システムの展開について	テキスト第6講の輪読
第8回	雇用問題について	テキスト第7講の輪読
第9回	グローバル化について	テキスト第8講の輪読
第10回	人間発達論について	テキスト第9講の輪読
第11回	未来社会論について	テキスト第10講について
第12回	テキスト全体のまとめ	テキスト全体に関する討論
第13回	個人研究発表（１）	修士論文の構想や草稿などについて
第14回	個人研究発表（２）	修士論文の構想や草稿などについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・テキストの輪読にあたり、各章を事前に読んでくるとともに、各章の担当者はレジュメを作成する必要があります。
・各回の内容に関する統計データを準備してもらうことがあります。
・授業後は、各章の内容に関わるテーマの書籍や論文を読んで、理解を深める必要があります。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
基礎経済科学研究所（編）『時代はまるで資本論』昭和堂、2008年。

【参考書】
K.マルクス『資本論』新日本出版社版もしくは大月書店版。
富塚良三・服部文男・本間要一郎（編）『資本論体系』各巻、有斐閣。

【成績評価の方法と基準】
担当箇所のレジュメ作成(60%)
毎回の議論等への参加度(40%)

【学生の意見等からの気づき】
本年度より授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞価値論・利潤率低下論
＜研究テーマ＞転形問題論争・利潤率の傾向的低下法則
＜主要研究業績＞
『変容する日本経済―真に豊かな経済・社会への課題と展望』（共編）鉱脈社、2022年。
「『資本論』解釈としてのNew Interpretation」『季刊経済理論』第51巻第3号、2014年。
「利潤率の傾向的低下法則と日本経済―置塩定理を中心にして」『桃山学院大学経済経営論集』第57巻第3号、2016年。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course introduces basic theories and current debates of Marxian economics mainly on the volume I of *Capital*. It also enhances students' advanced skills for academic writing.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students are expected to be able to analyze issues over the volume I of *Capital* on their own viewpoints.
（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours for reading texts and preparing for presentations.
（Grading Criteria /Policy）
Students' overall grade in the class will be decided based on the following: Class presentations : 60%､in class contribution:40%.

ECN511C1－2（経済学 / Economics 500）

社会経済学Ｂ

森本　壮亮

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、『資本論』第１巻内容に加えて第2巻・第3巻内容も含めて、マルクス経済学分野の近年の著作や論文を読んでいくことで、マルクス経済学の基礎理論と近年の研究動向を知り、修士論文執筆にむけての準備を行うことを目的とします。

【到達目標】
マルクス経済学の近年の研究動向を知ることで、それぞれの学生が自分なりのマルクス経済学的分析をできるようになることが到達目標です。
具体的には、労働、貨幣、価格、利潤率、地代といった、『資本論』全体に関わるこれまで研究がよく行われてきた分野について、どのようなことが論点になってきて、どのような議論がされてきたのかを学ぶことで、これまでの先行研究の延長上にオリジナルな修士論文を書くことができるようにするのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストの輪読とそれに関わる討論、そして各自の研究発表とそれに関わる討論も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	各自の自己紹介と研究の方向性について
第2回	日本経済が抱える課題について	テキスト序章
第3回	日本の労働時間問題について	テキスト第1章
第4回	技術進歩について	テキスト第2章
第5回	貧困問題について	テキスト第3章
第6回	人口問題について	テキスト第4章
第7回	商品と貨幣について	テキスト第5章
第8回	搾取論について	テキスト第6章
第9回	雇用問題について	テキスト第7章
第10回	再生産論について	テキスト第8章
第11回	利潤率の傾向的低下法則について	テキスト第9章
第12回	利子・信用論について	テキスト第10章
第13回	地代論について	テキスト第11章
第14回	ベーシックインカムについて	テキスト終章

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・テキストの輪読にあたり、各章を事前に読んでくるとともに、各章の担当者はレジュメを作成する必要があります。
・各回の内容に関する統計データを準備してもらうことがあります。
・授業後は、各章の内容に関わるテーマの書籍や論文を読んで、理解を深める必要があります。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
基礎経済科学研究所（編）『時代はさらに資本論 ―資本主義の終わりのはじまり―』昭和堂、2021年

【参考書】
K.マルクス『資本論』新日本出版社版もしくは大月書店版。
富塚良三・服部文男・本間要一郎（編）『資本論体系』各巻、有斐閣。

【成績評価の方法と基準】
担当箇所のレジュメ作成(60%)
毎回の議論等への参加度(40%)

【学生の意見等からの気づき】
本年度より授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 価値論・利潤率低下論
＜研究テーマ＞ 転形問題論争・利潤率の傾向的低下法則
＜主要研究業績＞
『変容する日本経済―真に豊かな経済・社会への課題と展望』（共編）鉱脈社、2022年。
「『資本論』解釈としてのNew Interpretation」『季刊経済理論』第51巻第3号、2014年。
「利潤率の傾向的低下法則と日本経済―置塩定理を中心にして」『桃山学院大学経済経営論集』第57巻第3号、2016年。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course introduces basic theories and current debates of Marxian economics not only on the volume I but also on volumes II and III of *Capital*. It also enhances students' advanced skills for academic writing.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students are expected to be able to analyze issues over Marx's *Capital* on original viewpoints.
（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours for reading texts and preparing for presentations.
（Grading Criteria /Policy）
Students' overall grade in the class will be decided based on the following: Class presentations : 60%、in class contribution:40%.

ECN514C1 − 1（経済学 / Economics 500）

マクロ経済学Ａ

宮﨑　憲治

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
動学を中心にしたマクロ経済学の基本手法を、大学院での国際標準とされるテキストを用いて学ぶ。

【到達目標】
大学院レベルのマクロ経済学で最も重要な手法である動学モデルの基本的な解法を理解し、基本的な動学モデルを解くことができる。さらに、動学モデルをもちいて、経済成長、研究開発活動による知識創造、世界各国の所得格差などを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
アメリカの大学院でも修士1年生が勉強している標準的なテキストであるRomer（2018）の前半部分（1〜4章）に沿って講義します。数式によるモデルの分析とともに、現実の経済への応用や実証分析の紹介も行います。また、学生の理解を助けるために、毎回の授業後に簡単な練習問題を課し、次回の授業で解法の解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ソロー成長モデルの基礎	基本的な経済成長モデルの分析手法
第2回	ソロー成長モデルの応用	ソローモデルを使った分析
第3回	ソロー成長モデルの実証分析	ソローモデルの実証分析の紹介
第4回	無限期間モデル（ラムゼイ・モデル）	家計と企業の行動を組み入れたラムゼイ・モデルの解説
第5回	無限期間モデルによる分析	ラムゼイ・モデルを使った分析
第6回	無限期間モデルによる応用と実証分析	ラムゼイ・モデルの応用分析と実証分析の紹介
第7回	中間試験	前半授業の理解の確認
第8回	内生的成長モデル：基本モデル	基本的な内生的成長モデルの解説
第9回	内生的成長モデル：R&D活動とは	知識の性質とR&D活動
第10回	内生的成長モデル：ローマー・モデル	ローマー・モデルの解説
第11回	内生的成長モデル：実証分析	内生的成長モデルの実証的な証拠
第12回	国家間所得格差	国家間所得格差の紹介
第13回	重複世代モデル	重複世代モデルの解説
第14回	期末試験	後半授業の理解の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを読んでから講義に向かい、授業後に復習すると効果的です。毎回簡単な練習問題を出すので、講義の後に解いて理解を深めてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
David Romer, “Advanced Macroeconomics, 5th edition”, McGraw-Hill　Irwin, 2018
（第3版の翻訳：デビッド・ローマー著『上級マクロ経済学、原著第3版』日本評論社、2010年）講義は第5版に沿って行いますが、第3版の翻訳本でもほぼカバーできます。

【参考書】
テキストで紹介される論文などを、講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的参加による平常点（20％）＋中間試験（40％）＋期末試験（40％）

【学生の意見等からの気づき】
講義内容が盛りだくさんになると内容が良く理解できない学生がいるため、内容を絞って、余裕を持って講義を行う。また、毎回簡単な練習問題を課し、授業の冒頭で解説を行うことで理解を確認しながら進む。

【担当教員の専門分野等】
マクロ経済学・計量経済学

【Outline (in English)】
· Students learn the basic methods of advanced macroeconomics focuses on dynamics using international standard textbooks in graduate school.
· At the end of this course, students are expected to understand the basic solution of the dynamic macroeconomic model and be able to solve the basic dynamic macroeconomic model. In addition, students will understand economic growth and income disparities around the world using the dynamic model.
· Students will be expected to read the textbook, and review after class. In addition, students will be expected to solve the simple exercise questions after the lecture to deepen their understanding. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
· Final grade will be calculated according to: midterm exam (40%), Final exam (40%), and in-class contribution (20%)

ECN514C1 – 2（経済学 / Economics 500）

マクロ経済学Ｂ

八木橋　毅司

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業ではマクロ経済学の中級講座で学んだ知見を足がかりに、上級向けのマクロ経済学の理論を学習します。また、マクロ経済データの基礎知識を身につけ、最近の新聞記事などで取り上げられた経済関連のトピックスを理論、データの両面から分析する視点を身につけます。

【到達目標】
・短期と長期における経済問題の性質の違いについて論理的に説明できる
・動学モデルの基本的な解法を理解し、基本的な動学モデルを解くことができる。
・レポート執筆の際に有用なマクロ経済モデルの基礎を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期I期に開講しますが、秋学期の「マクロ経済学Ａ」の知識は前提としません。アメリカの学部３・４年生および修士1年生が勉強している標準的なテキストであるRomer (2018)の5章および8章に沿って講義します。数式によるモデルの分析とともに、現実の経済への応用や実証分析の紹介も行います。
また授業形態につきましては対面７回・オンライン７回の組み合わせとし、各講義回の形態については学習支援システムを通じてその都度事前に通知します。対面回についても希望者にはハイフレックス形式のオンライン受講を認めます。（ただし試験日は対面のみ可）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	オリエンテーション、学術論文の読み方について
第2回	消費	恒常所得仮説、ランダム・ウォーク仮説、オイラー方程式
第3回	消費	消費CAPMモデル、予備的貯蓄
第4回	消費	ベルマン方程式
第5回	消費	演習
第6回	リアル・ビジネス・サイクルモデル	景気循環の基礎知識、関連文献紹介
第7回	学生発表	学生発表（前半）
第8回	学生発表	学生発表（後半）
第9回	リアル・ビジネス・サイクルモデル	生産の導入
第10回	リアル・ビジネス・サイクルモデル	労働供給の導入
第11回	リアル・ビジネス・サイクルモデル	RBCモデルのインプリケーション
第12回	リアル・ビジネス・サイクルモデル	RBCモデルの評価
第13回	リアル・ビジネス・サイクルモデル	演習
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
David Romer, Advanced Macroeconomics, 5th edition, McGraw-Hill Irwin, 2018

【参考書】
蓮見「動学マクロ経済学へのいざない」、2020年
G. マンキュー（著）『マクロ経済学１：入門編』東洋経済新報社、2017年
G. マンキュー（著）『マクロ経済学２：応用編』東洋経済新報社、2018年

【成績評価の方法と基準】
期末試験40％、課題40%、クラス参加20%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン、タブレット、スマホのいずれかを常時持参してください。

【担当教員の専門分野等】
詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください
https://sites.google.com/site/takeshiyagihashi/

【主要業績】
"Intertemporal Elasticity of Substitution with Leisure Margin" (with Juan Du), Nov. 2023, Review of Economics of the Household, 21, 1473-1504.
"How Do the Trans-Pacific Economies Affect the US? An Industrial Sector Approach" (with David Selover), Oct. 2017, The World Economy , 40(10), 2097-2124.
“Goods-Time Elasticity of Substitution in Health Production” (with Juan Du), Oct. 2017, Health Economics, 26(11), 1474-1478.
“Health Care Inflation and Its Implication for Monetary Policy” (with Juan Du), Mar. 2015, Economic Inquiry, 53(3), 1556-1579.
“Are DSGE Approximating Models Invariant to Shifts in Policy?” (with Timothy Cogley) Jan. 2010, The B.E. Journal of Macroeconomics, 10(1) (Contribution), Article 27, 1-31.

【Outline (in English)】
Students learn the basic methods of advanced-level macroeconomics. We use calculus as the tool for generating predictions about aggregate output, prices, and market interest rates. At the end of this course, students are expected to understand the basic solution of the dynamic macroeconomic model and be able to solve the basic dynamic macroeconomic model. Methods on how to interpret data on national income and other relevant macroeconomic variables are also studied.
【Learning Activities Outside of Classroom】
Four hours preview/four hours review per class
【Grading Criteria/Policy】
Final Exam: 40%, Assignment: 40%、Class Participation: 20%

ECN513C1－1（経済学 / Economics 500）

ミクロ経済学Ａ

鈴木　豊

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、「ゲーム理論」を学習する。ゲーム理論は、経済主体間の「戦略的相互依存関係」を分析対象とし、企業間競争、契約問題、国際貿易、国際環境問題など、幅広く経済問題の分析に応用されており、ミクロ経済分析の中で重要なツールとなっている。本講義では、大学院生が今後、経済問題の分析ツールとしてゲーム理論を用いることができるよう、基本的なゲーム理論の原理と手法を習得する。なお、本講義は、博士課程への進学を希望する学生への研究基礎力となる内容を提供するものでもある。

【到達目標】
完備情報の静学ゲームと動学ゲームを理解することが主要目的となる。不完備情報ゲームは、完備情報ゲームの応用として位置付けることができるので、ゲーム理論とその応用を修得する上で、まずは完備情報ゲームをしっかりと理解することが重要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書のギボンズ（1992,2020）に沿って、完備情報の静学・動学ゲームを中心に講義する。本書に掲載されていない事柄や練習問題を扱う場合には、別途、資料を配布する。なお本講義は、原則、教室にて対面で行い、また連絡や資料配布は、学習支援システム（HOPPII）上で行っていくので、確認を怠らないこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ゲーム理論とは？	ゲーム理論入門(ゲーム理論の位置づけ、導入的解説)
2	完備情報・静学ゲーム	標準型ゲーム、支配戦略、戦略の支配関係、支配される戦略の逐次消去
3	完備情報・静学ゲーム	最適反応とナッシュ均衡、ナッシュ均衡とパレート効率性
4	完備情報・静学ゲーム	寡占市場分析への応用(市場均衡理論の復習、クールノー寡占と独占市場)
5	完備情報・静学ゲーム	寡占市場への応用(同質財と異質財のベルトラン寡占)
6	完備情報・静学ゲーム	その他の応用(共有地の悲劇、（簡単な）オークション)
7	完備情報・静学ゲーム	混合戦略ナッシュ均衡とその応用
8	完備情報・動学ゲーム	完備完全情報ゲーム、逆向き推論、部分ゲーム完全なナッシュ均衡
9	完備情報・動学ゲーム	応用(シュッタッケルベルグ寡占、最後通牒型交渉ゲームとその展開)
10	完備情報・動学ゲーム	完備不完全情報ゲーム、サブゲーム完全性、応用(銀行取付)
11	完備情報・動学ゲーム	応用(関税と不完全国際競争、トーナメント)
12	完備情報・動学ゲーム	繰り返しゲーム・基礎
13	完備情報・動学ゲーム	繰り返しゲーム・応用
14	不完備情報・静学ゲーム	静学ベイジアンゲームとベイジアンナッシュ均衡、応用例(非対称情報下のクールノー寡占)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本的な微分・積分、確率計算の知識を身につけていない受講者は、自主学習して欲しい。また、学部レベルのミクロ経済学の知識を前提として講義するので、復習して参加して欲しい。

【テキスト（教科書）】
ロバート・ギボンズ『経済学のためのゲーム理論入門』(福岡正夫、須田伸一翻訳)岩波書店 2020
Robert Gibbons, Game Theory for Applied Economists, Princeton University Press 1992

【参考書】
・教科書と同程度もしくは易しいレベルの参考書
[1] 岡田章『ゲーム理論・入門　新版』有斐閣, 2008.
[2] 鈴木豊『完全理解　ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房, 2021.
[3] 梶井・松井『ミクロ経済学　戦略的アプローチ』日本評論社, 2000.
・教科書と同程度もしくはより難易度の高い参考書
[4] Fudenberg and Tirole, Game Theory,The MIT Press, 1991.
[5] Tirole, Theory of Industrial Organization, The MIT Press, 1988.
[6] Bolton and Dewatripont, Contract Theory, The MIT Press, 2004.

【成績評価の方法と基準】
学期末試験（７０％）。練習問題をレポートとして２回提出（３０％）。

【学生の意見等からの気づき】
豊富な教材と丁寧な説明という２点を高く評価していただいたので、今年も継続していきたい。他方で、大学院ミクロ経済学に期待される高度な内容も、わかりやすさに配慮しつつ、できるだけ取り入れていきたい。

【担当教員の専門分野等】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001407/profile.html
を参照のこと。

【Outline (in English)】
In this lecture, students will learn "Game Theory". Game theory analyzes "strategic interdependence" between players (decision-makers) and has been applied to a wide range of economic problems such as competition between firms, contract problems, international trade, and international environmental problems, and has become an important tool in microeconomic analysis. In this course, graduate students will learn the basic principles and methods of game theory so that they can use game theory as an analytical tool for economic problems. This lecture also provides basic research skills for students who wish to advance to the doctoral program.
Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to fully understand the content. Grading is based on Two Assignments (Problem Sets as Homework)(30%), and a Final Exam (70%).

ECN513C1－2（経済学 / Economics 500）

ミクロ経済学Ｂ

平瀬　友樹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では，消費者行動，企業行動，市場均衡の特質に内容を厳選した上で l 財 m 消費者 n 企業の一般均衡分析として，伝統的な価格理論を体系的に講義します．これらの知識は、マクロ経済学や計量経済学など他の科目を体系的に学ぶ上で不可欠なものです．

【到達目標】
一般均衡理論の視点から伝統的な価格理論の基本的な道具を習得し，市場経済の様々な現象に対する各自の問題意識に応じて，自分でモデルを組み，理論分析を行えるようになることを最終目標にします．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義内で問題演習を行いますが、初等的な微積分，線形代数にある程度習熟していることを前提にします．これらの予備知識が不足している受講者は，事前に必要な数学を独習した上で受講して下さい．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	消費者の理論(1)	財空間，消費集合，選好
第2回	消費者の理論(2)	選好と効用関数
第3回	消費者の理論(3)	効用最大化と需要の決定
第4回	消費者の理論(4)	需要関数の性質
第5回	生産者の理論(1)	生産集合
第6回	生産者の理論(2)	生産関数と等量曲線
第7回	生産者の理論(3)	利潤最大化と供給の決定
第8回	生産者の理論(4)	要素需要と費用関数
第9回	市場メカニズムと経済厚生(1)	純粋交換経済
第10回	市場メカニズムと経済厚生(2)	競争均衡とパレート効率性
第11回	市場メカニズムと経済厚生(3)	厚生経済学の基本定理
第12回	市場メカニズムと経済厚生(4)	資源配分の効率性
第13回	市場メカニズムと経済厚生(5)	資源配分の衡平性
第14回	まとめ	学期末試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
トピックに応じて参考書を使い分けますが、基本的には下記を基本テキストとして指定します．
奥野正寛・鈴村興太郎『ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ』（岩波書店，Ⅰ：1985年，Ⅱ：1988年,
オンデマンドブックス：2015年）

【参考書】
[1] T. Ichiishi, *Microeconomic Theory*, Wiley-Blackwell, Hoboken, 1997.
[2] D. Kreps, Microeconomic Foundations I: Choice and Competitive Markets, Princeton Univ. Press, Princeton, 2012.
[3] A. Mas-Coell, M.D. Whinston, and J.R. Green, *Microeconomic Theory*, Oxford Univ. Press, Oxford, 1995.
[4] H.R. Varian, *Microeconomic Analysis*, 3rd edn., W.W. Norton, New York, 1992.
[5]浦井憲・吉野昭彦『ミクロ経済学』（ミネルヴァ書房，2012年）
[6]武隈愼一『数理経済学』（新世社，2001年）
[7]西村和雄『ミクロ経済学』（東洋経済新報社，1990年）
[8]山崎昭『ミクロ経済学』(知泉書館、2006年)

【成績評価の方法と基準】
受講者は講義の最後に演習問題を解き，それを提出することで平常点が与えられます．平常点（30％），学期末試験（70％）の総合評価とします．

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度に合わせて授業の進行スピードや講義範囲を調整します.また，数学的に難しいという意見があったため、ここでの数理経済学的な議論は最低限にとどめます．それらに関心がある場合には「応用ミクロ経済学B」を履修してください．

【その他の重要事項】
毎年12月第1土曜日は本研究科主催の大学院ワークショップが開催されるため、受講者が参加できるよう配慮し、その日の講義については動画配信など代替措置を講じる予定です．

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞
経済理論形成史
＜研究テーマ＞
一般均衡理論，ゲーム理論，および計量経済学の成立過程について

【Outline (in English)】
Course outline. In this course basic topics of microeconomics are lectured. Theory of consumers and producers, market equilibria and economic welfare are the main theme.
Learning Objectives. The goals of this course are to study basic foundations of microeconomics to understand major subjects of economics.
Learning activities outside of classroom. Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria/Policy. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term end examination: 70% and in class contribution: 30%.

ECN522C1－1（経済学 / Economics 500）

応用マクロ経済学Ａ

八木橋　毅司

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
（修士・博士前期課程向け）
最適化理論（家計の効用最大化、企業の利潤最大化）に基づいた動学的一般均衡モデルを大学院での国際標準とされるテキストを用いて学ぶ。
（博士後期課程向け）
上記に加え取り上げるトピックに関連した学術論文の査読ができる程度の応用知識を身につける

【到達目標】
（修士・博士前期課程向け）
大学院レベルのマクロ経済学で最も重要な手法である動学モデルの基本的な解法を理解し、応用的な動学モデルを解くことができる。
（博士後期課程向け）
上記に加え学術論文を執筆するための基礎知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期Ⅱ期に開講しますが、秋学期の「マクロ経済学Ａ」の知識は前提としません。アメリカの大学院でも修士学生が勉強している標準的なテキストであるRomer (2018)の2章、6章、および7章に沿って講義します。数式によるモデルの分析とともに、現実の経済への応用や実証分析の紹介も行います。授業形態については対面講義を原則としますが、希望者にはハイフレックス形式でのオンライン受講を認めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	オリエンテーション、Matlabの紹介、貨幣と産出量の関係性
第2回	名目硬直性	ベクトル自己回帰モデル（１）
第3回	名目硬直性	ベクトル自己回帰モデル（２）
第4回	名目硬直性	ベクトル自己回帰モデル（３）
第5回	名目硬直性	貨幣保有と総需要
第6回	名目硬直性	不完全競争と総供給
第7回	名目硬直性	演習
第8回	DSGEモデルの紹介	DSGEモデルの基本的フレームワーク（１）
第9回	DSGEモデルの紹介	DSGEモデルの基本的フレームワーク（２）
第10回	世代重複モデル	世代重複モデルの概要
第11回	世代重複モデル	世代重複モデルにおける動学的非効率性
第12回	世代重複モデル	演習
第13回	学生発表	学生発表（前半）
第14回	学生発表	学生発表（後半）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各４時間を標準とします

【テキスト（教科書）】
David Romer, Advanced Macroeconomics, 5th edition, McGraw-Hill Irwin, 2018

【参考書】
蓮見「動学マクロ経済学へのいざない」、2020年
G.マンキュー（著）『マクロ経済学１：入門編』東洋経済新報社、2017年
G.マンキュー（著）『マクロ経済学２：応用編』東洋経済新報社、2017年

【成績評価の方法と基準】
（修士・博士前期課程向け）
学生発表50％、課題25%、クラス参加25%
（博士後期課程向け）
学生発表25％、課題25%、クラス参加50%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン、タブレット、スマホのいずれかを常時持参してください。

【担当教員の専門分野等】
詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください
https://sites.google.com/site/takeshiyagihashi/

【主要業績】
"Intertemporal Elasticity of Substitution with Leisure Margin” (with Juan Du), forthcoming in Review of Economics of the Household
"How Do the Trans-Pacific Economies Affect the US? An Industrial Sector Approach" (with David Selover), Oct. 2017, The World Economy , 40(10), 2097-2124.
“Goods-Time Elasticity of Substitution in Health Production” (with Juan Du), Oct. 2017, Health Economics, 26(11), 1474-1478.
“Health Care Inflation and Its Implication for Monetary Policy” (with Juan Du), Mar. 2015, Economic Inquiry, 53(3), 1556-1579.
“Estimating Taylor Rules in a Credit Channel Environment,” Dec. 2011, North American Journal of Economics and Finance, 22(3), 344-364.
“Are DSGE Approximating Models Invariant to Shifts in Policy?” (with Timothy Cogley) Jan. 2010, The B.E. Journal of Macroeconomics, 10(1) (Contribution), Article 27, 1-31.

【Outline (in English)】
Students learn the basic methods of advanced macroeconomics using international standard textbooks in graduate school. At the end of this course, students are expected to understand the applied Dynamic General Equilibrium model.
【Learning Activities Outside of Classroom】
Four hours preview/four hours review per class
【Grading Criteria/Policy】
(MA/first & second year Ph.D. students)
Student presentation: 50%, Assignment: 25%、Class Participation: 25%
(Ph.D. students who are in the third year and beyond)
Student presentation: 25%, Assignment: 25%、Class Participation: 50%

ECN522C1－2（経済学 / Economics 500）

応用マクロ経済学Ｂ

蓮見　亮

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、経済政策の現場では、「新しいケインジアンのマクロ経済モデル」を念頭に置いて議論する方向にあります。この授業では、トピックを絞った上で最適化理論（家計の効用最大化、企業の利潤最大化）に基づくマクロ経済学の考え方を学んでいきます。

数式を使った解説がメインになりますが、それぞれの変数の持つ意味がイメージできれば、図のみに頼るよりもかえって理解がはかどるはずです（全くの数式アレルギーの人には薦められませんが）。網羅的な説明は目標としないので、極力やさしく丁寧に解説します。理解を深めるために、必要に応じてコンピュータによる数値計算などの結果も示します。

例えば学生が経済政策の立案者となったとき、適切な提言をするための知識を習得すること、あるいは将来企業の企画立案者や経営者となったとき、企業経営に関する重要な意思決定する際の判断の基礎とすべき基本的な概念と考え方を習得することを目的とします。

【到達目標】

マクロ経済学の基礎的概念の理解に基づき、応用的なモデルを用いた政策分析を行えるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

輪読形式（学生に担当個所を割り振り、説明してもらう）とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1.	イントロダクション	マクロ経済モデルの基本的な考え方
2.	ソローモデル（１）	経済成長、生産関数、資本ストックの蓄積、消費と投資のトレードオフ
3.	数学の準備	指数関数・対数関数、偏微分、テイラー展開
4.	ソローモデル（２）	定常状態の計算、成長会計
5.	ラムゼイモデル（１）	効用関数
6.	ラムゼイモデル（２）	ラグランジュの未定乗数法、オイラー方程式の導出
7.	ラムゼイモデル（３）	定常状態への経路の計算
8.	税制モデル	税制の変更シミュレーション
9.	RBC モデル（１）	技術ショック、労働供給の内生化
10.	RBC モデル（２）	技術ショックに対するインパルス応答、景気循環
11.	ニューケインジアン・モデル（１）	独占的競争モデル
12.	ニューケインジアン・モデル（２）	ニューケインジアン・フィリップス曲線、IS 曲線
13.	ニューケインジアン・モデル（３）	解の存在条件、最適金融政策
14.	まとめと復習	講義を振り返り、最適化理論に基づくマクロ経済学の体系を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中にも解説しますが、高校数学程度の指数関数・対数関数、微分・積分、数列を復習しておいてください。また、余力があれば、極限、自然対数、e（ネイピア数）を予習しておいてください。

週３時間程度の準備学習・復習が単位認定の目安となります。

【テキスト（教科書）】

蓮見 亮 (著)『動学マクロ経済学へのいざない』、日本評論社、2020年

必要に応じて授業支援システム経由で講義ノートを配布します。

【参考書】

特になし（授業中に指示します）。

【成績評価の方法と基準】

平常点４０％、割り当てた輪読箇所のプレゼンテーション６０％の配点で成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン講義につき、機材（PC、タブレット等）・ネットワーク環境が必要です。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

マクロ経済学、計量経済学（ベイズ統計学）

＜研究テーマ＞

マクロ経済モデルによるシミュレーション分析

＜主要研究業績＞

Ono, Arito, Ryo Hasumi, and Hideaki Hirata, “Differentiated use of small business credit scoring by relationship lenders and transactional lenders: Evidence from firm-bank matched data in Japan”, Journal of Banking & Finance 42, 371-380, 2014.

Hasumi, Ryo and Hideaki Hirata, “Small Business Credit Scoring and Its Pitfalls: Evidence from Japan”, Journal of Small Business Management 52, 555-568, 2014.

Hasumi, Ryo , Hirokuni Iiboshi, and Daisuke Nakamura, “ Trends, Cycles and Lost Decades – Decomposition from a DSGE Model with Endogenous Growth”, Japan & The World Economy 46, 9-28, 2018.

Hasumi, Ryo, Hirokuni Iiboshi, Tatsuyoshi Matsumae, and Daisuke Nakamura. “Does a Financial Accelerator Improve Forecasts during Financial Crises?: Evidence From Japan with Prediction-pool Methods”, Journal of Asian Economics, 60, 45-68, 2019.

【Outline (in English)】

（Course outline）

In recent years, macroeconomic policy has often been discussed in line with New Keynesian macroeconomic models. In this class, students will learn a macroeconomic theory based on optimization, which includes utility maximization of households and profit maximization of firms.

（Learning Objectives）

The objective of this course is that students will be able to conduct policy analysis using applied models based on an understanding of the basic concepts of macroeconomics.

（Learning activities outside of classroom）

Approximately three hours of preparatory study and review per week is required for credit.

（Grading Criteria /Policy）

Grading will be based on class participation (40%) and presentation of assigned readings (60%).

ECN521C1－1（経済学 / Economics 500）

応用ミクロ経済学Ａ

鈴木　豊

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「契約理論（Contract Theory）について体系的に学ぶ。
（Ⅰ）不確実性と情報の経済学：「情報の経済学」の基礎
（Ⅱ）プリンシパル＝エージェントの理論:モラルハザード
（Ⅲ）プリンシパル＝エージェントの理論:アドバースセレクション
（Ⅳ）不完備契約（Incomplete Contracts）と企業理論

【到達目標】
受講生は，「契約理論・ゲーム理論」の考え方・分析の仕方を理解・修得し、修士論文等の執筆のほか、現状分析や問題解決の有力なツールとして、使いこなせるようになることが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論　第2版』（8章～11章）を基本の流れとして進める。授業の中で，より高度なレジュメや参考資料の配布，参考文献の指示等を行う。リアクションペーパーと課題提出の積み重ねが重要となる。授業の詳細の指示や課題等へのフィードバックは、「教室」と「学習支援システム」を組み合わせて行う。授業形態は、基本、対面授業とするが、「Zoom動画」などの資産も有効活用していきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	不確実性と情報の経済学①基礎	期待効用最大化仮説、リスク態度、リスクプレミアム、期待効用最大化とその使い方
第2回	不確実性と情報の経済学②応用	期待効用最大化と最適化の１階条件、ポートフォリオセレクションとその応用、リスク分散
第3回	プリンシパル・エージェントの理論：モラルハザード①	エージェンシー理論の導入、固定給とモラルハザード 、歩合給とインセンティブ効果。数値モデルによる分析。
第4回	モラルハザード②	簡単なエージェンシーモデルの解（リスク中立的エージェント）、インセンティブスキームの直観的説明
第5回	モラルハザード③	インセンティブ契約の数学モデル（リスク回避的エージェント）、いくつかのモデリング。
第6回	複数エージェントの理論①	チーム生産①フリーライダー問題を解決する仕組み。ペナルティースキームなど。
第7回	複数エージェントの理論②	トーナメントの理論と応用。オークション理論との比較など。
第8回	プリンシパル・エージェントの理論：アドバース・セレクション①	逆選抜(Adverse Selection)：基礎編
第9回	アドバース・セレクション②	逆選抜を解決する仕組みとしての自己選抜メカニズム①導入
第10回	アドバース・セレクション③	自己選抜メカニズム②応用と展開
第11回	不完備契約①	関係特殊的投資とホールドアップ問題：概念と基本モデル、一般化と外部機会の存在
第12回	不完備契約②	「資産所有(財産権)」アプローチ①Grossman=Hart=Mooreモデル、残余コントロール権の配分と企業の境界の決定
第13回	不完備契約③	組織における権限配分、権限委譲について。 Aghion=Tirole1997のモデルなど。
第14回	その他のトピックス	関係的契約、行動契約理論などの解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容（授業ノート）および配布資料の理解と確認をその都度行っていくこと。詳細は授業内で指示する。本授業の予習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
鈴木豊『完全理解　ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房2021（8章～11章）を全体の流れとし，授業の中で，より高度なレジュメや参考資料の配布，参考文献の指示を行う。

【参考書】
①　マクミラン『経営戦略のゲーム理論』（伊藤，林田訳）有斐閣
②　ミルグロム＋ロバーツ『組織の経済学』（奥野，伊藤他訳）NTT出版
③　ラジアー『人事と組織の経済学』（樋口，清家訳）日本経済新聞社
④　オリバー・ハート『企業 契約 金融構造』（鳥居訳）慶応大学出版会2010
⑤　Bolton and Dewatoripont,Contract Theory, MIT Press
⑥　鈴木豊（編）『ガバナンスの比較セクター分析：ゲーム理論・契約理論を用いた学際的アプローチ』法政大学出版局2010年
⑦　鈴木豊『中国経済の制度分析：契約理論・ゲーム理論アプローチ』日本評論社2020年

【成績評価の方法と基準】
レポート（練習問題への解答）（2回）（40％）。毎回のリアクションペーパーの積み重ね（10％）。期末試験（50％）。

【学生の意見等からの気づき】
基礎事項の復習から大学院レベルの研究紹介まで、充実した内容で、かつ丁寧に、進めていきたい。

【担当教員の専門分野等】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001407/profile.html
を参照のこと。

【Outline (in English)】
Students will systematically study Contract Theory.
(I) Uncertainty and Economics of Information
(II) Principal = Agent Theory: Moral Hazard
(III) Principal = Agent Theory: Adverse Selection
(IV) Theory of Incomplete Contracts
Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the content. Grading is based on Two Assignments (Problem Sets as Homework)(40%), Reaction Papers (10%), and Final Examination (50%).

ECN521C1－2（経済学 / Economics 500）

応用ミクロ経済学Ｂ

平瀬　友樹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ミクロ経済学B」で扱えなかった一般均衡分析の数理経済学的な背景について講義を行います．あわせて、今後の研究活動で必要とされる数学的な素養についてもより深く学んでいきましょう．

【到達目標】
将来的にミクロ経済学でモデル化されていない経済現象や応用問題を明確に意識し，理論的に論じられるようになるために，それに必要な数学的素養を身につけることを目標としましょう．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
微積分,線形代数にある程度習熟していることに加えて,「ミクロ経済学B」の内容を完全に理解していることを前提にします.これらの知識が不足している受講者は,事前に必要な数学を独習した上で受講して下さい.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義の概要
第2回	基礎的概念の確認①	行列と微分
第3回	基礎的概念の確認②	集合と位相
第4回	基礎的概念の確認③	最適値問題および凸解析
第5回	基礎的概念の確認④	不動点定理
第6回	一般均衡分析①	交換経済
第7回	一般均衡分析②	生産経済
第8回	一般均衡分析③	均衡の安定性
第9回	一般均衡分析④	効率性と衡平性
第10回	不確実性下の意思決定①	期待効用と危険に対する態度
第11回	不確実性下の意思決定②	資産選択，保険，モラル・ハザード
第12回	不確実性下の意思決定③	情報の非対称性と逆選択
第13回	不確実性下の意思決定④	教育とシグナリング
第14回	まとめ	今後の学習について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
下記の参考書をトピックに応じて使い分けるので, 必要に応じてその都度指示します.

【参考書】
[1] A. Mas-Coell, M.D. Whinston, and J.R. Green, Microeconomic Theory, Oxford Univ. Press, Oxford, 1995.
[2]武隈愼一『数理経済学』（新世社，2001年）
[3]長名寛明『ミクロ経済分析の基礎』(知泉書館, 2011年)
[4]二階堂副包『現代経済学の数学的方法　位相数学による分析入門』(岩波書店，1960年，ペーパーバック版，2022年)
[5]林貴志『意思決定理論』(知泉書館, 2020年)
[6]山崎昭『数理経済学の基礎』(創文社, 1986年: 講談社オンデマンド版, 2022年)

【成績評価の方法と基準】
オンラインにつき平常点100％：受講者は講義毎に出されるレポート課題（演習問題）を解き，それを提出することで平常点が与えられます．

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度に合わせて授業の進行スピードを調整します．

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞
経済理論形成史
＜研究テーマ＞
一般均衡理論，ゲーム理論，および計量経済学の成立過程について

【Outline (in English)】
Course outline.　In this course several topics of applied microeconomics are lectured.　Revealed preferences, utility maximization and labor supply, intertemporal decisions, decisions under uncertainty, cooperative games are the main theme.
Learning Objectives.　The goal of this course is to study various applications of microeconomics to illustrate the power of economic theory.
Learning activities outside of classroom.　Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class.　Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria/Policy. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Reports: 100%.

ECN563C1－1（経済学 / Economics 500）

開発経済論Ａ

池上　宗信

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
開発経済学の主要な実証分析手法と論文を学ぶ。
実証分析手法として、クラスター頑健標準誤差、ランダム化比較試験、差の差の分析、Regression Discontinuity Design、操作変数法を学ぶ。
これらの手法を用いて、人的資本、信用、市場、制度に関する問を研究した論文を学ぶ。
先行研究をサーベイするのではなく、特定の論文に焦点をあて、その論文の先行研究の不備、問、貢献、データ、手法を学ぶ。

【到達目標】
各自の研究分野で、この講義で学んだ各実証分析手法を用いた論文が出てきたときに、手法がわからないことが原因でつまづかないようになる。
各実証分析手法を考慮しながら、各自の論文の問、アイデアを探すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントとして指定された部分を読む。
各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づく。
授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質門する。
授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをする。
演習問題、試験には統計計算ソフトRを用いた問題が含まれる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ランダム化比較試験	相関、因果、ルービンの因果モデル
第2回	ランダム化比較試験	記述統計、回帰係数の推定、外生性、内生性
第3回	ランダム化比較試験	検定、 教育、学力追跡と成績、Duflo, Esther and Dupas, Pascaline and Kremer, Michael (2011)
第4回	ランダム化比較試験	クラスター、不均一分散、クラスターに対して頑健な標準誤差、欠落変数バイアス、重回帰
第5回	ランダム化比較試験	信用、アドバース・セレクション、モラル・ハザード, Karlan, Dean and Zinman, Jonathan (2009)、2段階ランダム化、結合仮説の検定
第6回	Regression Discontinuity Design	連続性条件、局所回帰、制度、投票と貧困対策、Fujiwara, Thomas (2015)
第7回	まとめと復習、中間試験	第1回から第6回までの内容を復習、中間試験
第8回	Regression Discontinuity Design	tidyverse, ggplot2パッケージを用いた図の描き方
第9回	Regression Discontinuity Design	局所平均
第10回	Regression Discontinuity Design	局所線形回帰、条件付き平均トリートメント効果
第11回	操作変数法	内生変数、外生変数、操作変数、2段階最小2乗推定量、制度、植民地と経済成長、Acemoglu, Daron and Johnson, Simon and Robinson, James A. (2001)
第12回	固定効果	パネルデータ、Acemoglu, Daron and Johnson, Simon and Robinson, James A. and Yared, Pierre (2008)
第13回	差の差の分析	並行トレンドの仮定、市場、携帯電話と魚市場、Jensen, Robert and Miller, Nolan H. (2018)
第14回	まとめと復習、期末試験	第8回から第13回までの内容を復習、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義スライドの基となっている文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読む。
授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。

【参考書】
高野久紀(2014, 2015)「実践 開発経済学 1-8」『経済セミナー』2014年6/7月号-2015年8/9号
Acemoglu, Daron, Simon Johnson, and James A. Robinson. 2001. “The colonial origins of comparative development: An empirical investigation.” American Economic Review 91 (5).
Acemoglu, Daron, Simon Johnson, James A. Robinson, and Pierre Yared. 2008. “Income and democracy: Comment.” American Economic Review 98 (3):808– 842.
Duflo, Esther, Pascaline Dupas, and Michael Kremer. 2011. “Peer effects, teacher incentives, and the impact of tracking: Evidence from a randomized evaluation in Kenya.” American Economic Review 101 (5): 1739– 1774.
Fujiwara, Thomas. 2015. “Voting Technology, Political Responsiveness, and Infant Health: Evidence From Brazil.” Econometrica 83 (2): 423– 464.
Jensen, Robert and Nolan H. Miller. 2018. “Market integration, demand, and the growth of firms: Evidence from a natural experiment in India.” American Economic Review 108 (12):3583– 3625.
Karlan, Dean, and Jonathan Zinman. 2009. “Observing Unobservables: Identifying Information Asymmetries With a Consumer Credit Field Experiment.” Econometrica 77 (6): 1993– 2008.

【成績評価の方法と基準】
中間試験40％、期末試験40％、平常点20％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は2022-2023年度は開講されなかった。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
開発ミクロ経済学
＜研究テーマ＞
家計の異時点間の意思決定と貧困動学
東アフリカ乾燥地におけるインデックス型家畜保険
＜主要研究業績＞
“Can Insurance Alter Poverty Dynamics and Reduce the Cost of Social Protection in Developing Countries?” Journal of Risk and Insurance, 88(2), pp. 293-324. 2021.

“Does Index Insurance Crowd In or Crowd Out Informal Risk Sharing? Evidence from Rural Ethiopia.” American Journal of Agricultural Economics, Volume 101, Issue 3, pp. 672-691. 2019.
“Poverty Traps and the Social Protection Paradox” in C. B. Barrett, M. R. Carter and J.-P. Chavas eds. The Economics of Poverty Traps, chapter 6. pp.223-256. University of Chicago Press. 2019.

【Outline (in English)】
< Course outline >
We will study major empirical methods and papers in Development Economics.
As the major empirical methods, we will study difference in difference, regression discontinuity design, and instrument variable method.
We will study papers using these empirical methods and analyzing questions related to human capital, credit, market, and institution.
< Learning Objectives >
We will try to become able to understand the empirical methods in journal articles. We will try to become able to look for research paper idea keeping the empirical methods in our minds.
< Learning activities outside of classroom >
Before each class, we will read assigned article, on which class slides are based.
After each class, if needed, we will review class materials by ourselves.
We expect 2 hours for preparing for each class and 2 hours to review class materials by ourselves after class.
If we need to have online classes for combating infectious diseases, we will take online mini test or assignment after each class.
< Grading Criteria/Policies >
We will make class grade based on the following factors and weights: mid-term exam 40%; end-term exam 40%; participation 20%.

ECN542C1－1（経済学 / Economics 500）

金融ファイナンス論Ａ

胥　鵬

備考（履修条件等）：（2021年度以降入学者用）
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
金融ファイナンス理論は、リスクに始まりリスクに終わる。しかし、リスクの定義とはなんであろうか？ リスクの定義の出発点として、収益率のばらつきを表す標準偏差から出発し、二つの銘柄の株式投資収益率の相関と分散投資を中心に講義をする。その上で、リスキー資産から有効ポートフォリオ・フロンティアを導く。さらに、安全資産についてわかりやすく解説し、安全資産を含む資本市場線と証券市場線の考え方を用いて均衡におけるリスクの定義及びリスクとリターンの関係を説明する。

【到達目標】
緊急事態宣言を受けて、航空会社、観光旅行会社、飲食関連会社の株価が大きく変動していた。日々の株価を用いて、金融・ファイナンスだけではなく、様々な経済政策を研究することが可能である。この授業は金融ファイナンスの基礎理論を紹介し、とりわけ、株式投資のリターンとリスクとの関係に関する理論分析を理解することを目的とする。学生には、日々の株価変動の背後にある個別リスクとシステマチック・リスクの意味について考え、経済研究への応用を理解してもらうことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、パソコンなどで自分のために自分の手で自分の問題を解くことによって講義内容をマスターします。さらに，FQなどの学内データベースの活用方法を紹介し，修士論文作成へのステップアップを目指す。
原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論や実証分析を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	景気・業況・金利の変動と株価	日々の株価の変動、リスクとリターン
2	投資のリターンとは何か？	期待投資収益率はリターン
3	リスクとは何か？	投資収益率のばらつきはリスク
4	二株を追う者は何を得る？	2銘柄の分散投資の収益率
5	2銘柄の分散投資からの拡張	複数銘柄の分散投資
6	リスクとリターンのトレードオフ	危険資産からなる有効ポートフォリオ・フロンティア
7	資本市場線	安全資産の導入
8	証券市場線	安全資産を含む有効ポートフォリオ・フロンティア
9	βの導出	個別銘柄株式のリスク
10	マーケット・モデル	個別銘柄株式のリスクの計測
11	株式相場の影響	株式増場の影響を除いた異常収益率の計算
12	イベント・スタディー	利益・配当・政策などの変動の株価に対する効果を計測する分析手法
13	データ収集	株価データを収集する
14	仮説検定	集計した異常収益率に基づいて経済学・金融・ファイナンスの様々な仮説を検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
簡単な予習はもちろん、理解できない点については必ず復習してください。宿題や課題を通じて自分の理解を深めましょう。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
斉藤誠　『金融技術の考え方・使い方：リスクと流動性の経済分析』、有斐閣
『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹, 芹田敏夫, 胥鵬, 佐々木隆文, 鈴木健嗣, 佐々木寿記、白桃書房

【参考書】
必要に応じて、専門誌論文を授業支援システムにアップロードする。

【成績評価の方法と基準】
成績評価には、課題レポート(40%)と学期レポート(60%)。

【学生の意見等からの気づき】
他のテーマについてもリクエストに応じて適宜に取り上げる。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン持参。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。

【その他の重要事項】
米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を皆様に届ける。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　企業金融（コーポレート・ファイナンス）、企業統治（コーポレート・ガバナンス）、法と経済学、不動産価格、中国経済
＜研究テーマ＞　ＭＢＯ、敵対的買収案と株式議決権行使、ホットマネー（熱銭）と中国の不動産価格
＜主要研究業績＞
『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹, 芹田敏夫, 胥鵬, 佐々木隆文, 鈴木健嗣, 佐々木寿記 (6,7章) 白桃書房 2020年
Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index,Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng　International Review of Finance 2020年
Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】
In this course, we learn basic monetary and finance theories. Finance theory begins and ends with risk. The goal of the course is to understand risks based on the Capital Asset Pricing Model and the method of event study. Students are expected to calculate abnormal return and test economic hypotheses. Before/after each class meeting, students will be expected to download the relevant data and documents. Your required study time is about four hours for each class meeting. Short reports (40%) and term report (60%) are both required for grading.

ECN542C1－1（経済学 / Economics 500）

金融システム論A

胥　鵬

備考（履修条件等）：（2020年度以前入学者用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融ファイナンス理論は、リスクに始まりリスクに終わる。しかし、リスクの定義とはなんであろうか？ リスクの定義の出発点として、収益率のばらつきを表す標準偏差から出発し、二つの銘柄の株式投資収益率の相関と分散投資を中心に講義をする。その上で、リスキー資産から有効ポートフォリオ・フロンティアを導く。さらに、安全資産についてわかりやすく解説し、安全資産を含む資本市場線と証券市場線の考え方を用いて均衡におけるリスクの定義及びリスクとリターンの関係を説明する。

【到達目標】

緊急事態宣言を受けて、航空会社、観光旅行会社、飲食関連会社の株価が大きく変動していた。日々の株価を用いて、金融・ファイナンスだけではなく、様々な経済政策を研究することが可能である。この授業は金融ファイナンスの基礎理論を紹介し、とりわけ、株式投資のリターンとリスクとの関係に関する理論分析を理解することを目的とする。学生には、日々の株価変動の背後にある個別リスクとシステマチック・リスクの意味について考え、経済研究への応用を理解してもらうことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、パソコンなどで自分のために自分の手で自分の問題を解くことによって講義内容をマスターします。さらに，FQなどの学内データベースの活用方法を紹介し，修士論文作成へのステップアップを目指す。

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論や実証分析を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	景気・業況・金利の変動と株価	日々の株価の変動、リスクとリターン
2	投資のリターンとは何か？	期待投資収益率はリターン
3	リスクとは何か？	投資収益率のばらつきはリスク
4	二株を追う者は何を得る？	2銘柄の分散投資の収益率
5	2銘柄の分散投資からの拡張	複数銘柄の分散投資
6	リスクとリターンのトレードオフ	危険資産からなる有効ポートフォリオ・フロンティア
7	資本市場線	安全資産の導入
8	証券市場線	安全資産を含む有効ポートフォリオ・フロンティア
9	βの導出	個別銘柄株式のリスク
10	マーケット・モデル	個別銘柄株式のリスクの計測
11	株式相場の影響	株式増場の影響を除いた異常収益率の計算
12	イベント・スタディー	利益・配当・政策などの変動の株価に対する効果を計測する分析手法
13	データ収集	株価データを収集する
14	仮説検定	集計した異常収益率に基づいて経済学・金融・ファイナンスの様々な仮説を検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

簡単な予習はもちろん、理解できない点については必ず復習してください。宿題や課題を通じて自分の理解を深めましょう。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

斉藤誠　『金融技術の考え方・使い方：リスクと流動性の経済分析』、有斐閣

『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹, 芹田敏夫, 胥鵬, 佐々木隆文, 鈴木健嗣, 佐々木寿記、白桃書房

【参考書】

必要に応じて、専門誌論文を授業支援システムにアップロードする。

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、課題レポート(40%)と学期レポート(60%)。

【学生の意見等からの気づき】

他のテーマについてもリクエストに応じて適宜に取り上げる。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン持参。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を皆様に届ける。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞　企業金融（コーポレート・ファイナンス）、企業統治（コーポレート・ガバナンス）、法と経済学、不動産価格、中国経済

＜研究テーマ＞　ＭＢＯ、敵対的買収案と株式議決権行使、ホットマネー（熱銭）と中国の不動産価格

＜主要研究業績＞

『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹, 芹田敏夫, 胥鵬, 佐々木隆文, 鈴木健嗣, 佐々木寿記 (6,7章) 白桃書房 2020年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index,Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng　International Review of Finance 2020年

Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

In this course, we learn basic monetary and finance theories. Finance theory begins and ends with risk. The goal of the course is to understand risks based on the Capital Asset Pricing Model and the method of event study. Students are expected to calculate abnormal return and test economic hypotheses. Before/after each class meeting, students will be expected to download the relevant data and documents. Your required study time is about four hours for each class meeting. Short reports (40%) and term report (60%) are both required for grading.

ECN565C1－1（経済学 / Economics 500）

地域経済論ⅠA

馬場　敏幸

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
おもに第二次世界大戦後に発展した新興経済発展国について、それらの国の文化、経済、産業、発展の経緯、現状などを学びます。国・地域についてはアジアを中心にしますが、アフリカや北米・中南米、ヨーロッパなども必要に応じて紹介したいと考えています。

【到達目標】
対象各国の経済の現状、問題点、発展の経緯、産業動向などについて理解を深めることを到達目標とします。各国の経済状況や発展の過程、背後にあるメカニズムについて十分理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は多摩キャンパスで開講を考えていますが、Zoom を用いてハイフレックス型の講義を行うので、市谷キャンパスや社会人の場合は会社からも受講できます。
当初は講義により説明を行いますが、より学びを深めるために受講生交代で課題を発表し、相互に意見交換する、双方向型の授業が行えればよいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の進め方について説明します
第2回	経済データベース１	オンラインデータベースを学び、主要な経済統計を検索・取得できるようにします。
第3回	アジア地域のアウトライン	主要な経済統計によりアジア各国を概観します
第4回	通貨とグローバリゼーション	為替レートとグローバリゼーションについて学びます
第5回	工業化と技術学習	技術導入戦略、技術学習の経路、OEM 戦略などについて学びます
第6回	経済データベース２	貿易データベースについて学び、データの検索・取得を行えるようにします。
第7回	エリアスタディ1	シンガポール
第8回	エリアスタディ2	香港
第9回	エリアスタディ3	韓国
第10回	エリアスタディ4	タイ
第11回	エリアスタディ5	インドネシア
第12回	エリアスタディ6	マレーシア
第13回	エリアスタディ7	フィリピン
第14回	総括	講義の総括を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義前１時間、講義後３時間、合計４時間の授業外学習を想定しています。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
必要に応じて紹介します

【成績評価の方法と基準】
授業態度（40%）、課題やプレゼンテーション（60%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
PC を推奨します

【地域経済】
新興工業国の経済発展
自動車産業
サポーティングインダストリー

【Outline (in English)】
In this class, you learn economics, geographies, industries of Asian countries and other emerging countries. You learn various economic backgrounds and development engines of each country. As outside studies, I hope one and half hour before classroom and two and half hours after classroom. Grading is based on attitude for class study(40%) and reports & presentations(60%).

ECN565C1－2（経済学 / Economics 500）

地域経済論ⅠB

馬場　敏幸

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
おもに第二次世界大戦後に発展した新興経済発展国について、それらの国の産業について学びます。特に自動車産業およびサポーティングインダストリィーの現状と発展について学びます。国・地域についてはアジアを中心にしますが、アフリカや北米・中南米、ヨーロッパなども必要に応じて紹介したいと考えています。

【到達目標】
自動車産業およびサポーティングインダストリーの歴史、特質、現状、今後の発展の方向性などについてグローバルな視点から理解することを目標とします。自動車産業の特質、各国での発展史、現状について理解を深めてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は多摩キャンパスで開講を考えていますが、Zoomを用いてハイフレックス型の講義を行うので、市谷キャンパスや社会人の場合は会社からも受講できます。
当初は講義により説明を行いますが、より学びを深めるために受講生交代で課題を発表し、相互に意見交換する、双方向型の授業が行えればよいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の進め方について説明します
第2回	自動車産業データベース	オンラインデータベースを学び、自動車産業の主要なデータを検索・取得できるようにします
第3回	貿易データベース	貿易データベースについて学びます
第4回	自動車産業の現状１	自動車産業の現状について学びます
第5回	自動車産業の現状２	世界の自動車産業の状況について概観します
第6回	サポーティング産業	サポーティング産業について学びます
第7回	自動車産業の発展史1	自動車産業の発展史について学びます
第8回	自動車産業の発展史2	自動車産業の発展史について学びます
第9回	グローバルバリューチェーン１	自動車部品のGVCについて学びます
第10回	グローバルバリューチェーン２	自動車部品のGVCについて学びます
第11回	各国の自動車産業１	各国の自動車産業のケーススタディ
第12回	各国の自動車産業２	各国の自動車産業のケーススタディ
第13回	各国の自動車産業３	各国の自動車産業のケーススタディ
第14回	総括	講義の総括を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義前１時間、講義後３時間、合計４時間の授業外学習を想定しています。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
必要に応じて紹介します

【成績評価の方法と基準】
授業態度（40%）、課題やプレゼンテーション（60%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
PCを推奨します

【地域経済】
自動車産業・サポーティング産業

【Outline (in English)】
In this class, you learn economics and industries of Asian countries and other emerging countries. In this class, we especially focus on automobile industry and supporting industries. As outside studies, I hope one and half hour before classroom and two and half hours after classroom. Grading is based on attitude for class study(40%) and reports & presentations(60%).

ECN523C1－1（経済学 / Economics 500）

統計学Ａ

菅　幹雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
データサイエンスおよび統計のリテラシーを身に着けること。

【到達目標】
学部で統計学を履修していない学生も統計学の基礎を理解できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
教員は教科書の内容に基づいて、それをExcelおよびRで実際に計算する方法を説明する。学生は章末の問題を宿題としてExcelおよびRを用いて解き、それを授業内で発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、Rの基礎	授業の進め方、Rの基礎
第2回	データの表現	度数分布とそのグラフ、ローレンツ曲線、パレート図、2変量データの表現
第3回	データの特性値	データの中心的位置をとらえる代表値、データの散らばりの程度をとらえる指標、データの標準化
第4回	データの収集	統計的探究プロセス、　母集団と標本、標本抽出の方法、インターネット調査、ビッグデータの偏り、実験研究と調査観察研究
第5回	確率(1)	確率を定義するための枠組み、確率の定義とモデリング、確率の性質、条件付き確率と乗法定理、独立な事象の確率、ベイズの定理
第6回	確率(2)	確率を定義するための枠組み、確率の定義とモデリング、確率の性質、条件付き確率と乗法定理、独立な事象の確率、ベイズの定理
第7回	不確実な現象のモデリング(1)	確率変数と確率分布、　確率変数の平均と分散・標準偏差、代表的な確率分布、母集団分布とそのモデリング、　標本分布
第8回	不確実な現象のモデリング(2)	確率変数と確率分布、　確率変数の平均と分散・標準偏差、代表的な確率分布、母集団分布とそのモデリング、　標本分布
第9回	統計的推測（推定）(1)	点推定、区間推定
第10回	統計的推測（推定）(2)	点推定、区間推定
第11回	統計的推測（仮説検定）(1)	仮説検定の考え方、母数の検定、χ2検定、独立性の検定
第12回	統計的推測（仮説検定）(2)	仮説検定の考え方、母数の検定、χ2検定、独立性の検定
第13回	相関と回帰(1)	相関関係、回帰分析
第14回	相関と回帰(2)	相関関係、回帰分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
大内 俊二『データサイエンス指向の統計学』2021年、学術図書出版社、2200円。

【参考書】
金城俊哉『R統計解析パーフェクトマスター（R4完全対応）［統計＆機械学習第2版］』、2022年、3190円。

【成績評価の方法と基準】
授業内での章末問題の解答100％。

【学生の意見等からの気づき】
学部で統計学を履修していない学生も統計学の基礎を理解できるように授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞経済統計
＜研究テーマ＞産業連関表、物価指数。経済センサス、人口予測
＜主要研究業績＞『物価指数の測定論』、『アメリカ経済センサス研究』（共著）、『東京都の人口予測』（共著）

【Outline (in English)】
（Course outline）The aim of this course is to help students acquire statistical literacy.
（Learning Objectives） The goals of this course are to master statistics and apply them by using data.
（Learning activities outside of classroom）Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policies）Grading will be decided based on answering end-of-chapter questions in class.

ECN523C1－2（経済学 / Economics 500）

統計学Ｂ

菅　幹雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Rを用いたデータサイエンスを学ぶ

【到達目標】
Rを用いて実際にデータ分析ができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストに従い実際にRを用いて分析する。学生は学習したデータ分析手法を応用した分析を毎週提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	データ分析の基礎	データの演算、固有値と特異値の分解、基本統計量、棒グラフ、円グラフ、ヒストグラム、折れ線グラフ、箱ひげ図、散布図
第2回	主成分分析	主成分分析の基礎、ケーススタディ
第3回	因子分析	因子分析の基礎、ケーススタディ
第4回	クラスター分析	階層的クラスター分析、非階層的クラスター分析、モデルに基づいたクラスター分析
第5回	線形回帰分析	単回帰分析、重回帰分析
第6回	非線形回帰分析(1)	ロジスティック回帰、多項式回帰
第7回	1非線形回帰分析(2)	一般化線形モデル、平滑化回帰と加法モデル
第8回	線形判別分析	判別分析の基礎、ケーススタディ
第9回	非線形判別分析	判別関数による判別分析、距離による判別分析、多数決による判別分析、ベイズ判別法
第10回	ツリーモデル	ツリーモデルの基礎、ケーススタディ
第11回	集団学習	バギング、ブースティング、ランダムフォレスト
第12回	時系列分析(1)	自己共分散と自己相関、スペクトル分析、ランダムウオークと単位根
第13回	時系列分析(2)	AR、ARMA、ARIMA
第14回	生存分析	ノンパラメトリックモデル、セミパラメトリックモデル、パラメトリックモデル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
金 明哲『Rによるデータサイエンス(第2版):データ解析の基礎から最新手法まで』森北出版、3,960

【参考書】
金城俊哉『R統計解析パーフェクトマスター（R4完全対応）［統計＆機械学習第2版］』、2022年、3190円。

【成績評価の方法と基準】
毎週の課題の提出により評価する

【学生の意見等からの気づき】
今年が初めての講義のため、未だ学生からの意見はない。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞経済統計
＜研究テーマ＞産業連関表、物価指数。経済センサス、人口予測
＜主要研究業績＞『物価指数の測定論』、『アメリカ経済センサス研究』（共著）、『東京都の人口予測』（共著）

【Outline (in English)】
（Course outline）The aim of this course is to help students acquire statistical literacy using R.
（Learning Objectives） The goals of this course are to master statistics and apply them by using data.
（Learning activities outside of classroom）Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policies）Grading will be decided based on reports.

ECN544C1－2（経済学 / Economics 500）

企業経済学Ｂ

砂田　充

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、産業組織論（Industrial Organization）・企業経済学（Business Economics）・競争政策の経済学（Antitrust Economics）の基本・応用モデルを学習する。特に価格差別，カルテル，合併および垂直的取引の様々なモデルについて学習する。授業形態については未定としているが，詳細は学習支援システムを通じて連絡する。

【到達目標】
産業組織論・企業経済学・競争政策の経済学の基本・応用モデルを自ら構築・解析できる能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
スライドと黒板を使った講義形式がメイン。学生による報告を求める場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	オリエンテーション
第2回	寡占市場①	寡占市場の基本モデル（復習）
第3回	寡占市場②	製品差別化（復習）
第4回	寡占市場③	消費者の離散選択モデル/Logitモデル
第5回	需要分析①	回帰分析（復習）
第6回	需要分析②	需要関数の推定/操作変数法
第7回	価格差別①	価格差別の基礎/グループ別価格
第8回	価格差別②	バンドル
第9回	価格差別③	メニュー価格
第10回	カルテル①	カルテルの最適化行動と安定性/報復の脅威による協調の維持
第11回	カルテル②	カルテル規制/不当な取引制限
第12回	合併①	企業結合規制/水平的合併と効率性/水平的合併と社会的厚生
第13回	合併②	合併シミュレーション/合併の実証研究
第14回	総括	これまでの内容のおさらいと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は各講義前に講義資料を授業支援システムよりDLして予習（2時間程度），講義後には講義資料および自筆ノート等を使って復習（2時間程度）することが必要である。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
小田切宏之『新しい産業組織論：理論・実証・政策』（有斐閣，2001年），丸山雅祥『経営の経済学[第３版]』（有斐閣，2017年），Belleflamme, P. and M. Peitz Industrial Organization: Markets and Strategies, Cambridge Univ. Press, 2010，Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Shaefer Economics of Strategy, 6th edition, John Wiley & Sons, 2013，Motta, M. Competition Policy: Theory and Practice, Cambridge Univ.Press, 2004，Shy, O. Industrial Organization: Theory and Applications, MIT Press,1996，Tirole, J. The Theory of Industrial Organization, MIT Press, 1988 他適宜紹介する予定。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（50～95%），平常点（5～50%）により評価をする。

【学生の意見等からの気づき】
学生が自らの研究テーマについて分析モデルを構築できるように指導を心掛けたい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
産業組織論・企業経済学・競争政策の経済学
＜研究テーマ＞
企業の経営戦略と公共政策の経済分析
＜主要研究業績＞
"Competition among Movie Theaters: An Empirical Investigation of the Toho-Subaru Antitrust Case," Journal of Cultural Economics, Vol. 36,Number 3, pp. 179-206, August 2012.
"Coverage Area Expansion, Customer Switching, and Household Profiles in the Japanese Broadband Access Market," Information Economics and Policy, Vol. 23, Issue 1, pp. 12-23, March 2011 (with Masato Noguchi,Hiroshi Ohashi, and Yosuke Okada).
"Measuring the Cost of Living Index, Output Growth, and Productivity Growth in the Retail Industry: An Application to Japan," Review of Income and Wealth, Vol. 56, Issue 4, pp. 667-692, December 2010.

【Outline (in English)】
This course is graduate-level introduction to industrial organization and managerial economics.
The goal of this course is that students understand various models in the fields and acquire modeling skills for their own research interests. This course will focus on, but not limited to, the topics as follows: pricing strategy, cartel, horizontal merger, demand analysis, and so on.
Students will be expected to thoroughly prepare each class meeting using course materials which provided through Hoppii (about two hours required), and, if required, to complete a homework assignment through Hoppii (about two hours required).
Students are also expected to have solid comprehension of undergraduate microeconomics.
The grade will be based on the final exam (50-95%) and the homework (5-50%).

ECN562C1－1（経済学 / Economics 500）

国際金融論Ａ

ブー　トウン　カイ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の世界では、対外取引は各国の経済にとってますます重要になっている。対外取引は多くの場合異なった通貨を媒介として行われる。「国際金融論A/B」の講義ではこうした一国経済の対外取引、特に通貨がかかわっているその金融的側面について学ぶ。春学期の講義では、経済全体の中の対外取引の位置づけ、対外取引の意義やその内容と統計データ、為替市場の仕組み・取引内容、為替レートと金利や物価との関係、短期と長期における為替レート決定の理論および理論の実証的検証方法などについて学ぶ。

【到達目標】
対外取引の意義や内容、その統計データの活用、為替市場の仕組みと為替取引、為替レートと金利や物価との関係、為替レート決定などを理解でき、さらにこれらの内容に関する現実の様々な問題に関心を持ち、経済学の手法を用いて理論的・実証的に分析できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイントの講義ノートを教室前方の画面に映し、随時に黒板書きも併用しながら講義を行う。授業支援システムに講義ノートのファイルやその他の関連資料を掲載する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際金融論の紹介
2	国際金融の基本的視点の設定	金融取引の意義、国際的視点
3	統計でマクロ経済をみる	国民所得勘定、資金循環勘定
4	統計で対外取引をみる	国際収支表
5	貨幣	貨幣、貨幣需要、貨幣供給
6	貨幣と物価	貨幣市場の均衡、短期と長期における貨幣と物価との関係
7	貨幣と物価に関する理論と実証研究	貨幣需要関数の理論と推定、貨幣と物価との関係の実証分析
8	為替レート	名目為替レート、実質為替レート、実効為替レート、データを用いる実効為替レートの算出
9	外国為替市場	外国為替市場、直物・先物レート、通貨デリバティブ
10	金利と為替レート	金利裁定、カバー付金利平価、カバーなし金利平価、均衡為替レート
11	為替レート決定の理論（1）	貨幣市場と外国為替市場、リスク・プレミアム
12	金利平価の検証	金利平価の実証研究文献、データとパソコンを用いる演習
13	物価と為替レート、及び為替レート決定の理論（2）	生産物裁定と購買力平価、マネタリーモデル
14	購買力平価からの乖離	データでみる実質為替レートの長期的トレンド、労働生産性とバラッサ・サミュエルソン効果

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自で事前に授業支援システムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。また、毎回の授業までにその前回で学んだ内容を復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
1.『コア・テキスト国際金融論』第2版、藤井英次、新世社 2014年.
2.『MBAのための国際金融』小川 英治・川崎 健太郎、有斐閣 2007年.

【参考書】
1.“International Economics: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 第12版 (2022年) (英語) ペーパーバック.
2.“International Finance and Open-Economy Macroeconomics,”by Giancarlo Gandolfo, Springer; 2nd Edition (2016年)（ハードカバー）.
3.『新しい国際金融論 – 理論・歴史・現実』勝 悦子、有斐閣 2011年.

【成績評価の方法と基準】
以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。
小テスト・宿題：25%、中間レポート：25％、学期末レポート：50％

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度を見ながら若干内容を変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】
コンピュータによるデータ分析の演習があるので、ノートパソコンをもつことが望ましい。

【その他の重要事項】
授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際マクロ経済学、国際金融論
＜研究テーマ＞
開放経済の理論と実証、経済政策の効果、東アジアの為替制度、アジア諸国のマクロ経済問題
＜主要研究業績＞
(1) "Physical Capital Accumulation in Asia 12: Past Trends and Future Projections," Japan and the World Economy, Vol.24, Issue 2, pp.38-149, 2012 (with Etsuro Shioji).
(2) "Oil Price Fluctuations and the Small Open Economies of Southeast Asia: An Analysis Using Vector Autoregression with Block Exogeneity," Journal of Asian Economics 54 (2018),1– 21 (with Hayato Nakata).
(3) "Remittances, the Dutch Disease, and Premature Deindustrialization in the Philippines," 法政大学経済学部学会, 経済志林 90(1-2), 147-164, 2022年10月.

【Outline (in English)】
International transactions have become increasingly important to every country in the world today. These are mainly transactions in goods, services and financial assets that require currencies as the medium of exchange. In this course we will learn about these international transactions, with a special focus on financial assets and currencies.
To deepen understanding, the students are expected to read the class materials (lecture notes, textbooks, and related journal papers) after each lecture. Also, homework is assigned frequently.
Grading is based on the students’ homework and (midterm & final) report performance.

ECN562C1 – 2（経済学 / Economics 500）

国際金融論 B

ブー　トウン　カイ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の世界では、対外取引は各国の経済にとってますます重要になっている。対外取引は多くの場合異なった通貨を媒介として行われる。「国際金融論A/B」の講義ではこうした一国経済の対外取引、特に通貨がかかわっているその金融的側面について学ぶ。秋学期の講義では、春学期の講義内容を踏まえ、為替レート決定の諸理論およびその実証的検証の方法、為替市場の効率性、為替レートと実物経済財との関係、開放経済を分析する諸モデル、そして国際金融論の発展・応用的なトピック（為替介入、為替制度、通貨危機、国際金融市場の役割、国際金融協力）などについて学ぶ。

【到達目標】
為替レート決定の諸理論の内容や相違点、為替市場の特徴や役割、為替レートと実物経済財との関係、開放経済におけるマクロ経済政策の仕組みや効果などを理解でき、さらに為替介入や為替制度選択、共通通貨としてのユーロ、発展途上国の国際金融、世界的な経常収支不均衡といった国際金融分野の現実における様々な問題に関心を持ち、経済学の手法を用いて理論的・実証的に分析できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業で扱うテキストの各章を受講者間で担当を決め、毎回の授業で最初に受講者が事前に準備した各章の内容を発表し、最後に教員が総括を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	為替レート決定の理論（3）	ポートフォリオ・アプローチとその実証分析
2	為替レート決定の理論（4）	ニュースの理論とその実証分析
3	外国為替市場の効率性	効率的市場仮説、先物相場と直物相場、先物相場プレミアムに関する実証分析
4	為替レートと実体経済（1）	総需要と総供給、内需と外需、生産物市場の短期均衡
5	為替レートと実体経済（2）	為替レートと経常収支、弾力性アプローチとその実証分析
6	マクロ経済分析の理論的枠組み	IS-LMモデルの復習：名目価格硬直性、短期と長期、短期のマクロ経済理論としてのIS-LMモデル、総生産の決定、外生ショックと景気変動、マクロ経済政策の効果
7	開放経済分析の理論的枠組み（1）	マンデル・フレミングモデルの構築、それを用いる分析：変動相場制下の金融・財政政策の効果
8	開放経済分析の理論的枠組み（2）	マンデル・フレミングモデルを用いる分析：固定相場制下の金融・財政・為替政策の効果
9	マンデル・フレミングモデルから動学的開放マクロ経済学へ	動学的開放マクロ経済学の理論と実証
10	為替介入	為替介入の定義、実際、仕組み、理論・実証的効果、固定相場制維持介入と通貨危機
11	為替制度の選択	開放経済におけるトリレンマ、世界各国の為替制度の現状、為替制度選択問題と「両極の解」の議論
12	通貨同盟と最適通貨圏	EUとユーロの概要、最適通貨圏の理論と実証分析
13	発展途上国の国際金融	発展途上国の国際金融の現実の諸問題と政策
14	東アジアの経済統合と地域的通貨協力	東アジアにおける貿易や投資の面での経済統合やアジア通貨危機、そして地域的通貨協力について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自で毎回の授業までにその前回で学んだ内容を1時間程度で復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
1.『コア・テキスト国際金融論』第2版、藤井英次、新世社2014年.
2.『MBAのための国際金融』小川英治・川崎健太郎、有斐閣2007年.

【参考書】
1.“International Economics: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 第12版 (2022年) (英語) ペーパーバック.
2.“International Finance and Open-Economy Macroeconomics,”by Giancarlo Gandolfo, Springer; 2nd Edition (2016年)（ハードカバー）.
3.『新しい国際金融論– 理論・歴史・現実』勝悦子、有斐閣2011年.

【成績評価の方法と基準】
以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。
小テスト・宿題： 25%、中間レポート： 25 ％、学期末レポート：50 ％

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度を見ながら若干内容を変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】
コンピュータによるデータ分析の演習があるので、ノートパソコンをもつことが望ましい。

【その他の重要事項】
教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などはしないこと。授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際マクロ経済学、国際金融論
＜研究テーマ＞
開放経済の理論と実証、経済政策の効果、東アジアの為替制度、アジア諸国のマクロ経済問題
＜主要研究業績＞
(1) "Physical Capital Accumulation in Asia 12: Past Trends and Future Projections," Japan and the World Economy, Vol.24, Issue 2, pp.38-149, 2012 (with Etsuro Shioji).
(2) "Oil Price Fluctuations and the Small Open Economies of Southeast Asia: An Analysis Using Vector Autoregression with Block Exogeneity," Journal of Asian Economics 54 (2018),1– 21 (with Hayato Nakata).
(3) "Remittances, the Dutch Disease, and Premature Deindustrialization in the Philippines," 法政大学経済学部学会, 経済志林 90(1-2), 147-164, 2022年10月.

【Outline (in English)】
International transactions have become increasingly important to every country in the world today. These are mainly transactions in goods, services and financial assets that require currencies as the medium of exchange. In this course we will learn about these international transactions, with a special focus on financial assets and currencies.

To deepen understanding, the students are expected to read the class materials (lecture notes, textbooks, and related journal papers) after each lecture. Also, homework is assigned frequently.
Grading is based on the students' homework and (midterm & final) report performance.

ECN552C1 − 1（経済学 / Economics 500）

環境政策論Ａ

西澤　栄一郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境政策の経済分析−政策手法を中心に−

【到達目標】
①環境問題に関わる政策手法を理解する。
②環境政策の経済学的分析手法を身につける。
③他国・地域の環境政策の手法について調べ、日本と対比する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
環境政策の経済分析を主たるテーマとする。環境問題の経済的分析手法を解説し、具体的な政策手法について分析する。
講義と輪読を併用するが、具体的な進め方については受講者と相談して決める。期末には簡単なリポート提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション・日本の環境問題の史的変遷	オリエンテーション、江戸時代から20世紀末までの歴史
第2回	地球温暖化対策	気候変動枠組み条約、京都議定書、パリ協定
第3回	環境問題の経済分析	余剰分析、厚生経済学の基本定理、市場の失敗、公共財、外部性
第4回	環境政策の手段①	政策手段の分類、直接規制、環境税
第5回	環境政策の手段②	排出取引、環境補助金、デポジット制度
第6回	生物多様性の保全	生態系サービス、生物多様性条約
第7回	環境政策の実証研究	実証論文の講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
下記の参考書や各回に紹介する参考文献を読む。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しない。配付資料により講義を行う。

【参考書】
①ハンレー・ショグレン・ホワイト(2021)『環境経済学入門』昭和堂
②大沼あゆみ・柘植隆宏(2021)『環境経済学の第一歩』有斐閣
③栗山浩一・馬奈木俊介(2020)『環境経済学をつかむ 第4版』有斐閣
④有村俊秀・片山東・松本茂編(2017)『環境経済学のフロンティア』日本評論社

【成績評価の方法と基準】
リポートとその内容に関する発表（50％）、平常点と授業への参加（50％）

【学生の意見等からの気づき】
アンケートを実施していないため、該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境政策論、農業経済学
＜研究テーマ＞欧米の環境政策・農業環境問題
＜主要研究業績＞
①「農業環境政策のポリティカル・サイエンス：環境政策統合からのアプローチ」『農業経済研究』第94巻2号，pp.106-119，2022年.
②『環境政策史−なぜいま歴史から問うのか』（共編著）ミネルヴァ書房，2017年.
③『農業環境政策の経済分析』（編著）日本評論社，2014年.

【Outline (in English)】
（Course outline）This course deals with economic analyses of environmental policies.
（Learning Objectives）The goals of this course are to acquire methods of economic analysis on environmental issues and to comprehend environmental conservation measures.
（Learning activities outside of classroom）Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）Grading will be decided based on the term-end report (50%) and in-class contribution (50%).

ECN552C1－2（経済学 / Economics 500）

環境政策論Ｂ

西澤　栄一郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然資源管理政策―日本の農林水産政策の現状と課題―

【到達目標】
①農林水産業に関わる政策手法を理解する。
②農林水産業の経済学的分析手法を身につける。
③他国・地域の農林水産政策について調べ、日本と対比する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
日本の農林水産業を主たる分析対象とする。農林水産行政を概観し、具体的な政策手法について解説する。
講義と輪読を併用するが、具体的な進め方については受講者と相談して決める。期末には簡単なリポート提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	農林水産政策の展開過程
第2回	食料・農業政策の手法	価格政策と所得政策
第3回	公共財提供者としての農業	生態系サービス、農業環境政策
第4回	海外の農業政策	EUとアメリカ
第5回	林業	森林資源の管理
第6回	水産業	水産資源の管理
第7回	農林水産政策の実証研究	実証論文の講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
下記の参考書や各回に紹介する参考文献を読む。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しない。配付資料により講義を行う。

【参考書】
①荏開津典生・鈴木宣弘(2020)『農業経済学 第5版』岩波書店
②バリー・C・フィールド(2016)『入門自然資源経済学』日本評論社

【成績評価の方法と基準】
リポートとその内容に関する発表（50％）、平常点と授業への参加（50％）

【学生の意見等からの気づき】
アンケートを実施していないため、該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境政策論、農業経済学
＜研究テーマ＞欧米の環境政策・農業環境問題
＜主要研究業績＞
①「農業環境政策のポリティカル・サイエンス：環境政策統合からのアプローチ」『農業経済研究』第94巻2号，pp.106-119，2022年.
②『環境政策史－なぜいま歴史から問うのか』（共編著）ミネルヴァ書房，2017年.
③『農業環境政策の経済分析』（編著）日本評論社，2014年.

【Outline (in English)】
（Course outline）This course deals with management policies for natural resources, specifically in the field of agriculture, forestry, and fisheries.
（Learning Objectives）The goals of this course are to acquire methods of economic analysis on natural resource issues and to comprehend agriculture, forestry, and fisheries in Japan.
（Learning activities outside of classroom）Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）Grading will be decided based on the term-end report (50%) and in-class contribution (50%).

ECN564C1－2（経済学 / Economics 500）

経済地理学Ｂ

近藤　章夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済地理学の主要テーマに関する重要論文および展望論文の読解を通して、分析手法やアプローチについて議論する。

【到達目標】
経済地理学の最先端での研究を理解し、国際的に名声の高い学術誌に掲載された論文の分析手法を理解できる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
輪読文献リストを初回に配布する。また関連文献については適宜紹介する。参加者には輪読文献の報告を求める。毎回の出席と積極的な議論への参加を重視する。なお、履修者の関心および講義の進捗状況によっては、輪読文献を柔軟に変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	輪読文献の概要と講義の進め方
第2回	経済学と地理・空間（1）	主要論文の読解
第3回	経済学と地理・空間（2）	主要論文の読解
第4回	経済学と地理・空間（3）	主要論文の読解
第5回	都市と集積（1）	主要論文の読解
第6回	都市と集積（2）	主要論文の読解
第7回	都市と集積（3）	主要論文の読解
第8回	イノベーションとネットワーク（1）	主要論文の読解
第9回	イノベーションとネットワーク（2）	主要論文の読解
第10回	イノベーションとネットワーク（3）	主要論文の読解
第11回	空間経済の理論と実証（1）	主要論文の読解
第12回	空間経済の理論と実証（2）	主要論文の読解
第13回	空間経済の理論と実証（3）	主要論文の読解
第14回	経済地理学のフロンティアとまとめ	展望論文を通じた整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。テキストおよび参考文献の読解および事後の課題への取り組みを求める。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
Brakman, S., et al.（2019）『An Introduction to Geographical and Urban Economics: A Spiky World（3rd edition）』Cambridge University Press
Clark, G. L., et al.（2018）『The New Oxford Handbook of Economic Geography』Oxford University Press
Combes, P. P., et al.（2008）『Economic Geography: The Integration of Regions and Nations』Princeton University Press
Duranton, G. et al.（2015）『Handbook of Regional and Urban Economics Vol.5』North Holland
松原宏（2006）『経済地理学－立地・地域・都市の理論－』東京大学出版会
佐藤泰裕ほか（2011）『空間経済学』有斐閣
その他の参考文献は適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加が評価の中心となる。
平常点（出席および輪読文献の紹介等）80%、期末レポート20%

【学生の意見等からの気づき】
受講生の関心と理解度に最大限配慮して柔軟に授業計画を進める。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
授業は対面形式を基本とするが、履修者と相談のうえ、オンライン形式で実施することがある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞経済地理学、都市・地域経済学、空間情報科学
＜主要研究業績＞
①共著（2015）『都市空間と産業集積の経済地理分析』日本評論社
②共著（2012）『産業立地と地域経済』放送大学教育振興会
③単著（2007）『立地戦略と空間的分業』古今書院

【Outline (in English)】
Course outline and objectives:
Through the reading of key and prospective papers on major topics in economic geography, we will discuss the achievements of their research methods and approaches.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy:
Final grade will be calculated according to the following process Term-end report(20%), and in-class contribution(80%).

ECN556C1－1（経済学 / Economics 500）

社会保障論Ａ

小黒　一正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
急速に進む少子高齢化や人口減少に伴い、年金や医療などの社会保障制度は様々な課題に直面している。このうち、本講義（社会保障論A）では、年金制度に関連する主要論点をテーマに取り上げる。なお、年金制度・医療介護制度は互いに関連する部分があり、医療制度に関する主要論点は社会保障論Bで扱うが、この関係も若干補足的に説明する。

【到達目標】
年金制度に関連する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
（１）前半は、年金制度に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
（２）後半は、医療制度に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
（３）必要に応じて、参加者に、参考文献の報告を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	年金制度（１）	ガイダンス
2	年金制度（２）	年金制度間の財政調整
3	年金制度（３）	財源調達の仕組みと問題点
4	年金制度（４）	給付水準と留意点
5	年金制度（５）	人口動態と賦課方式、所得代替率の定義と留意点、世代間格差
6	年金制度（６）	2004年改正と課題
7	年金制度（７）	雇用形態の多様化と公的年金
8	年金制度（８）	厚生年金と共済年金の一元化
9	年金制度（９）	スウェーデンの年金制度
10	年金制度（10）	カナダの年金制度
11	年金制度（11）	イギリスの年金制度
12	年金制度（12）	社会保障・税の一体改革、2016年改正
13	年金制度（13）	2019年財政検証
14	年金制度（14）	年金改革の方向性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考文献（テキストや主要論文）を事前に読んでおくことが望ましい。また報告にあたっては、当該文献のみでなく、関連文献にも目を通しておくこと。準備・復習時間は、各2時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
参加者と相談して決めるが、現在のところ、以下を予定している。
・西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社, 2008
・吉原健二・畑満『日本公的年金制度史: 戦後七〇年・皆年金半世紀』中央法規出版, 2016

【参考書】
①Persson and Tabellini, Political Economics, MIT Press, 2002
②西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社, 2008
③吉原健二・畑満『日本公的年金制度史: 戦後七〇年・皆年金半世紀』中央法規出版, 2016
④小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社, 2020

【成績評価の方法と基準】
授業内での貢献（70％）＋レポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
基本は対面だが、感染が再拡大した場合、Zoomを利用したオンラインで授業を行うことも検討する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
財政学、公共経済学
＜研究テーマ＞
人口動態と政治経済の相互作用や世代間問題の分析
＜主要研究業績＞
①)Child Benefit and Fiscal Burden in the Endogenous Fertility Setting, Economic Modelling, 44, 252-265, 2015
② Impact of Deflation on Real Interest rate of Government Bonds, The Economic Review, 64(2), 147-159, 2013
③ Demographic Change, Intergenerational Altruism, and Fiscal Policy - A Political Economy Approach -, Studies in Applied Economics, 6, 1-15, 2013
④ Ability transmission, endogenous fertility, and educational subsidy, Applied Economics, 45(17), 2469-2479, 2012

【Outline (in English)】
The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of Japanese social security system, by using the approaches of public economics. This will also help you to predict the future direction of Japanese social security system at a much deeper level. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your overall grade in the class will be decided based on the following (Short reports : 30%、in class contribution: 70%).

ECN556C1－2（経済学 / Economics 500）

社会保障論Ｂ

小黒　一正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
急速に進む少子高齢化や人口減少に伴い、年金や医療などの社会保障制度は様々な課題に直面している。このうち、本講義（社会保障論B）では、医療制度に関連する主要論点をテーマに取り上げる。なお、年金制度・医療介護制度は互いに関連する部分があり、年金制度に関する主要論点は社会保障論Aで扱うが、この関係も若干補足的に説明する。

【到達目標】
医療制度に関連する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
（１）前半は、年金制度に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
（２）後半は、医療制度に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
（３）必要に応じて、参加者に、参考文献の報告を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	医療制度（１）	ガイダンス
2	医療制度（２）	日本の医療制度の沿革、医療制度の確立・拡張期
3	医療制度（３）	医療制度の改革期
4	医療制度（４）	医療制度・政策の国際比較①（ドイツの医療制度改革）
5	医療制度（５）	医療制度・政策の国際比較②（アメリカの医療制度改革）
6	医療制度（６）	医療制度・政策の国際比較③（スウェーデンの医療制度改革）
7	医療制度（７）	医療保険制度の基本問題
8	医療制度（８）	各医療保険制度の構造と政策課題
9	医療制度（９）	医療供給制度の構造と改革の方向性
10	医療制度（10）	医療供給の改革手法
11	医療制度（11）	薬価制度・高額薬剤の現状と課題
12	医療制度（12）	医薬品の現状と改題
13	医療制度（13）	薬価制度改革と今後の方向性
14	医療制度（14）	年金改革の方向性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考文献（テキストや主要論文）を事前に読んでおくことが望ましい。また報告にあたっては、当該文献のみでなく、関連文献にも目を通しておくこと。準備・復習時間は、各2時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
参加者と相談して決めるが、現在のところ、以下を予定している。
・島崎謙治『日本の医療: 制度と政策』東京大学出版会, 2020
・小黒一正・菅原琢磨編『薬価の経済学』日本経済新聞出版社, 2018

【参考書】
①Persson and Tabellini, Political Economics, MIT Press, 2002
②島崎謙治『日本の医療: 制度と政策』東京大学出版会, 2020
③小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社, 2020
④小黒一正・菅原琢磨編『薬価の経済学』日本経済新聞出版社, 2018

【成績評価の方法と基準】
授業内での貢献（70％）＋レポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
基本は対面だが、感染が再拡大した場合、Zoomを利用したオンラインで授業を行うことも検討する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
財政学、公共経済学
＜研究テーマ＞
人口動態と政治経済の相互作用や世代間問題の分析
＜主要研究業績＞
①)Child Benefit and Fiscal Burden in the Endogenous Fertility Setting, Economic Modelling, 44, 252-265, 2015
② Impact of Deflation on Real Interest rate of Government Bonds, The Economic Review, 64(2), 147-159, 2013
③ Demographic Change, Intergenerational Altruism, and Fiscal Policy - A Political Economy Approach -, Studies in Applied Economics, 6, 1-15, 2013
④ Ability transmission, endogenous fertility, and educational subsidy, Applied Economics, 45(17), 2469-2479, 2012

【Outline (in English)】
The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of Japanese social security system, by using the approaches of public economics. This will also help you to predict the future direction of Japanese social security system at a much deeper level. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your overall grade in the class will be decided based on the following (Short reports : 30%、in class contribution: 70%).

ECN574C1－1（経済学 / Economics 500）

労働経済学Ａ

酒井　正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済理論を応用することで，労働市場における諸現象を解釈すると同時に，労働市場に関する統計資料を読み解く力を養います.

【到達目標】
学生は，この講義を通して，基本的な労働供給・労働需要・市場均衡の理論を理解します．更に，人的資本理論や補償賃金格差といった理論についても学習し，働き方を巡る様々な現象を実証的に分析する能力を身に付けることを最終的な目標とします.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は，対面授業形式でおこないます．授業内で，文献に基づいた報告をおこなってもらう場合があります.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	労働経済学とは
第2回	労働市場の概観	統計で見る日本の労働市場
第3回	労働供給行動（1）	静学的労働供給モデル
第4回	労働供給行動（2）	静学的労働供給モデルの応用
第5回	労働需要行動（1）	短期・長期の労働需要
第6回	労働需要行動（2）	調整費用モデル等
第7回	労働市場均衡	競争均衡，買手独占
第8回	実証分析の方法（1）	回帰分析
第9回	実証分析の方法（2）	セレクション・バイアスの概念とその対処
第10回	補償賃金格差	ヘドニック・モデルとその応用（「同一労働同一賃金」等）
第11回	人的資本投資（1）	教育投資モデル，シグナリング・モデル
第12回	人的資本投資（2）	一般的訓練と企業特殊的訓練
第13回	賃金格差・所得格差	所得格差の概観，グループ間賃金格差
第14回	地域間労働移動	ロイ・モデル等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は，講義で使用した資料をよく復習することが求められます．また，授業内で示された文献にも，極力，目を通すことが望まれます．本講義の準備・復習に必要な時間は，4時間を標準とします.

【テキスト（教科書）】
特になし.

【参考書】
Borjas, G『Labor Economics 8th Edition』（McGraw Hill Higher Education, 2019 年）
川口大司『労働経済学 理論と実証をつなぐ』（有斐閣，2017年）

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（100%）によって評価する予定です．剽窃等の不正行為については厳しく対処します.

【学生の意見等からの気づき】
修士論文等の作成の役に立つように，実証分析で何が解っており，何が解っていないかを明らかにすることを心がけたいと思います.

【担当教員の専門分野等】
専門領域：労働経済学、社会保障論
研究テーマ：就業と社会保障制度の関係についての実証分析

＜主要研究業績＞
『日本のセーフティーネット格差 労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会，2020年）
"Education and Marriage Decisions of Japanese Women and the Role of the Equal Employment Opportunity Act"（共著）Journal of Human Capital 13(2) pp. 260-292, 2019.

【Outline (in English)】
The objective of this course is to learn how to analyze various phenomenon in labor market by applying micro-economic theory with the data. This course also covers topics such as labor scarcity, foreign workers and economics of education.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated based on term-end report (100%).

ECN574C1－2（経済学 / Economics 500）

労働経済学Ｂ

酒井　正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
労働経済学Aで学んだことを踏まえ，労働市場に関するより具体的なトピックを取り上げて解説します．特に，労働政策や社会保障等の各種施策が私たちの働き方にもたらす影響について，データに基づいた検討をおこないます．（取り上げるトピックの例．「介護離職」，「長時間労働」，「待機児童問題」等）
また，雇用保険等の労働市場のセーフティーネットに関する議論にも時間を割きます．

【到達目標】
学生が，働き方を巡る「論点」を知り，それを経済学的に考えることを通じて，労働問題や公共政策の議論に参加できるようになることを最終的な目標とします．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は，対面授業形式でおこないます．授業内で，文献に基づいた報告をおこなってもらう場合があります．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	労働経済学及び実証分析の基本概念の復習
第2回	人事の経済学（1）	固定給と出来高給
第3回	人事の経済学（2）	相対評価，後払い賃金
第4回	労働市場における差別	差別の経済理論，男女間賃金格差
第5回	失業（1）	日本の失業の概観
第6回	失業（2）	失業を説明する理論
第7回	失業保険・労災保険	失業保険に関する実証分析，労働災害の現状
第8回	最低賃金	最低賃金の影響に関する実証分析
第9回	就業形態の多様化	非正規雇用の増加要因，仕事の二極化
第10回	若年就業	若年就業の現状と「烙印効果」
第11回	高齢者就業	引退行動に影響を与える要因，介護離職問題
第12回	労働時間	労働時間の実態とワークライフバランス
第13回	両立支援制度	女性の就業と保育サービス・育児休業
第14回	社会保険料事業主負担の帰着問題	事業主負担の帰着に関する理論と実証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は，講義資料をよく復習する必要があります．また，指示された文献（学術論文等）についても目を通すことが望まれます．本講義の準備・復習に必要な学習時間は，4時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし．

【参考書】
酒井正『日本のセーフティーネット格差 労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会，2020年）
Boeri, T., and J. van Ours (2021) The Economics of Imperfect Labor Markets 3rd Edition, Princeton Univ Pr

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（100%）によって評価する予定です．剽窃等の不正行為については厳しく対処します．

【学生の意見等からの気づき】
修士論文等の作成の役に立つように，実証分析で何が解っており，何が解っていないかを明らかにすることを心がけたいと思います．

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 労働経済学，社会保障論
＜研究テーマ＞ 就業と社会保険
＜主要研究業績＞
"Does a Wife's Employment Affect her Husband's Retirement Decision? Evidence from Japanese Longitudinal Data," (共著) Journal of International Economic Studies 35: 45-52, 2021.
"Education and Marriage Decisions of Japanese Women and the Role of the Equal Employment Opportunity Act"（共著）Journal of Human Capital 13(2), pp. 260-292, 2019.

【Outline (in English)】
Based on what students learned in labor economics A, the goal of this course is to analyze more specific topics, especially topics on labor market policy and social policy. Safety net such as unemployment insurance is also deeply discussed.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated based on term-end exam (100%).

ECN573C1－2（経済学 / Economics 500）

応用計量経済学B

明城　聡

備考（履修条件等）：（2021年度以降入学者用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では経済学分野の実証分析で用いられているミクロ計量手法についてトピックを選んで解説する。近年の実証分析で多く利用されている構造推定アプローチについて焦点を当てた議論をする。特に企業の生産性の推定方法(生産関数)、消費者行動(需要関数)の分析手法を解説するとともに、政策評価に必要な技術を習得することを目標とする。

【到達目標】
消費者や企業のミクロデータを利用して実証分析を行う際に利用可能な構造推定の手法を学習する。特に生産関数の推定（内生問題への対応、規模の経済および学習効果の推定）、同質財の需要と価格付け、差別化された財の需要と価格付け（垂直的差別化モデル、離散選択モデル）、および動学的意思決定モデルを利用した投資行動などのトピックを扱う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義では実証分析を行う際の問題点とそれを克服するための分析手法について解説する。また統計パッケージRを用いた演習を行って理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業についての説明
第2回	企業の生産性の推定(1)	・生産関数の推定 ・内生性の問題
第3回	企業の生産性の推定(2)	・パネルデータの利用 ・誤差項の系列相関
第4回	企業の生産性の推定(3)	・投資ショックによる内生性の識別
第5回	学習効果と規模の経済	・費用関数の推定 ・学習効果と規模の経済の識別
第6回	演習(1)	情報処理室にて演習
第7回	同質財市場	・コンダクトパラメータの識別問題 ・小麦輸送市場の分析
第8回	差別化された財市場(1)	・垂直的差別化モデルによる自動車市場の分析
第9回	差別化された財市場(2)	・離散選択モデル(1)
第10回	差別化された財市場(3)	・離散選択モデル(2)
第11回	演習(2)	情報処理室にて演習
第12回	動学モデル(1)	・動学モデルについて ・状態遷移とマルコフ完全均衡 ・価値関数とベルマン方程式
第13回	動学モデル(2)	・Nested Fixed Pointアプローチと Two Step法 ・離散選択モデルによる動学推定
第14回	動学モデル(3)	・シミュレーションによる価値関数の推定 ・米国生コンクリート市場の分析 ・米国自動車市場の分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業担当者が作成した講義資料を授業で配布する。

【参考書】
【産業組織論】
(1) D. Carlton and J. Perloff, Modern Industrial Organization, Harper-Collins, 2005.
(2) R. Schmalensee and R. Willig, eds., Handbook of Industrial Organization vol.1, North-Holland, 1989.
(3) M. Armstrong and R. H. Porter ed., Handbook of Industrial Organization vol.3, North-Holland, 2007.
(4) J. Tirole, the Theory of Industrial Organization, MIT, 1998.
【ミクロ経済学】
(1) Hal R. Varian, Microeconomic Analysis, 3rd ed., Norton, 1992
(2) 奥野正寛『ミクロ経済学』、東大出版会、2008年
【計量経済学】
(1) J. M. Wooldridge, Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data, MIT, 2002.
(2) 浅野哲、中村二郎『計量経済学・第二版』、有斐閣、2009年
・K. E. Train, Discrete Choice Methods with Simulation, 2nd ed., Cambridge, 2009.

【成績評価の方法と基準】
課題レポートで評価する(100%)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
実証産業組織論、応用統計学
＜研究テーマ＞
構造推定を用いた市場分析
＜主要研究業績＞
1.　On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available, International Economic Review, Vol.53, no.3, pp.887-937, 2012.
2.　Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: The Case of Solar Photovoltaic Systems in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, vol.48, pp.55-67, 2018.

【Outline (in English)】
This course provides advanced econometric tools to analyze economic micro data. Especially, structural estimation approaches used in recent empirical industrial economics are covered. Students also learn these estimation techniques and programming algorithms applied to the firm-level and product-level data analysis using R.
Preparation and review: 2hours including homework assignments
Grading: term report 100%

ECN573C1－2（経済学 / Economics 500）

ミクロ計量分析B

明城　聡

備考（履修条件等）：**（2020年度以前入学者用）**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では経済学分野の実証分析で用いられているミクロ計量手法についてトピックを選んで解説する。近年の実証分析で多く利用されている構造推定アプローチについて焦点を当てた議論をする。特に企業の生産性の推定方法(生産関数)、消費者行動(需要関数)の分析手法を解説するとともに、政策評価に必要な技術を習得することを目標とする。

【到達目標】
消費者や企業のミクロデータを利用して実証分析を行う際に利用可能な構造推定の手法を学習する。特に生産関数の推定（内生問題への対応、規模の経済および学習効果の推定）、同質財の需要と価格付け、差別化された財の需要と価格付け（垂直的差別化モデル、離散選択モデル）、および動学的意思決定モデルを利用した投資行動などのトピックを扱う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義では実証分析を行う際の問題点とそれを克服するための分析手法について解説する。また統計パッケージRを用いた演習を行って理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業についての説明
第2回	企業の生産性の推定(1)	・生産関数の推定 ・内生性の問題
第3回	企業の生産性の推定(2)	・パネルデータの利用 ・誤差項の系列相関
第4回	企業の生産性の推定(3)	・投資ショックによる内生性の識別
第5回	学習効果と規模の経済	・費用関数の推定 ・学習効果と規模の経済の識別
第6回	演習(1)	情報処理室にて演習
第7回	同質財市場	・コンダクトパラメータの識別問題 ・小麦輸送市場の分析
第8回	差別化された財市場(1)	・垂直的差別化モデルによる自動車市場の分析
第9回	差別化された財市場(2)	・離散選択モデル(1)
第10回	差別化された財市場(3)	・離散選択モデル(2)
第11回	演習(2)	情報処理室にて演習
第12回	動学モデル(1)	・動学モデルについて ・状態遷移とマルコフ完全均衡 ・価値関数とベルマン方程式
第13回	動学モデル(2)	・Nested Fixed Pointアプローチと Two Step法 ・離散選択モデルによる動学推定
第14回	動学モデル(3)	・シミュレーションによる価値関数の推定 ・米国生コンクリート市場の分析 ・米国自動車市場の分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業担当者が作成した講義資料を授業で配布する。

【参考書】
【産業組織論】
(1) D. Carlton and J. Perloff, Modern Industrial Organization, Harper-Collins, 2005.
(2) R. Schmalensee and R. Willig, eds., Handbook of Industrial Organization vol.1, North-Holland, 1989.
(3) M. Armstrong and R. H. Porter ed., Handbook of Industrial Organization vol.3, North-Holland, 2007.
(4) J. Tirole, the Theory of Industrial Organization, MIT, 1998.
【ミクロ経済学】
(1) Hal R. Varian, Microeconomic Analysis, 3rd ed., Norton, 1992
(2) 奥野正寛『ミクロ経済学』、東大出版会、2008年
【計量経済学】
(1) J. M. Wooldridge, Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data, MIT, 2002.
(2) 浅野晳、中村二郎『計量経済学・第二版』、有斐閣、2009年
・K. E. Train, Discrete Choice Methods with Simulation, 2nd ed., Cambridge, 2009.

【成績評価の方法と基準】
課題レポートで評価する(100%)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
実証産業組織論、応用統計学
＜研究テーマ＞
構造推定を用いた市場分析
＜主要研究業績＞
1.　On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available, International Economic Review, Vol.53, no.3, pp.887-937, 2012.
2.　Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: The Case of Solar Photovoltaic Systems in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, vol.48, pp.55-67, 2018.

【Outline (in English)】
This course provides advanced econometric tools to analyze economic micro data. Especially, structural estimation approaches used in recent empirical industrial economics are covered. Students also learn these estimation techniques and programming algorithms applied to the firm-level and product-level data analysis using R.
Preparation and review: 2hours including homework assignments
Grading: term report 100%

OTR501C1 − 1（その他 / Others 500）

日本語ⅠＡ

清水　由美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語を母語としない留学生が、①フォーマルな場でテーマに沿って意見交換をする。②専門分野の論文を書くために最低限必要な日本語の基礎を固め、まとまった内容の文章を書くことに慣れる。

【到達目標】
（１）初級レベルの日本語のミスをなくす。
（２）中・上級レベルの文型と語彙を使いこなせるようになる。
（３）賛否の分かれるテーマについて、授業での話し合いにふさわしい日本語で意見交換ができるようになる。また、司会者として、そのような話し合いを運営できるようになる。
（４）事実・他者の意見・自分の意見をきちんと分けて、説得力のある意見文を書けるようになる。
（５）自分の書いた文章の間違いに気づく力を身につけ、よりよい表現を使いこなせるようになる。
（６）日本の新聞の投書欄に、意見文を投稿する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業の形態】
◇資料の配信と課題の提出およびフィードバックは、学習支援システムHoppiiを利用し、オンデマンドで行う。
◇ディスカッションの準備のための情報交換は、学習支援システムHoppiiの授業内掲示板を利用し、同時双方向で行う。
◇ディスカッションは、原則として対面で行う。
※各回の授業形態は、授業前日までに学習支援システムHoppiiで告知する。
【授業の進め方】
１．ディスカッション（＝意見交換）
①賛否の分かれそうなテーマ（学期中に３つ扱う予定）について、必要な情報を集める。＝予習＃１
②クラスでテーマに関するキーワードや概念について、情報を交換し、お互いに理解を確認する。　※Hoppiiの授業内掲示板を利用し、文字に残す。
③内容を理解したうえで、自分の意見をまとめる。司会を担当する学生は、ディスカッションの流れを予想し、進行の計画を立てる。＝予習＃２
④司会の進行指示に従って、ディスカッションする。　※対面もしくはZoomミーティング
⑤ディスカッションの中で見られた口頭表現の問題点や、司会進行について、意見や感想を交換する。＝振り返り
２．意見文執筆
⑥ディスカッションの内容に基づいて、自分の意見を500字程度の文章にまとめる。＝宿題＃１
⑦お互いの意見文を読み合い、質問や助言をし、評価もする。
⑧自分の書いた原稿と、講師による修正案を読みくらべ、日本語の問題点を見つける。＝宿題＃２
３．意見文投稿
⑨学期末に自分の書いた意見文から最もよいと思うもの１点を選び、実際に日本の新聞の投書欄に投稿する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業の目的と進め方の説明 ・自己紹介 ・日本語力確認とカルテ作成 ・ディスカッションのテーマを考える
第2回	テーマ選定 司会担当順決定	テーマ候補の意味・意図の確認 テーマ選定（投票） 司会者の役割を確認
第3回	テーマ①について情報共有	・テーマ①について情報と知識を共有する。 ・ディスカッションの設計と準備＝宿題
第4回	テーマ①-2	・ディスカッションを行う。 ・ディスカッションを終えて変わったこと、変わらなかったことをまとめる＝宿題
第5回	テーマ①-3	・ディスカッションの日本語について振り返る。 ・意見文サンプルを読み、構成を知る ・テーマ①について意見文を書く＝宿題
第6回	テーマ①-4	・意見文の日本語を振り返る。 ・意見文の完成＝宿題
第7回	テーマ②-1	・テーマ②について情報と知識を共有する。 ・ディスカッションの設計と準備＝宿題
第8回	テーマ②-2	・ディスカッションを行う。 ・ディスカッションを終えて変わったこと、変わらなかったことをまとめる＝宿題
第9回	テーマ②-3	・ディスカッションの日本語と、意見文の日本語について振り返る。 ・意見文を書く＝宿題
第10回	テーマ②-4	・意見文の日本語を振り返る。 ・意見文の完成＝宿題
第11回	テーマ③-1	・テーマ③について情報と知識を共有する。 ・ディスカッションの設計と準備＝宿題
第12回	テーマ③-2	・ディスカッションを行う。 ・意見文の執筆＝宿題
第13回	テーマ③-3	・ディスカッションの日本語と、意見文の日本語について振り返る。 ・意見文の完成＝宿題
第14回	・「ベスト意見文」を選んで投書する ・授業の振り返り	これまでに書いた意見文から自薦・他薦でいちばんよいものを選び、さらに推敲を重ねて完成させ、新聞に投書する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【ディスカッションの前】
①テーマに関連する情報を集め、ほかの人に説明できるように準備する。
②情報交換後に、意見をまとめ、発表できるように準備する。
③司会を担当する回は、具体的な流れを設計し、必要な準備をする。
【ディスカッションの後】
④話し合いの前後で、自分の意見がどう変わったか（変わらなかったか）を言語化する。
⑤意見文を書く。
⑥クラスメートの意見や講師からのフィードバックを受けて、意見文を完成させる。
※必要な学習時間：各回およそ1時間。ただし、③と⑤については2～4時間。

【テキスト（教科書）】
テキストは使わない。必要に応じて資料を配布（配信）する。

【参考書】
『大学・大学院　留学生の日本語４　論文作成編』（アカデミック・ジャパニーズ研究会編著、アルク）
※これは秋学期の日本語ⅡＢでテキストとして使うので、今のうちに買っておくことを勧める。

【成績評価の方法と基準】
・授業への参加貢献（ディスカッションなどでの発言・司会）＝40％
・課題文（4回）＝40％
・最終課題（新聞への投書）＝20％

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの前に行う情報交換は、「文字に残す」ことが有意義だと確認できたので、コロナ下での実践に引き続き、Hoppiiの授業内掲示板で行うことにします。が、学期の初めに受講生と相談し、対面での実施を希望する人が多ければ、「紙とペン」によるブレーンストーミングのような形態で行います。
※前年度は学習者数が基準に満たなかったため、授業評価アンケートは実施されませんでした。

【学生が準備すべき機器他】
・資料配布、課題提出、情報交換などに、学習支援システムHoppiiを利用する。
・ディスカッションは原則として対面で行うが、その準備や振り返りの回ではZoomミーティングも利用する。その際はパソコンでの参加が望ましい。

【その他の重要事項】
・日本語ⅡＡ（口頭発表のための基礎演習）も受講すること。また、秋学期には日本語ⅠＢ（口頭発表の実地演習）とⅡＢ（レポート執筆の訓練）を受講することが望ましい。
・2024年度に修士論文を提出する予定の学生は、日本語ⅢＡ・ⅢＢを受講すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日本語、日本語教育
＜研究テーマ＞母語話者が意識化しにくい日本語の文法
＜主要研究業績＞
・『日本語不思議』（2022年、創意市集、林巍翰・琉璃訳）
・『すばらしき日本語』（2020年、ポプラ新書）
・『日本語びいき』（2018年、中公文庫）
・『辞書のすきま　すきまの言葉―あんな言葉やこんな言葉、英語では何と言う？』（2009年、研究社）

【Outline (in English)】
Course outline
Basic Japanese for academic speaking and writing
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− A. to express their opinion in discussions
− B. to host a discussion
− C. to write their opinion in an appropriate style of written Japanese
Learning activities outside of classroom
Before each class meeting, students will be expected to have prepared for the coming discussion, and after the discussions, to summarize and write their opinion. Required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria
Grading will be decided based on each reports (40%), in-class contribution(40%), and the term-end report(20%)

OTR501C1－2（その他 / Others 500）

日本語ⅠB

清水　由美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語を母語としない留学生が、自分の研究テーマや関心のある問題について、わかりやすく説得力のある発表をするために、視覚資料を作成し、それを使って口頭発表をするための実践的な訓練を行う。
※春学期の**日本語ⅡA**では、口頭発表の「部分練習」を行った。このⅠ**B**では、まとまりのある一つの発表全体の練習をする。

【到達目標】
（1）自分の研究テーマや関心のある問題について、わかりやすく説得力のある発表をするための視覚資料（おもにスライド）を作成できるようになる。
（2）わかりやすく説得力のある発表をするための日本語表現と話し方を身につける。
（3）作成した視覚資料を用いて5～10分程度の口頭発表をし、それに対する質疑に応じられるようになる。
（4）ほかの受講生の発表を聞き、内容について質問や意見交換ができるようになる。
（5）発表会の司会やタイムキーパーができるようになる。
（6）自分の書いた文章および自分の口頭発表の形式や内容について、問題点に気づき、修正できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業の形態】
◇資料配信、課題提出、フィードバックには、学習支援システムHoppiiを使用する。
◇口頭発表は、対面あるいはZoomミーティングで行う。
※受講生の人数によって、スケジュールは変更の可能性があります。実際の各回の実施形態は、学習支援システムHoppiiの授業ページで授業前日までにお知らせします。
【授業の進め方】
（1）視覚資料（スライド）の作成
①大枠のテーマについて自分で話題を見つけ、アウトラインを考えてスライドを作成する。
②講師の助言を参考に、スライドを完成させ、発表ノートを準備する。
③講師の助言を参考に、発表ノートを完成させる。
（2）口頭発表
④作成したスライドと発表ノートを使って、３～５分程度の口頭発表を行う。
⑤ほかの受講生の発表を聞き、内容についての質疑と、形式についてのコメントをする。発表者は、質疑に応じる。
（3）最終課題
⑥「日本の○○に対する違和感」について自分でテーマを決め、アウトラインを作成する。
⑦講師の助言を参考に、スライドと発表ノートを作成し、発表の練習をする。
⑧発表をして／発表を聞いて、質疑応答をする。
※最終課題のテーマは、**日本語ⅡB**（レポート作成）の最終課題と同じものが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	・オリエンテーション ・近況報告	・授業の目的と進め方の説明 ・近況報告（いつどこで何がどうしたか、なぜそうなったかを、わかりやすく、かつ聞き手の興味を引き付けるように話す）
第2回	課題＃１：対比・列挙 ・スライドに使う日本語表現の確認（箇条書きの復習など） ・対照的な事象をわかりやすく述べる	「法政大学と○○大学」スライドとノート作成
第3回	・言いたいことに合わせて、情報提示の効果的な順番を考える ・対比を明確に伝える話し方を意識する ・箇条書きのスライドを見せながら話す	スライドの修正・仕上げと発表の練習
第4回	発表会＃１「法政大学と○○大学」	・互いの発表を聞き、質疑応答 ※司会進行も、学生が順に担当する。
第5回	課題＃２：変化・原因	「コロナ禍の前と後」スライドとノート作成 ※日本語ⅡAでも扱ったテーマだが、より説得力のある構成にすること
第6回	フィードバック	スライドの修正・仕上げと発表の練習
第7回	発表会＃２「コロナ禍の前と後」	・互いの発表を聞き、質疑応答 ※司会進行も、学生が順に担当する。
第8回	課題＃３：事実・引用・意見 ・事実と伝聞と自分の意見をきちんと分ける ・引用のマナーを守って話す ・他者の意見を簡潔にまとめて紹介する ・他者の意見に対する賛否を述べる	「日本の若者に言いたいこと」アウトラインとスライドの準備、ノートの作成
第9回	フィードバック	スライドの修正・仕上げと発表の練習
第10回	発表会＃３「日本の若者に言いたいこと」	・互いの発表を聞き、質疑応答 ※司会進行も、学生が分担する。
第11回	課題＃４：最終発表「日本の○○に対する違和感」	テーマに沿って話題候補を挙げる⇒クラスでブレスト⇒アウトラインを作成
第12回	フィードバック	スライドとノートの作成
第13回	フィードバック	スライドとノートの修正・完成、発表の練習
第14回	発表会４「日本の○○に対する違和感」 ・授業評価アンケート	・互いの発表を聞き、質疑応答 ※司会進行も、学生が分担する。 ・授業評価アンケート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の課題について、どうすればわかりやすく伝えることができるかを考えてスライドと発表ノートを作成し、実際に時計と鏡を見ながら、声に出して話す練習をしてくること。各回２～４時間程度必要。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。必要な資料や課題の説明は、オンラインで配信する。

【参考書】
『大学・大学院　留学生の日本語４　論文作成編』（アカデミック・ジャパニーズ研究会編著、アルク）

※日本語ⅡB（レポート作成）で教科書として使用する本である。書くためのテキストではあるが、数字の述べ方などの基本は発表にも役立つので、入手して参照すること。

【成績評価の方法と基準】
・各回の課題（提出と内容）＝50％
・授業への参加貢献（発表会での発言など）＝20％
・最終発表（資料と口頭発表）＝30％

【学生の意見等からの気づき】
・司会を担当したことで学ぶところが大きかったという声が多かったので、今年度も発表会の司会進行は学生にやってもらいます。
・最終課題の大枠のテーマを日本語ⅡB(レポート作成）の最終課題と同じ「日本の〇〇に対する違和感」とします。これによって、準備の負担を軽減するとともに、話し言葉と書き言葉の違いをより明確に意識化することができると考えるからです。

【学生が準備すべき機器他】
各回の授業内容の伝達や課題の指示は、学習支援システムHoppiiで行う。発表会は原則として対面で実施するが、Zoomミーティングを利用することもある。その際はPCの利用が望ましい。

【その他の重要事項】
・春学期の日本語ⅡＡ（＝口頭発表と視覚資料作成の基礎演習）を、必ず受講しておくこと。日本語ＩＢは、基礎の習得はできているという前提で進める。
・話しことばと書きことばの違いを明確に意識するためにも、日本語ⅡＢ（＝レポート作成）を同時に受講することが望ましい。
・2024年度に修士論文を提出する予定の学生は、日本語ⅢA・ⅢBを受講すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日本語、日本語教育
＜研究テーマ＞母語話者が意識化しにくい文法
＜主要研究業績＞
・『日本語不思議』（2022年、創意市集、林巍翰・琉璃訳）
・『すばらしき日本語』（2020年、ポプラ新書）
・『日本語びいき』（2018年、中公文庫）
・『辞書のすきま　すきまの言葉―あんな言葉やこんな言葉、英語では何と言う？』（2009年、研究社）

【Outline (in English)】
Course outline
Advanced Japanese for academic presentation
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− A.to make slides for a clear and compelling presentation
− B.to make a clear and compelling presentation
− C.to ask/answer the questions about the presentation
Learning activities outside of classroom
Before each presentation session, students will be expected to spend two to four hours to prepare slides, presentation notes and practice making presentation.
Grading Criteria
Grading will be decided based on assignment(slides, notes, performances) (50%), in-class contribution(20%) and the final presentation(slides, notes, performance)(30%)

OTR501C1－1（その他 / Others 500）

日本語ⅡA

清水　由美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語を母語としない留学生が、①口頭発表のための視覚資料（スライド）を作成し、②それを使って口頭発表をするための基礎的な訓練を行う。
※この**日本語ⅡA**では、口頭発表に必要なさまざまな要素を個別に取り上げて、部分的な練習を行う。ひとまとまりの発表全体の練習は、秋学期の**日本語ⅠB**で行う。

【到達目標】
（1）書き言葉と話し言葉の違いが大きい日本語の特性を理解し、両者を適切に使いこなせるようになる。
（2）視覚資料（スライド）の作成に必要な日本語表現と、効果的な提示のし方を身につける。
（3）口頭発表に必要な日本語表現と、適切な話し方を身につける。
（4）作成した視覚資料を使って、3分程度の口頭発表ができるようになる。
（5）発表の内容について、質疑応答ができるようになる。
（6）口頭発表会の司会ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業の形態】
◇資料の配信、課題の提出とフィードバックには、学習支援システムHoppiiを利用する。
◇口頭発表の回は、原則として対面で行う。
※受講生の人数によって、スケジュールは変更の可能性があります。実際の各回の実施形態は、学習支援システムHoppiiの授業ページで授業前日までにお知らせします。
【授業の進め方】
①口頭発表の「部分練習」として、注意すべき点ごとにスライド作成と発表ノートの作成を課す。
②講師のフィードバックを受けて、各回の課題のスライドと発表ノートを修正し、完成させ、口頭発表の練習をする。
③クラスで発表をし／発表を聞き、質疑応答をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業の目的と進め方の説明 ・自己紹介 ・日本語能力の確認とカルテ作成（日本語ⅠAと共通）
第2回	課題① ・情報の取捨と提示の順番 ・視線、声と顔の表情を意識する ・司会の練習	・見やすいスライドを作る。 ・スライドを見て話す練習。
第3回	課題①発表会	設定＝地域住民との交流会で自己紹介
第4回	課題②画像を説明する ・魅力あるタイトルを考える ・効果的な構成を考える	「よくわからない写真」を1枚選び、それについてわかりやすく説明する。（スライドと発表ノートの準備）
第5回	課題②フィードバック	スライド・ノートの修正と仕上げ 発表の練習
第6回	課題②発表会	・「よくわからない写真」を見せて説明する。 ・発表について質疑応答をする。
第7回	課題③ ・対比を明確に伝える ・複数の項目を列挙する	「コロナ禍の前と後」スライドとノートの作成
第8回	課題③フィードバック	スライドと発表ノートの修正・仕上げ 発表の練習
第9回	課題③発表会	「コロナ禍をめぐるあれこれ」について、発表をする。 ・発表について質疑応答をする。
第10回	課題④数字の意味を伝える	・興味を引くデータ（グラフや表）を1点選び、それについてわかりやすく説明する。（スライドと発表ノートの準備）
第11回	課題④	メモを用意し、メモを見ながら話す ・スライドとノートの修正・仕上げと練習
第12回	課題④発表会	発表と質疑応答
第13回	私のベスト発表	4回の発表から1つ選び、オンラインで発表する
第14回	授業のまとめと期末試験	・学期中に学んだことが理解できているかどうかを確認するための筆記試験 ・授業評価アンケート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各1～2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使わないが、下の参考書を準備しておくことを強く勧める。

【参考書】
『大学・大学院　留学生の日本語4　論文作成編』（アカデミック・ジャパニーズ研究会編著、アルク）
※これは、秋学期の日本語ⅡB（レポート）でテキストとして使うので、今のうちに買っておくことを勧める。

【成績評価の方法と基準】
・話し合いへの参加貢献　20％
・各回の課題と発表　50％
・期末試験　30％

【学生の意見等からの気づき】
コロナ下の一昨年度、スタート時には対面を望む声が多かったのですが、現実の社会でオンライン会議のツールを使う場面が急増していることを受け、後半はZoomミーティングを使った発表の練習ができてよかったという声が増えました。そこで昨年度も対面とオンライン、両方の機会を設けました。今年度も、対面とオンラインそれぞれの特性を生かしつつ、進めていきます。
※昨年度は受講者数が条件に満たなかったため、授業評価アンケートは実施されませんでした。

【学生が準備すべき機器他】
・資料配布・課題提出・意見交換などに学習支援システムHoppiiを利用する。
・口頭発表は原則として対面で行うが、Zoomミーティングを利用することもあるため、その際はPCの用意が望ましい。

【その他の重要事項】
・日本語ⅠA（ディスカッションとアカデミック・ライティングの基礎）も受講すること。また、秋学期には日本語ⅠB（口頭発表の実践演習）とⅡB（レポート執筆の訓練）を受講することが望ましい。
・2024年度に修士論文を提出する予定の学生は、日本語義ⅢA・ⅢBを受講すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日本語、日本語教育
＜研究テーマ＞母語話者が意識化しにくい文法
＜主要研究業績＞

・『日本語不思議』（2022年、創意市集、林巍翰・琉璃訳）
・『すばらしき日本語』（2020年、ポプラ新書）
・『日本語びいき』（2018年、中公文庫）
・『辞書のすきま　すきまの言葉—あんな言葉やこんな言葉、英語では何と言う？』（2009年、研究社）

【Outline (in English)】

Course outline

Basic Japanese for academic presentation

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

− A.to make slides for a simple and clear explanation about a topic

− B.to make a simple and clear explanation about a topic

− C.to ask/answer the questions about the presentation

Learning activities outside of classroom

Before each presentation session, students will be expected to spend one to two hours to prepare a slide, presentation notes and practice making presentation.

Grading Criteria

Grading will be decided based on each assignments and performance(50%), in-class contribution(20%), and the term-end examination(30%)

OTR501C1－2（その他 / Others 500）

日本語ⅡＢ

清水　由美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語を母語としない留学生が、日本語で専門分野のレポート・論文を書くために必要な文章の構成を学び、実際にレポートを書き上げる。

【到達目標】
（1）わかりやすく説得力のあるレポート・論文を書くための、日本語の表現や文章構成を身につける。
（2）論理的構成の資料を、十分な速さで目的に沿って読み、理解できるようになる。
（3）自分の研究テーマや関心のある問題について、明解で説得力のあるレポート（図表や資料を別にして3,000字程度）を書く。
（4）ほかの人が書いた文章を、一定の速さで、かつ、批判的に読むことができるようになる。
（5）自分の書いた日本語の問題点に気づき、それを修正することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業の形態】
◇資料の配信、課題の提出は、学習支援システムHoppiiを利用する。
◇各課の質疑応答と課題のフィードバックも、原則として学習支援システムHoppiiを通して行うが、講師が必要と判断した場合は、対面もしくはZoomミーティングで行う。
【授業の進め方】
典型的な論文構成の流れに沿って、序論から結論および参考文献リストにいたるまでの、各部でよく使われる日本語の文型・表現と展開パターンを学ぶ。各回の授業の流れは、原則として以下のとおり。最後に3,000字程度のレポートを書いて提出する。
（1）テキストの指定範囲と補足資料の読解、解説動画の視聴
（2）予習確認クイズとフィードバック、質疑応答
（3）課題文の作成・提出
（4）提出した課題文のフィードバック：講師による修正案と読みくらべ、自分が書いた文章の問題点を見つける訓練
※各回の課題文の目的は「形式の習得」であり、その内容は自由である。各自、最終レポートのテーマを早めに決め、そのテーマに沿った内容で少しずつ課題文を書いていくことを勧める。最後に全体をまとめて１本の論文とすればよいからである。
※なお最終レポートのテーマは、日本語ＩＢ（口頭発表）の最終発表のテーマ「日本の〇〇に対する違和感」と同じものにすることが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	・オリエンテーション ・テーマを考える	・授業の目的と進め方の説明 ・最終レポートのテーマを考える【＝宿題】
第2回	・テキスト１、２課：作文の基本 ・テーマ相談会	・レポートや論文における書きことばの基本を確認する。 ・テーマについて助言し合う。
第3回	・テキスト11課：引用 ※論文執筆のマナーとして、「引用」はとても重要なため、ほかの課に先立って11課を学習する。	・引用のマナーを学ぶ ・文献リスト作成＝宿題 ・引用文を書く＝宿題
第4回	・テキスト3課：課題の提示 ・前回宿題のフィードバック	・課題の提示文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第5回	・テキスト4課：目的の提示 ・前回宿題のフィードバック	・目的の提示文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第6回	・テキスト5課：定義と分類 ・前回宿題のフィードバック	・定義と分類の文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第7回	・テキスト6課：図表の提示 ・前回宿題のフィードバック	・必要な図表を探し（作成し）、提示する文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第8回	・テキスト7課：変化の形容 ・前回課題のフィードバック	・データを説明する文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第9回	・テキスト8課：対比と比較 ・前回課題のフィードバック	・対比／比較を含む文章を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第10回	・テキスト9課：原因の考察 ・前回課題のフィードバック	・原因を考察する文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第11回	・テキスト10課：列挙 ・前回課題のフィードバック	・序論～本論の中で列挙を含む文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第12回	・テキスト12課：同意と反論 ・前回課題のフィードバック	・先行研究を要約して引用し、それに対する意見を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第13回	・テキスト13-14課：帰結、結論の提示 ・前回課題のフィードバック	・帰結あるいは結論を含む文章を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第14回	・レポート提出前最終相談会 ・レポート提出 ・授業評価アンケート	・おおよその完成稿を持ち寄り、お互いに読み合い、助言し合う。 ・レポートの完成と提出 ・授業評価アンケート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各1～2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』（アカデミック・ジャパニーズ研究会編著、アルク）
※各回の予習確認クイズは、このテキストの内容から出題する。必ず手もとに用意し、事前に指定された個所を期日までに読んでおくこと。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
・予習確認クイズ＝20％
・授業への参加貢献＝10％
・各回の課題文＝50％
・最終レポート＝20％

【学生の意見等からの気づき】
・2022年度はすべてオンライン・オンデマンドで行い、同時双方向でのやりとりはありませんでしたが、メンバーは日本語ＩＢと重なるため、交流と意思疎通は、ＩＢのほうで補うことができました。このクラスの課題については、対面授業よりもむしろオンライン・オンデマンドのほうが十分なフィードバックができ、学生が自己の日本語についての問題点を意識化するのに役立ったようです。2022、2023年度に引き続き、オンデマンドでのこうした利点は最大限生かしたいと思います。
・最終課題の大枠のテーマは日本語ＩB(口頭発表）の最終課題と同じ「日本の〇〇に対する違和感」とします。これによって、準備の負担を軽減できるとともに、話し言葉と書き言葉の違いをより明確に意識化することができると考えるからです。
※受講者数が条件に達しなかったため、2023年度の授業評価アンケートは実施されませんでした。

【学生が準備すべき機器他】
課題の指示・提出に、学習支援システムHoppiiを利用する。

【その他の重要事項】
・春学期の日本語ＩＡ・ⅡＡ修了と同程度の日本語力を有する学生を対象とする。
・日本語ＩＢ（口頭発表と視覚資料作成）の同時受講が望ましい。書きことばと話しことばの違いを意識化するためである。（最終課題のテーマは、1BとⅡＢで共通である。）
・2024年度に修士論文を提出する予定の学生は、日本語ⅢＡ・ⅢＢを受講すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日本語、日本語教育
＜研究テーマ＞母語話者が意識化しにくい文法
＜主要研究業績＞
・『日本語不思議』（2022年、創意市集、林巍翰・琉璃訳）
・『すばらしき日本語』（2020年、ポプラ新書）
・『日本語びいき』（2018年、中公文庫）
・『辞書のすきま　すきまの言葉―あんな言葉やこんな言葉、英語では何と言う？』（2009年、研究社）

【Outline (in English)】
Course outline
Advanced Japanese for academic writing
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− A. to acquire the necessary knowledge about Japanese expressions and sentence structure for writing clear and persuasive reports
− B. to write a clear and compelling report
Learning activities outside of classroom
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. They have to take a quiz to check their understanding. Required study time is at least one hour for each class meeting.
After each class meeting, students will be assigned to write a short essay, which will take one to two hours.
Grading Criteria
Grading will be decided based on quiz(20%), each assignment (50%), in-class contribution(10%), and the term-end paper(20%)

OTR502C1－1（その他 / Others 500）

日本語ⅢＡ

大場　理恵子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門分野での修士論文作成と口頭発表に必要な日本語力を身に付け、自分の修士論文作成に活かす（対象：留学生）。

【到達目標】
(1) 論文で使用されている文型・表現・語彙を理解し、自分の修士論文執筆に活用できるようになる。
（2）自分の修士論文の概要を他者が理解できるように、適切な日本語で発表できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
以下の内容について、基本的には対面授業を行います。状況と必要に応じて、Zoomによるオンライン授業を行います。
①講義と演習によって他者の論文で使用されている日本語の文型・表現・語彙などを分析し、発表する。
②各自の修論作成を進捗させ、自己チェック、クラスでの他者チェック、教員によるチェックによって修正する。
③学科での修論発表ワークショップに備えて、発表練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	①授業の目的や方法を理解する ②各自の修論の構想を書く
第2回	論文の構成・引用の仕方	①専門論文の構成を分析・理解する ②専門分野の引用の仕方を理解する
第3回	論文表現の分析＜序論－研究対象と背景＞	①序論の研究対象と背景の書き方を理解する ②論文の該当部分を分析する
第4回	論文表現の分析＜序論－先行研究の提示＞	①前回の分析を発表する ②序論の先行研究の提示部分の書き方を理解する ③論文の該当部分を分析する
第5回	論文表現の分析＜序論－研究目的と研究行動の概略＞	①前回の分析を発表する ②序論の研究目的と研究行動の概略部分の書き方を理解する ③論文の該当部分を分析する
第6回	論文表現の分析＜本論－研究方法＞	①本論の研究方法部分の書き方を理解する ②論文の該当部分を分析する
第7回	論文表現の分析＜本論－考察＞	①前回の分析を発表する ②本論の考察部分の書き方を理解する ③論文の該当部分を分析する
第8回	ワークショップ用発表練習1	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第9回	ワークショップ用発表練習2	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第10回	ワークショップ用発表練習3	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第11回	ワークショップ用発表練習4	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第12回	論文表現の分析＜結論＞	①結論部分の書き方を理解する ②論文の該当部分を分析する
第13回	論文表現の分析＜結論＞	①前回の分析を発表する ②文献リストの書き方を理解する
第14回	まとめ	前期の学習をふりかえり、夏休みの目標を決める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
①各自の修論作成を進め、執筆・作成したものをプリントアウトしておく
②該当する授業の前に、修論発表の準備・練習をしておく

【テキスト（教科書）】
①「留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック」二通信子・大島弥生ほか、東京大学出版会、2009年、2750円
②適宜プリントを配布する。

【参考書】
必要に応じて、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
小テスト（10％）授業内課題（40％）宿題を含む平常点（50％）

【学生の意見等からの気づき】
学生のみなさんから「よい訓練になった」との声があった、準備なしでするスピーチなどを引き続き実施します。また、修論作成につながる内容以外にも、日本語運用に関する授業（ビジネス場面におけるコミュニケーション等）を学生のニーズに応じて行います。また、修士2年生同士のコミュニケーションの機会になるような場を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出のために学習支援システムを利用します。また、Zoom授業受講が可能なパソコン（カメラ・マイク機能含む）とWi-Fi環境を準備してください。

【その他の重要事項】
・今年度に修士論文を提出する予定の学生のみが受講できます（1年生は受講できません）
・秋学期の日本語ⅢＢを受講することによって各自の修論完成に繋がるため、連続して受講すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日本語教育・日本語表現教育
＜研究テーマ＞日本語学習者および母語話者を対象とする効果的な日本語表現法教育
＜主要研究業績＞
『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』ひつじ書房、2005
『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション』ひつじ書房、2012

【Outline (in English)】
【Course outline】You can acquire the Japanese language skills for master’s thesis writing and oral presentation, and utilize it for your own master’s thesis writing.
【Learning Objectives】To acquire the Japanese language skills necessary for writing a master’s thesis
【Learning activities outside of classroom】The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】Quizzes (20%) In-class assignments (30%) Class participation and homework (50%)

OTR502C1－2（その他 / Others 500）

日本語ⅢＢ

大場　理恵子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門分野での修士論文作成と口頭発表に必要な日本語力を身に付け、自分の修士論文を作成・修正する（対象：留学生）

【到達目標】
(1) 論文で使用される文型・表現・語彙を適切に使用し、自分の修士論文を執筆する。
（2）自分の修士論文の概要を他者が理解できるように適切な日本語で発表できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。以下の内容について、基本的には対面授業を行います。状況と必要に応じて、Zoomによるオンライン授業を行います。
①各自の修論作成を進捗させ、自己チェック、クラスでの他者チェック、教員によるチェックによって修正する。
③学科での修論発表ワークショップおよび修論審査に備えて、発表練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	①授業の目的や方法を理解する ②各自の修論執筆の進捗と今後の計画を確認する
第2回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第3回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第4回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第5回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第6回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第7回	ワークショップ用発表練習	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第8回	ワークショップ用発表練習	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第9回	ワークショップ用発表練習	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第10回	ワークショップ用発表練習	①前回の練習を活かしてよりよい発表をする ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第11回	ワークショップ用発表練習	①前回の練習を活かしてよりよい発表をする ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第12回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第13回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第14回	まとめ	学習を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
①各自の修論作成を進め、執筆・作成したものをプリントアウトしておく
②該当する授業の前に、修論発表の準備・練習をしておく

【テキスト（教科書）】
①「留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック」二通信子・大島弥生ほか、東京大学出版会、2009年、2750円
②適宜プリントを配布する。

【参考書】
必要に応じて、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業内課題を含む平常点（50％）宿題（50％）

【学生の意見等からの気づき】
修論作成につながる内容以外にも、日本理解および日本語運用に関する授業内容を学生のニーズ（就職活動に備えたスピーチ等）に応じて行います。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出のために学習支援システムを利用します。また、一部Zoom授業の可能性がありますので、受講が可能なパソコン（カメラ・マイク機能含む）とWi-Fi環境を準備してください。

【その他の重要事項】
・今年度に修士論文を提出する予定の学生のみが受講できます（1年生は受講できません）
・春学期の日本語ⅢＡを受講しておくことが必要。未受講の場合は初回に相談すること
・やむなく欠席する場合には必ず事前に教員に連絡すること

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日本語教育・日本語表現教育
＜研究テーマ＞日本語学習者および母語話者を対象とする効果的な日本語表現法教育
＜主要研究業績＞
『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション』ひつじ書房,2012
『ピアで学ぶ大学生の日本語表現（第2版）』ひつじ書房,2014
「大学教育における日本語ライティング指導の実践の動向」『言語文化と日本語教育』(51),2016

【Outline (in English)】
【Course outline and objectives】 You can acquire the Japanese language skills for master's thesis writing and oral presentation, and utilize it for your own master's thesis writing.
【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to prepare for the class/do assignment.
【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following
in class contribution and assignment: 50%, homework:50％

ECN602C1-1（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅡA

近藤　章夫

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第１回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】
研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第１稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞ 経済地理学、都市・地域経済学、空間情報科学
＜主要研究業績＞
①共著（2015）『都市空間と産業集積の経済地理分析』日本評論社
②共著（2012）『産業立地と地域経済』放送大学教育振興会
③単著（2007）『立地戦略と空間的分業』古今書院

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅡB

近藤　章夫

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し，修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第2回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】
すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞ 経済地理学、都市・地域経済学、空間情報科学
＜主要研究業績＞
①共著（2015）『都市空間と産業集積の経済地理分析』日本評論社
②共著（2012）『産業立地と地域経済』放送大学教育振興会
③単著（2007）『立地戦略と空間的分業』古今書院

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅡA

酒井　正

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第1回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】
研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
専門領域：労働経済学、社会保障論
研究テーマ：就業と社会保障制度の関係についての実証分析
＜主要研究業績＞
『日本のセーフティーネット格差 労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会，2020年）
"Education and Marriage Decisions of Japanese Women and the Role of the Equal Employment Opportunity Act"（共著）Journal of Human Capital 13(2) pp. 260-292, 2019.

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅡＢ

酒井　正

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し，修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第２回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】

すでに第１稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【【担当教員の専門分野等】】

専門領域：労働経済学、社会保障論

研究テーマ：就業と社会保障制度の関係についての実証分析

＜主要研究業績＞

『日本のセーフティーネット格差 労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会，2020年）

"Education and Marriage Decisions of Japanese Women and the Role of the Equal Employment Opportunity Act"（共著）Journal of Human Capital 13(2) pp. 260-292, 2019.

【Outline (in English)】

（Course outline）

Students will acquire applied knowledge about writing master’s theses and further prepare for thesis writing.

（Learning Objectives）

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

（Learning activities outside of classroom）

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master’s thesis.

（Grading Criteria /Policy）

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student’s own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅠA

胥　鵬

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第１回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】
研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第１稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞　企業金融（コーポレート・ファイナンス）、企業統治（コーポレート・ガバナンス）、法と経済学、不動産価格、中国経済
＜研究テーマ＞　ＭＢＯ、敵対的買収案と株式議決権行使、ホットマネー（熱銭）と中国の不動産価格
＜主要研究業績＞
『日本のコーポレートファイナンスーサーベイデータによる分析』花枝英樹, 芹田敏夫, 胥鵬, 佐々木隆文, 鈴木健嗣, 佐々木寿記 (6,7章) 白桃書房 2020年
Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index,Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng　International Review of Finance 2020年
Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master’s theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master’s thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student’s own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅠB

胥　鵬

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し，修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第２回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】
すでに第１稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞　企業金融（コーポレート・ファイナンス）、企業統治（コーポレート・ガバナンス）、法と経済学、不動産価格、中国経済
＜研究テーマ＞　ＭＢＯ、敵対的買収案と株式議決権行使、ホットマネー（熱銭）と中国の不動産価格
＜主要研究業績＞
『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹, 芹田敏夫, 胥鵬, 佐々木隆文, 鈴木健嗣, 佐々木寿記 (6,7章) 白桃書房 2020年
Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index,Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng　International Review of Finance 2020年
Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master’s theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature.　In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master’s thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria:　aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student’s own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1（経済学 / Economics 600）

経済学演習ＩＡ

菅　幹雄

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第１回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】
研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第１稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞経済統計
＜研究テーマ＞産業連関表、物価指数。経済センサス、人口予測
＜主要研究業績＞『物価指数の測定論』、『アメリカ経済センサス研究』（共著）、『東京都の人口予測』（共著）

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master’s theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master’s thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student’s own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2（経済学 / Economics 600）

経済学演習ＩＢ

菅　幹雄

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し，修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第２回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】
すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書)】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞経済統計
＜研究テーマ＞産業連関表、物価指数。経済センサス、人口予測
＜主要研究業績＞『物価指数の測定論』、『アメリカ経済センサス研究』（共著）、『東京都の人口予測』（共著）

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅡA

鈴木　豊

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第１回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】
研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第１稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001407/profile.html
を参照のこと。

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅡB

鈴木　豊

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し，修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第2回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】
すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001407/profile.html
を参照のこと。

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅡＡ

馬　欣欣

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第１回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】
研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第１稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞
中国経済論、労働経済学、開発経済学
＜研究テーマ＞
中国所得格差と貧困、社会保障政策の経済分析、体制移行と労働市場の分断化
＜主要研究業績＞
1. Ma, X. (2024) Social trust and risky financial market participation: Evidence from China. Post-Communist Economies, 36(2),174-196.
2.Ma, X. (2024) Union membership and the wage gap between public and private sectors: Evidence from China. Journal for Labour Market Research, 58(3).
3.Ma, X. (2022) Internet usage and income gaps between the self-employed individuals and employees: Evidence from China. Review of Development Economics, 7,1509-1536.
4.Ma, X. (2022) Parenthood and the gender wage gap in urban China. Journal of Asian Economics, 80, article101479.
5. Ma, X.（2022） Social insurances and risky financial market participation: Evidence from China. Emerging Markets Finance and Trade, 58(10), 2957-2975.
6.Ma, X. (2018) Economic Transition and Labor Market Reform in China. Palgrave Macmillan.

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅡＢ

馬　欣欣

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し，修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第２回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】
すでに第１稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめるうえで、修士論文を修正する。
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文を完成させる。
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞
中国経済論、労働経済学、開発経済学
＜研究テーマ＞
中国所得格差と貧困、社会保障政策の経済分析、体制移行と労働市場の分断化
＜主要研究業績＞
1. Ma, X. (2024) Social trust and risky financial market participation: Evidence from China. Post-Communist Economies, 36(2),174-196.
2.Ma, X. (2024) Union membership and the wage gap between public and private sectors: Evidence from China. Journal for Labour Market Research, 58(3).
3.Ma, X. (2022) Internet usage and income gaps between the self-employed individuals and employees: Evidence from China. Review of Development Economics, 7,1509-1536.
4.Ma, X. (2022) Parenthood and the gender wage gap in urban China. Journal of Asian Economics, 80, article101479.
5. Ma, X.（2022） Social insurances and risky financial market participation: Evidence from China. Emerging Markets Finance and Trade, 58(10), 2957-2975.
6.Ma, X. (2018) Economic Transition and Labor Market Reform in China. Palgrave Macmillan.

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅡA

松波　淳也

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第１回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】
研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第１稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
環境経済学
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001408/profile.html

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅡB

松波　淳也

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し，修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第2回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】
すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
環境経済学
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001408/profile.html

【Outline (in English)】
(Course outline)
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
(Learning Objectives)
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
(Learning activities outside of classroom)
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
(Grading Criteria /Policy)
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅡA

宮﨑　憲治

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第1回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】
研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
マクロ経済学・計量経済学

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅡＢ

宮﨑　憲治

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し，修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第２回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】
すでに第１稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
マクロ経済学・計量経済学

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master’s theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master’s thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student’s own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1-1（経済学 / Economics 600）

経済学演習ＩＡ

田村　晶子

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての基本的な知識を習得し、論文作成の準備を行う。

【到達目標】
基礎文献の輪読・報告を通じ、問題意識を醸成するとともに、分析手法を身につける。また、論文のサーチの方法、論文作法やプレゼンの方法についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文について	論文とは何か、問題意識の持ち方、文献の探し方
第2回	問題意識の醸成	検索した文献などを通じて問題意識を醸成する
第3回	基礎知識の習得①	問題意識に関連する基礎知識をテキストや基本文献の輪読等で習得する
第4回	基礎知識の習得②	テキスト、基本文献の輪読
第5回	基礎知識の習得③	テキスト、基本文献の輪読
第6回	基礎知識の習得④	テキスト、基本文献の輪読
第7回	基礎知識の習得⑤	テキスト、基本文献の輪読
第8回	基礎知識の習得⑥	テキスト、基本文献の輪読
第9回	基礎知識の習得⑦	テキスト、基本文献の輪読
第10回	基礎知識の習得⑧	テキスト、基本文献の輪読
第11回	基本文献における問題意識や分析方法のまとめ	サーベイした基本文献から学んだことをまとめる
第12回	基本的な研究報告①	サーベイした基本文献に基づき、自らの問題意識と分析方法で研究報告を行う
第13回	基本的な研究報告②	研究報告のつづき
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
標準的なテキストや基本文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1-2（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅠB

田村　晶子

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての応用的な知識を習得し、論文作成の準備をさらに進める。

【到達目標】
応用文献の輪読・報告を通じ、自身の研究テーマを絞り込む。また、分析手法についての理解をさらに深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した応用知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの確認	春学期、夏期休暇中に勉強したテキストや先行研究の基づき、研究テーマを確認する
第2回	先行研究の輪読①	研究テーマに添った先行研究（応用研究）を輪読する
第3回	先行研究の輪読②	先行研究（応用研究）の輪読
第4回	先行研究の輪読③	先行研究（応用研究）の輪読
第5回	先行研究の輪読④	先行研究（応用研究）の輪読
第6回	先行研究の輪読⑤	先行研究（応用研究）の輪読
第7回	先行研究の輪読⑥	先行研究（応用研究）の輪読
第8回	先行研究の輪読⑦	先行研究（応用研究）の輪読
第9回	先行研究の輪読⑧	先行研究（応用研究）の輪読
第10回	先行研究の輪読⑨	先行研究（応用研究）の輪読
第11回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第12回	応用的な研究報告①	サーベイした先行研究に基づき、春学期より進んだ応用的な研究報告を行う
第13回	応用的な研究報告②	研究報告のつづき
第14回	最終報告	1年目のまとめとしての研究報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究テーマに沿った標準的なテキストや応用的な先行文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master’s theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master’s thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student’s own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1-1（経済学 / Economics 600）

経済学演習ＩＡ

武智　一貴

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての基本的な知識を習得し、論文作成の準備を行う。

【到達目標】
基礎文献の輪読・報告を通じ、問題意識を醸成するとともに、分析手法を身につける。また、論文のサーチの方法、論文作法やプレゼンの方法についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文について	論文とは何か、問題意識の持ち方、文献の探し方
第2回	問題意識の醸成	検索した文献などを通じて問題意識を醸成する
第3回	基礎知識の習得①	問題意識に関連する基礎知識をテキストや基本文献の輪読等で習得する
第4回	基礎知識の習得②	テキスト、基本文献の輪読
第5回	基礎知識の習得③	テキスト、基本文献の輪読
第6回	基礎知識の習得④	テキスト、基本文献の輪読
第7回	基礎知識の習得⑤	テキスト、基本文献の輪読
第8回	基礎知識の習得⑥	テキスト、基本文献の輪読
第9回	基礎知識の習得⑦	テキスト、基本文献の輪読
第10回	基礎知識の習得⑧	テキスト、基本文献の輪読
第11回	基本文献における問題意識や分析方法のまとめ	サーベイした基本文献から学んだことをまとめる
第12回	基本的な研究報告①	サーベイした基本文献に基づき、自らの問題意識と分析方法で研究報告を行う
第13回	基本的な研究報告②	研究報告のつづき
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
標準的なテキストや基本文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1-2（経済学 / Economics 600）

経済学演習ＩＢ

武智　一貴

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての応用的な知識を習得し、論文作成の準備をさらに進める。

【到達目標】
応用文献の輪読・報告を通じ、自身の研究テーマを絞り込む。また、分析手法についての理解をさらに深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した応用知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの確認	春学期、夏期休暇中に勉強したテキストや先行研究の基づき、研究テーマを確認する
第2回	先行研究の輪読①	研究テーマに添った先行研究（応用研究）を輪読する
第3回	先行研究の輪読②	先行研究（応用研究）の輪読
第4回	先行研究の輪読③	先行研究（応用研究）の輪読
第5回	先行研究の輪読④	先行研究（応用研究）の輪読
第6回	先行研究の輪読⑤	先行研究（応用研究）の輪読
第7回	先行研究の輪読⑥	先行研究（応用研究）の輪読
第8回	先行研究の輪読⑦	先行研究（応用研究）の輪読
第9回	先行研究の輪読⑧	先行研究（応用研究）の輪読
第10回	先行研究の輪読⑨	先行研究（応用研究）の輪読
第11回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第12回	応用的な研究報告①	サーベイした先行研究に基づき、春学期より進んだ応用的な研究報告を行う
第13回	応用的な研究報告②	研究報告のつづき
第14回	最終報告	1年目のまとめとしての研究報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究テーマに沿った標準的なテキストや応用的な先行文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1-1（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅠA

馬　欣欣

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての基本的な知識を習得し、論文作成の準備を行う。

【到達目標】
基礎文献の輪読・報告を通じ、問題意識を醸成するとともに、分析手法を身につける。また、論文のサーチの方法、論文作法やプレゼンの方法についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストを学習する。研究テーマにおける代表的な研究論文を学習する。また、実証分析の習得のための実習を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文について	論文とは何か、問題意識の持ち方、文献の探し方
第2回	問題意識の醸成	検索した文献などを通じて問題意識を醸成する
第3回	基礎知識の習得①	問題意識に関連する基礎知識をテキストや基本文献の輪読等で習得する
第4回	基礎知識の習得②	テキスト、基本文献の学習
第5回	基礎知識の習得③	テキスト、基本文献の学習
第6回	基礎知識の習得④	テキスト、基本文献の学習
第7回	基礎知識の習得⑤	テキスト、基本文献の学習
第8回	基礎知識の習得⑥	テキスト、基本文献の学習
第9回	基礎知識の習得⑦	テキスト、基本文献の学習
第10回	基礎知識の習得⑧	テキスト、基本文献の学習
第11回	基本文献における問題意識や分析方法のまとめ	サーベイした基本文献から学んだことをまとめる
第12回	研究報告①	サーベイした基本文献に基づき、自らの問題意識と分析方法で研究報告を行う
第13回	研究報告②	研究報告のつづき
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
標準的なテキストや基本文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1-2（経済学 / Economics 600）

経済学演習ＩＢ

馬　欣欣

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての応用的な知識を習得し、実証分析の方法を学習し、論文作成などの準備に進める。

【到達目標】
先行文献の学習・報告を通じ、自身の研究テーマを絞り込む。また。実証分析の手法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した応用知識の習得のために標準的なテキストを学習する。研究テーマにおける代表的な研究論文を学習する。または、実証分析の習得のための実習を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの確認	春学期、夏期休暇中に勉強したテキストや先行研究の基づき、研究テーマを確認する
第2回	先行研究の学習①	研究テーマに添った先行研究（応用研究）の学習する
第3回	先行研究の学習②	先行研究（応用研究）の学習
第4回	先行研究の学習③	先行研究（応用研究）の学習
第5回	先行研究の学習④	先行研究（応用研究）の学習
第6回	実証分析方法の学習①	実証分析方法の学習①
第7回	実証分析方法の学習②	実証分析方法の学習②
第8回	実証分析方法の学習③	実証分析方法の学習③
第9回	実証分析方法の学習④	実証分析方法の学習④
第10回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第11回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第12回	研究報告①	研究報告を行う
第13回	研究報告②	研究報告のつづき
第14回	最終報告	1年目のまとめとしての研究報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究テーマに沿った標準的なテキストや応用的な先行文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1-1（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅠA

宮﨑　憲治

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての基本的な知識を習得し、論文作成の準備を行う。

【到達目標】
基礎文献の輪読・報告を通じ、問題意識を醸成するとともに、分析手法を身につける。また、論文のサーチの方法、論文作法やプレゼンの方法についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文について	論文とは何か、問題意識の持ち方、文献の探し方
第2回	問題意識の醸成	検索した文献などを通じて問題意識を醸成する
第3回	基礎知識の習得①	問題意識に関連する基礎知識をテキストや基本文献の輪読等で習得する
第4回	基礎知識の習得②	テキスト、基本文献の輪読
第5回	基礎知識の習得③	テキスト、基本文献の輪読
第6回	基礎知識の習得④	テキスト、基本文献の輪読
第7回	基礎知識の習得⑤	テキスト、基本文献の輪読
第8回	基礎知識の習得⑥	テキスト、基本文献の輪読
第9回	基礎知識の習得⑦	テキスト、基本文献の輪読
第10回	基礎知識の習得⑧	テキスト、基本文献の輪読
第11回	基本文献における問題意識や分析方法のまとめ	サーベイした基本文献から学んだことをまとめる
第12回	基本的な研究報告①	サーベイした基本文献に基づき、自らの問題意識と分析方法で研究報告を行う
第13回	基本的な研究報告②	研究報告のつづき
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
標準的なテキストや基本文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master’s theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master’s thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student’s own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1-2（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅠB

宮崎　憲治

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての応用的な知識を習得し、論文作成の準備をさらに進める。

【到達目標】
応用文献の輪読・報告を通じ、自身の研究テーマを絞り込む。また、分析手法についての理解をさらに深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した応用知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの確認	春学期、夏期休暇中に勉強したテキストや先行研究の基づき、研究テーマを確認する
第2回	先行研究の輪読①	研究テーマに添った先行研究（応用研究）を輪読する
第3回	先行研究の輪読②	先行研究（応用研究）の輪読
第4回	先行研究の輪読③	先行研究（応用研究）の輪読
第5回	先行研究の輪読④	先行研究（応用研究）の輪読
第6回	先行研究の輪読⑤	先行研究（応用研究）の輪読
第7回	先行研究の輪読⑥	先行研究（応用研究）の輪読
第8回	先行研究の輪読⑦	先行研究（応用研究）の輪読
第9回	先行研究の輪読⑧	先行研究（応用研究）の輪読
第10回	先行研究の輪読⑨	先行研究（応用研究）の輪読
第11回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第12回	応用的な研究報告①	サーベイした先行研究に基づき、春学期より進んだ応用的な研究報告を行う
第13回	応用的な研究報告②	研究報告のつづき
第14回	最終報告	1年目のまとめとしての研究報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究テーマに沿った標準的なテキストや応用的な先行文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1-1（経済学 / Economics 600）

経済学演習ＩＡ

JESS DIAMO N D

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての基本的な知識を習得し、論文作成の準備を行う。

【到達目標】
基礎文献の輪読・報告を通じ、問題意識を醸成するとともに、分析手法を身につける。また、論文のサーチの方法、論文作法やプレゼンの方法についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	論文について	論文とは何か、問題意識の持ち方、文献の探し方
第2回	問題意識の醸成	検索した文献などを通じて問題意識を醸成する
第3回	基礎知識の習得①	問題意識に関連する基礎知識をテキストや基本文献の輪読等で習得する
第4回	基礎知識の習得②	テキスト、基本文献の輪読
第5回	基礎知識の習得③	テキスト、基本文献の輪読
第6回	基礎知識の習得④	テキスト、基本文献の輪読
第7回	基礎知識の習得⑤	テキスト、基本文献の輪読
第8回	基礎知識の習得⑥	テキスト、基本文献の輪読
第9回	基礎知識の習得⑦	テキスト、基本文献の輪読
第10回	基礎知識の習得⑧	テキスト、基本文献の輪読
第11回	基本文献における問題意識や分析方法のまとめ	サーベイした基本文献から学んだことをまとめる
第12回	基本的な研究報告①	サーベイした基本文献に基づき、自らの問題意識と分析方法で研究報告を行う
第13回	基本的な研究報告②	研究報告のつづき
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
標準的なテキストや基本文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1-2（経済学 / Economics 600）

経済学演習ＩＢ

JESS DIAMO N D

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての応用的な知識を習得し、論文作成の準備をさらに進める。

【到達目標】
応用文献の輪読・報告を通じ、自身の研究テーマを絞り込む。また、分析手法についての理解をさらに深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した応用知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの確認	春学期、夏期休暇中に勉強したテキストや先行研究の基づき、研究テーマを確認する
第2回	先行研究の輪読①	研究テーマに添った先行研究（応用研究）を輪読する
第3回	先行研究の輪読②	先行研究（応用研究）の輪読
第4回	先行研究の輪読③	先行研究（応用研究）の輪読
第5回	先行研究の輪読④	先行研究（応用研究）の輪読
第6回	先行研究の輪読⑤	先行研究（応用研究）の輪読
第7回	先行研究の輪読⑥	先行研究（応用研究）の輪読
第8回	先行研究の輪読⑦	先行研究（応用研究）の輪読
第9回	先行研究の輪読⑧	先行研究（応用研究）の輪読
第10回	先行研究の輪読⑨	先行研究（応用研究）の輪読
第11回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第12回	応用的な研究報告①	サーベイした先行研究に基づき、春学期より進んだ応用的な研究報告を行う
第13回	応用的な研究報告②	研究報告のつづき
第14回	最終報告	1年目のまとめとしての研究報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究テーマに沿った標準的なテキストや応用的な先行文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1-1（経済学 / Economics 600）

経済学演習ＩＡ

倪　彬

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての基本的な知識を習得し、論文作成の準備を行う。

【到達目標】
基礎文献の輪読・報告を通じ、問題意識を醸成するとともに、分析手法を身につける。また、論文のサーチの方法、論文作法やプレゼンの方法についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	論文について	論文とは何か、問題意識の持ち方、文献の探し方
第2回	問題意識の醸成	検索した文献などを通じて問題意識を醸成する
第3回	基礎知識の習得①	問題意識に関連する基礎知識をテキストや基本文献の輪読等で習得する
第4回	基礎知識の習得②	テキスト、基本文献の輪読
第5回	基礎知識の習得③	テキスト、基本文献の輪読
第6回	基礎知識の習得④	テキスト、基本文献の輪読
第7回	基礎知識の習得⑤	テキスト、基本文献の輪読
第8回	基礎知識の習得⑥	テキスト、基本文献の輪読
第9回	基礎知識の習得⑦	テキスト、基本文献の輪読
第10回	基礎知識の習得⑧	テキスト、基本文献の輪読
第11回	基本文献における問題意識や分析方法のまとめ	サーベイした基本文献から学んだことをまとめる
第12回	基本的な研究報告①	サーベイした基本文献に基づき、自らの問題意識と分析方法で研究報告を行う
第13回	基本的な研究報告②	研究報告のつづき
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
標準的なテキストや基本文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
(Course outline)
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
(Learning Objectives)
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
(Learning activities outside of classroom)
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
(Grading Criteria /Policy)
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1-2（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅠB

倪　彬

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての応用的な知識を習得し、論文作成の準備をさらに進める。

【到達目標】
応用文献の輪読・報告を通じ、自身の研究テーマを絞り込む。また、分析手法についての理解をさらに深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した応用知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの確認	春学期、夏期休暇中に勉強したテキストや先行研究の基づき、研究テーマを確認する
第2回	先行研究の輪読①	研究テーマに添った先行研究（応用研究）を輪読する
第3回	先行研究の輪読②	先行研究（応用研究）の輪読
第4回	先行研究の輪読③	先行研究（応用研究）の輪読
第5回	先行研究の輪読④	先行研究（応用研究）の輪読
第6回	先行研究の輪読⑤	先行研究（応用研究）の輪読
第7回	先行研究の輪読⑥	先行研究（応用研究）の輪読
第8回	先行研究の輪読⑦	先行研究（応用研究）の輪読
第9回	先行研究の輪読⑧	先行研究（応用研究）の輪読
第10回	先行研究の輪読⑨	先行研究（応用研究）の輪読
第11回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第12回	応用的な研究報告①	サーベイした先行研究に基づき、春学期より進んだ応用的な研究報告を行う
第13回	応用的な研究報告②	研究報告のつづき
第14回	最終報告	1年目のまとめとしての研究報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究テーマに沿った標準的なテキストや応用的な先行文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master’s theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master’s thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student’s own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1-1（経済学 / Economics 600）

経済学演習ＩＡ

池上　宗信

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての基本的な知識を習得し、論文作成の準備を行う。

【到達目標】
基礎文献の輪読・報告を通じ、問題意識を醸成するとともに、分析手法を身につける。また、論文のサーチの方法、論文作法やプレゼンの方法についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	論文について	論文とは何か、問題意識の持ち方、文献の探し方
第2回	問題意識の醸成	検索した文献などを通じて問題意識を醸成する
第3回	基礎知識の習得①	問題意識に関連する基礎知識をテキストや基本文献の輪読等で習得する
第4回	基礎知識の習得②	テキスト、基本文献の輪読
第5回	基礎知識の習得③	テキスト、基本文献の輪読
第6回	基礎知識の習得④	テキスト、基本文献の輪読
第7回	基礎知識の習得⑤	テキスト、基本文献の輪読
第8回	基礎知識の習得⑥	テキスト、基本文献の輪読
第9回	基礎知識の習得⑦	テキスト、基本文献の輪読
第10回	基礎知識の習得⑧	テキスト、基本文献の輪読
第11回	基本文献における問題意識や分析方法のまとめ	サーベイした基本文献から学んだことをまとめる
第12回	基本的な研究報告①	サーベイした基本文献に基づき、自らの問題意識と分析方法で研究報告を行う
第13回	基本的な研究報告②	研究報告のつづき
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
標準的なテキストや基本文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
開発ミクロ経済学
＜研究テーマ＞
家計の異時点間の意思決定と貧困動学
東アフリカ乾燥地におけるインデックス型家畜保険
＜主要研究業績＞
"Can Insurance Alter Poverty Dynamics and Reduce the Cost of Social Protection in Developing Countries?" Journal of Risk and Insurance, 88(2), pp. 293-324. 2021.
"Does Index Insurance Crowd In or Crowd Out Informal Risk Sharing? Evidence from Rural Ethiopia." American Journal of Agricultural Economics, Volume 101, Issue 3, pp. 672-691. 2019.
"Poverty Traps and the Social Protection Paradox" in C. B. Barrett, M. R. Carter and J.-P. Chavas eds. The Economics of Poverty Traps, chapter 6. pp.223-256. University of Chicago Press. 2019.

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1-2（経済学 / Economics 600）

経済学演習ＩＢ

池上　宗信

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての応用的な知識を習得し、論文作成の準備をさらに進める。

【到達目標】
応用文献の輪読・報告を通じ、自身の研究テーマを絞り込む。また、分析手法についての理解をさらに深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した応用知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの確認	春学期、夏期休暇中に勉強したテキストや先行研究の基づき、研究テーマを確認する
第2回	先行研究の輪読①	研究テーマに添った先行研究（応用研究）を輪読する
第3回	先行研究の輪読②	先行研究（応用研究）の輪読
第4回	先行研究の輪読③	先行研究（応用研究）の輪読
第5回	先行研究の輪読④	先行研究（応用研究）の輪読
第6回	先行研究の輪読⑤	先行研究（応用研究）の輪読
第7回	先行研究の輪読⑥	先行研究（応用研究）の輪読
第8回	先行研究の輪読⑦	先行研究（応用研究）の輪読
第9回	先行研究の輪読⑧	先行研究（応用研究）の輪読
第10回	先行研究の輪読⑨	先行研究（応用研究）の輪読
第11回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第12回	応用的な研究報告①	サーベイした先行研究に基づき、春学期より進んだ応用的な研究報告を行う
第13回	応用的な研究報告②	研究報告のつづき
第14回	最終報告	1年目のまとめとしての研究報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究テーマに沿った標準的なテキストや応用的な先行文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
開発ミクロ経済学
＜研究テーマ＞
家計の異時点間の意思決定と貧困動学
東アフリカ乾燥地におけるインデックス型家畜保険
＜主要研究業績＞
“Can Insurance Alter Poverty Dynamics and Reduce the Cost of Social Protection in Developing Countries?” Journal of Risk and Insurance, 88(2), pp. 293-324. 2021.
“Does Index Insurance Crowd In or Crowd Out Informal Risk Sharing? Evidence from Rural Ethiopia.” American Journal of Agricultural Economics, Volume 101, Issue 3, pp. 672-691. 2019.
“Poverty Traps and the Social Protection Paradox” in C. B. Barrett, M. R. Carter and J.-P. Chavas eds. The Economics of Poverty Traps, chapter 6. pp.223-256. University of Chicago Press. 2019.

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master’s theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master’s thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student’s own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1-1（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅠA

酒井　正

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての基本的な知識を習得し、論文作成の準備を行う。

【到達目標】
基礎文献の輪読・報告を通じ、問題意識を醸成するとともに、分析手法を身につける。また、論文のサーチの方法、論文作法やプレゼンの方法についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文について	論文とは何か、問題意識の持ち方、文献の探し方
第2回	問題意識の醸成	検索した文献などを通じて問題意識を醸成する
第3回	基礎知識の習得①	問題意識に関連する基礎知識をテキストや基本文献の輪読等で習得する
第4回	基礎知識の習得②	テキスト、基本文献の輪読
第5回	基礎知識の習得③	テキスト、基本文献の輪読
第6回	基礎知識の習得④	テキスト、基本文献の輪読
第7回	基礎知識の習得⑤	テキスト、基本文献の輪読
第8回	基礎知識の習得⑥	テキスト、基本文献の輪読
第9回	基礎知識の習得⑦	テキスト、基本文献の輪読
第10回	基礎知識の習得⑧	テキスト、基本文献の輪読
第11回	基本文献における問題意識や分析方法のまとめ	サーベイした基本文献から学んだことをまとめる
第12回	基本的な研究報告①	サーベイした基本文献に基づき、自らの問題意識と分析方法で研究報告を行う
第13回	基本的な研究報告②	研究報告のつづき
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
標準的なテキストや基本文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master’s theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master’s thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student’s own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1-2（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅠB

酒井　正

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての応用的な知識を習得し、論文作成の準備をさらに進める。

【到達目標】
応用文献の輪読・報告を通じ、自身の研究テーマを絞り込む。また、分析手法についての理解をさらに深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した応用知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの確認	春学期、夏期休暇中に勉強したテキストや先行研究の基づき、研究テーマを確認する
第2回	先行研究の輪読①	研究テーマに添った先行研究（応用研究）を輪読する
第3回	先行研究の輪読②	先行研究（応用研究）の輪読
第4回	先行研究の輪読③	先行研究（応用研究）の輪読
第5回	先行研究の輪読④	先行研究（応用研究）の輪読
第6回	先行研究の輪読⑤	先行研究（応用研究）の輪読
第7回	先行研究の輪読⑥	先行研究（応用研究）の輪読
第8回	先行研究の輪読⑦	先行研究（応用研究）の輪読
第9回	先行研究の輪読⑧	先行研究（応用研究）の輪読
第10回	先行研究の輪読⑨	先行研究（応用研究）の輪読
第11回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第12回	応用的な研究報告①	サーベイした先行研究に基づき、春学期より進んだ応用的な研究報告を行う
第13回	応用的な研究報告②	研究報告のつづき
第14回	最終報告	1年目のまとめとしての研究報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究テーマに沿った標準的なテキストや応用的な先行文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1（経済学 / Economics 600）

論文指導ⅡA

杉浦　未樹

備考（履修条件等）：2017〜2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	いままでの研究成果をまとめる
第2回	研究報告①	修士論文を構成する研究成果を報告
第3回	研究報告②	修士論文を構成する研究成果を報告
第4回	研究報告③	修士論文を構成する研究成果を報告
第5回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第6回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第7回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

世界経済史、

＜研究テーマ＞

18〜20世紀の繊維品の発展と世界的流通

都市における商品流通と地域ネットワークの形成

女性と財産形成

＜主要研究業績＞

The urban logistic network. Cities, transport and distribution in Europe from the Middle Ages to the Modern Times（共編著）Palgrave, 2019; ‘The Mass consumption of refashioned clothes: Re-dyed kimono in post war Japan’ in Business History,61-1; ’Coolies’ Hats. Chinese Coolie Hats: Global Dialogues on a Sign of Servitude, c. 1840-1940’, C.Breward,B.Lemire, G.Riello eds., The Cambridge History of Fashion , Cambridge UP, 2022.

ECN603C1-1（経済学 / Economics 600）

修士ワークショップA

杉浦　未樹

備考（履修条件等）：2017〜2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ワークショップ報告テーマ	ワークショップ報告テーマの決定
第2回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第3回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第4回	ワークショップ発表準備①	ワークショップの発表準備
第5回	ワークシップ発表準備②	ワークショップ報告リハーサル
第6回	修士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第7回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞
世界経済史、
＜研究テーマ＞
18〜20世紀の繊維品の発展と世界的流通
都市における商品流通と地域ネットワークの形成
女性と財産形成
＜主要研究業績＞
The urban logistic network. Cities, transport and distribution in Europe from the Middle Ages to the Modern Times（共編著）Palgrave, 2019; 'The Mass consumption of refashioned clothes: Re-dyed kimono in post war Japan' in Business History,61-1; 'Coolies' Hats. Chinese Coolie Hats: Global Dialogues on a Sign of Servitude, c. 1840-1940', C.Breward,B.Lemire, G.Riello eds., The Cambridge History of Fashion , Cambridge UP, 2022.

ECN602C1-2（経済学 / Economics 600）

論文指導ⅡB

杉浦　未樹

備考（履修条件等）：2017～2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	修士論文の確認	修士論文の提出前の確認を行う
第2回	修士論文の最終確認	修士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	修士論文の検討	修士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第7回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

世界経済史、

＜研究テーマ＞

18～20世紀の繊維品の発展と世界的流通

都市における商品流通と地域ネットワークの形成

女性と財産形成

＜主要研究業績＞

The urban logistic network. Cities, transport and distribution in Europe from the Middle Ages to the Modern Times（共編著）Palgrave, 2019; ‘The Mass consumption of refashioned clothes: Re-dyed kimono in post war Japan’ in Business History,61-1; ’Coolies’ Hats. Chinese Coolie Hats: Global Dialogues on a Sign of Servitude, c. 1840-1940’, C.Breward,B.Lemire, G.Riello eds., The Cambridge History of Fashion , Cambridge UP, 2022.

ECN603C1-2（経済学 / Economics 600）

修士ワークショップＢ

杉浦　未樹

備考（履修条件等）：2017～2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ワークショップ報告テーマ	ワークショップ報告テーマの決定
第2回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第3回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第4回	ワークショップ発表準備	ワークショップ報告リハーサル
第5回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第6回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省
第7回	ワークショップ報告論文の修正	ワークショップでのコメントをもとに報告論文を修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
世界経済史、
＜研究テーマ＞
18～20世紀の繊維品の発展と世界的流通
都市における商品流通と地域ネットワークの形成
女性と財産形成
＜主要研究業績＞
The urban logistic network. Cities, transport and distribution in Europe from the Middle Ages to the Modern Times（共編著）Palgrave, 2019; 'The Mass consumption of refashioned clothes: Re-dyed kimono in post war Japan' in Business History,61-1; 'Coolies' Hats. Chinese Coolie Hats: Global Dialogues on a Sign of Servitude, c. 1840-1940', C.Breward,B.Lemire, G.Riello eds., The Cambridge History of Fashion , Cambridge UP, 2022.

ECN522C1 – 3（経済学 / Economics 500）

応用マクロ経済学ＤＡ

八木橋　毅司

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
（修士・博士前期課程向け）
最適化理論（家計の効用最大化、企業の利潤最大化）に基づいた動学的一般均衡モデルを大学院での国際標準とされるテキストを用いて学ぶ。
（博士後期課程向け）
上記に加え取り上げるトピックに関連した学術論文の査読ができる程度の応用知識を身につける

【到達目標】
（修士・博士前期課程向け）
大学院レベルのマクロ経済学で最も重要な手法である動学モデルの基本的な解法を理解し、応用的な動学モデルを解くことができる。
（博士後期課程向け）
上記に加え学術論文を執筆するための基礎知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期Ⅱ期に開講しますが、秋学期の「マクロ経済学Ａ」の知識は前提としません。アメリカの大学院でも修士学生が勉強している標準的なテキストであるRomer (2018)の2章、6章、および7章に沿って講義します。数式によるモデルの分析とともに、現実の経済への応用や実証分析の紹介も行います。授業形態については対面講義を原則としますが、希望者にはハイフレックス形式でのオンライン受講を認めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	オリエンテーション、Matlabの紹介、貨幣と産出量の関係性
第2回	名目硬直性	ベクトル自己回帰モデル（１）
第3回	名目硬直性	ベクトル自己回帰モデル（２）
第4回	名目硬直性	ベクトル自己回帰モデル（３）
第5回	名目硬直性	貨幣保有と総需要
第6回	名目硬直性	不完全競争と総供給
第7回	名目硬直性	演習
第8回	DSGEモデルの紹介	DSGEモデルの基本的フレームワーク（１）
第9回	DSGEモデルの紹介	DSGEモデルの基本的フレームワーク（２）
第10回	世代重複モデル	世代重複モデルの概要
第11回	世代重複モデル	世代重複モデルにおける動学的非効率性
第12回	世代重複モデル	演習
第13回	学生発表	学生発表（前半）
第14回	学生発表	学生発表（後半）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各４時間を標準とします

【テキスト（教科書）】
David Romer, Advanced Macroeconomics, 5th edition, McGraw-Hill Irwin, 2018

【参考書】
蓮見「動学マクロ経済学へのいざない」、2020年
G.マンキュー（著）『マクロ経済学１：入門編』東洋経済新報社、2017年
G.マンキュー（著）『マクロ経済学２：応用編』東洋経済新報社、2017年

【成績評価の方法と基準】
（修士・博士前期課程向け）
学生発表50％、課題25%、クラス参加25%
（博士後期課程向け）
学生発表25％、課題25%、クラス参加50%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン、タブレット、スマホのいずれかを常時持参してください。

【担当教員の専門分野等】
詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください
https://sites.google.com/site/takeshiyagihashi/

【主要業績】
"Intertemporal Elasticity of Substitution with Leisure Margin” (with Juan Du), forthcoming in Review of Economics of the Household
"How Do the Trans-Pacific Economies Affect the US? An Industrial Sector Approach" (with David Selover), Oct. 2017, The World Economy , 40(10), 2097-2124.
“Goods-Time Elasticity of Substitution in Health Production” (with Juan Du), Oct. 2017, Health Economics, 26(11), 1474-1478.
“Health Care Inflation and Its Implication for Monetary Policy” (with Juan Du), Mar. 2015, Economic Inquiry, 53(3), 1556-1579.
“Estimating Taylor Rules in a Credit Channel Environment,” Dec. 2011, North American Journal of Economics and Finance, 22(3), 344-364.
“Are DSGE Approximating Models Invariant to Shifts in Policy?” (with Timothy Cogley) Jan. 2010, The B.E. Journal of Macroeconomics, 10(1) (Contribution), Article 27, 1-31.

【Outline (in English)】
Students learn the basic methods of advanced macroeconomics using international standard textbooks in graduate school. At the end of this course, students are expected to understand the applied Dynamic General Equilibrium model.
【Learning Activities Outside of Classroom】
Four hours preview/four hours review per class
【Grading Criteria/Policy】
(MA/first & second year Ph.D. students)
Student presentation: 50%, Assignment: 25%、Class Participation: 25%
(Ph.D. students who are in the third year and beyond)
Student presentation: 25%, Assignment: 25%、Class Participation: 50%

ECN522C1－4（経済学 / Economics 500）

応用マクロ経済学ＤＢ

蓮見　亮

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、経済政策の現場では、「新しいケインジアンのマクロ経済モデル」を念頭に置いて議論する方向にあります。この授業では、トピックを絞った上で最適化理論（家計の効用最大化、企業の利潤最大化）に基づくマクロ経済学の考え方を学んでいきます。
数式を使った解説がメインになりますが、それぞれの変数の持つ意味がイメージできれば、図のみに頼るよりもかえって理解がはかどるはずです（全くの数式アレルギーの人には薦められませんが）。網羅的な説明は目標としないので、極力やさしく丁寧に解説します。理解を深めるために、必要に応じてコンピュータによる数値計算などの結果も示します。
例えば学生が経済政策の立案者となったとき、適切な提言をするための知識を習得すること、あるいは将来企業の企画立案者や経営者となったとき、企業経営に関する重要な意思決定する際の判断の基礎とすべき基本的な概念と考え方を習得することを目的とします。

【到達目標】
分析目的に応じた独自のモデルを構築し、高度な政策分析を行えるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
輪読形式（学生に担当個所を割り振り、説明してもらう）とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1.	イントロダクション	マクロ経済モデルの基本的な考え方
2.	ソローモデル（１）	経済成長、生産関数、資本ストックの蓄積、消費と投資のトレードオフ
3.	数学の準備	指数関数・対数関数、偏微分、テイラー展開
4.	ソローモデル（２）	定常状態の計算、成長会計
5.	ラムゼイモデル（１）	効用関数
6.	ラムゼイモデル（２）	ラグランジュの未定乗数法、オイラー方程式の導出
7.	ラムゼイモデル（３）	定常状態への経路の計算
8.	税制モデル	税制の変更シミュレーション
9.	RBCモデル（１）	技術ショック、労働供給の内生化
10.	RBCモデル（２）	技術ショックに対するインパルス応答、景気循環
11.	ニューケインジアン・モデル（１）	独占的競争モデル
12.	ニューケインジアン・モデル（２）	ニューケインジアン・フィリップス曲線、IS曲線
13.	ニューケインジアン・モデル（３）	解の存在条件、最適金融政策
14.	まとめと復習	講義を振り返り、最適化理論に基づくマクロ経済学の体系を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中にも解説しますが、高校数学程度の指数関数・対数関数、微分・積分、数列を復習しておいてください。また、余力があれば、極限、自然対数、e（ネイピア数）を予習しておいてください。
週3時間程度の準備学習・復習が単位認定の目安となります。

【テキスト（教科書）】
蓮見 亮 (著)『動学マクロ経済学へのいざない』、日本評論社、2020年
必要に応じて授業支援システム経由で講義ノートを配布します。

【参考書】
特になし（授業中に指示します）。

【成績評価の方法と基準】
平常点２０％、割り当てた輪読箇所のプレゼンテーション８０％の配点で成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン講義につき、機材（PC、タブレット等）・ネットワーク環境が必要です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マクロ経済学、計量経済学（ベイズ統計学）
＜研究テーマ＞
マクロ経済モデルによるシミュレーション分析
＜主要研究業績＞
Ono, Arito, Ryo Hasumi, and Hideaki Hirata, “Differentiated use of small business credit scoring by relationship lenders and transactional lenders: Evidence from firm-bank matched data in Japan”, Journal of Banking & Finance 42, 371-380, 2014.
Hasumi, Ryo and Hideaki Hirata, “Small Business Credit Scoring and Its Pitfalls: Evidence from Japan”, Journal of Small Business Management 52, 555-568, 2014.
Hasumi, Ryo , Hirokuni Iiboshi, and Daisuke Nakamura, “ Trends, Cycles and Lost Decades – Decomposition from a DSGE Model with Endogenous Growth”, Japan & The World Economy 46, 9-28, 2018.
Hasumi, Ryo, Hirokuni Iiboshi, Tatsuyoshi Matsumae, and Daisuke Nakamura. “Does a Financial Accelerator Improve Forecasts during Financial Crises?: Evidence From Japan with Prediction-pool Methods”, Journal of Asian Economics, 60, 45-68, 2019.

【Outline (in English)】
（Course outline）
In recent years, macroeconomic policy has often been discussed in line with New Keynesian macroeconomic models. In this class, students will learn a macroeconomic theory based on optimization, which includes utility maximization of households and profit maximization of firms.
（Learning Objectives）
The objective of this course is that students will be able to conduct policy analysis using applied models based on an understanding of the basic concepts of macroeconomics.
（Learning activities outside of classroom）
Approximately three hours of preparatory study and review per week is required for credit.
（Grading Criteria /Policy）
Grading will be based on class participation (40%) and presentation of assigned readings (60%).

ECN521C1－3（経済学 / Economics 500）

応用ミクロ経済学ＤＡ

鈴木　豊

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「契約理論（Contract Theory）」について体系的に学ぶ。
（Ⅰ）不確実性と情報の経済学：「情報の経済学」の基礎
（Ⅱ）プリンシパル＝エージェントの理論:モラルハザード
（Ⅲ）プリンシパル＝エージェントの理論:アドバースセレクション
（Ⅳ）不完備契約（Incomplete Contracts）と企業理論

【到達目標】
受講生は,「契約理論・ゲーム理論」の考え方・分析の仕方を体系的に修得し、「応用ミクロ分析」などに積極的に活用して、博士論文研究に生かしていくことが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論　第2版』(8章～11章）を基本の流れとして進める。授業の中で，より高度なレジュメや参考資料の配布，参考文献の指示等を行う。リアクションペーパーと課題提出の積み重ねが重要となる。授業の詳細の指示や課題等へのフィードバックは、「教室」と「学習支援システム」を組み合わせて行う。授業形態は、基本、対面授業とするが、「Zoom動画」などの資産も有効活用していきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	不確実性と情報の経済学①基礎	期待効用最大化仮説、リスク態度、リスクプレミアム、期待効用最大化とその使い方
第2回	不確実性と情報の経済学②応用	期待効用最大化と最適化の１階条件、ポートフォリオセレクションとその応用、リスク分散
第3回	プリンシパル・エージェントの理論：モラルハザード①	エージェンシー理論の導入、固定給とモラルハザード 、歩合給とインセンティブ効果。数値モデルによる分析。
第4回	モラルハザード②	簡単なエージェンシーモデルの解（リスク中立的エージェント）、インセンティブスキームの直観的説明
第5回	モラルハザード③	インセンティブ契約の数学モデル（リスク回避的エージェント）、いくつかのモデリング。
第6回	複数エージェントの理論①	チーム生産①フリーライダー問題を解決する仕組み。ペナルティースキームなど。
第7回	複数エージェントの理論②	トーナメントの理論と応用。オークション理論との比較など。
第8回	プリンシパル・エージェントの理論：アドバース・セレクション①	逆選抜(Adverse Selection)：基礎編
第9回	アドバース・セレクション②	逆選抜を解決する仕組みとしての自己選抜メカニズム①導入
第10回	アドバース・セレクション③	自己選抜メカニズム②応用と展開
第11回	不完備契約①	関係特殊的投資とホールドアップ問題：概念と基本モデル、一般化と外部機会の存在
第12回	不完備契約②	「資産所有(財産権)」アプローチ①Grossman=Hart=Mooreモデル、残余コントロール権の配分と企業の境界の決定
第13回	不完備契約③	組織における権限配分、権限委譲について。 Aghion=Tirole1997のモデルなど。
第14回	その他のトピックス	関係的契約、行動契約理論などの解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
授業内容（授業ノート）や配布資料とともに、重要な原論文あるいは理論モデルもその都度フォローしていくこと。詳細は授業内で指示する、または受講者の関心からの質問に応える。本授業の予習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書)】
鈴木豊『完全理解　ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房2021（8章～11章）を基本の流れとし，授業の中で，より高度なレジュメや参考資料の配布，参考文献の指示を行う。

【参考書】
①　マクミラン『経営戦略のゲーム理論』（伊藤，林田訳）有斐閣
②　ミルグロム＋ロバーツ『組織の経済学』（奥野，伊藤他訳）NTT出版
③　ラジアー『人事と組織の経済学』（樋口，清家訳）日本経済新聞社
④　オリバー・ハート『企業 契約 金融構造』（鳥居訳）慶応大学出版会2010
⑤　Bolton and Dewatoripont,Contract Theory, MIT Press
⑥　鈴木豊（編）『ガバナンスの比較セクター分析：ゲーム理論・契約理論を用いた学際的アプローチ』法政大学出版局2010年
⑦　鈴木豊『中国経済の制度分析：契約理論・ゲーム理論アプローチ』日本評論社2020年

【成績評価の方法と基準】
レポート（練習問題への解答）(2回）(40％)。毎回のリアクションペーパーの積み重ね（10％)。期末試験（50％)。

【学生の意見等からの気づき】
基礎事項の確認から大学院レベルの研究紹介まで、充実した内容で、丁寧に、区切りよく進めていきたい。代表的な論文は、ポイントを詳しく解説するようにしたい。

【担当教員の専門分野等】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001407/profile.html
を参照のこと。

【Outline (in English)】
Students will systematically study Contract Theory.
(I) Uncertainty and Economics of Information
(II) Principal = Agent Theory: Moral Hazard
(III) Principal = Agent Theory: Adverse Selection
(IV) Theory of Incomplete Contracts
Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the content. Grading is based on Two Assignments (Problem Sets as Homework)(40%), Reaction Papers (10%), and a Final Examination (50%).

ECN521C1－4（経済学 / Economics 500）

応用ミクロ経済学ＤＢ

平瀬　友樹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ミクロ経済学B」で扱えなかった一般均衡分析の数理経済学的な背景について講義を行います．また、それらをふまえて、社会的厚生関数についての議論や市場に不確実性がある場合などについても解説を行います．

【到達目標】
ミクロ経済学でモデル化されていない経済現象や応用問題を明確に意識し，どのように理論を拡充する必要があるかを，自分の頭で考え，研究を進められるようになることを最終目標にします．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
微積分,線形代数にある程度習熟していることに加えて,「ミクロ経済学B」の内容を完全に理解していることを前提にします.これらの知識が不足している受講者は,事前に必要な数学を独習した上で受講して下さい.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義の概要
第2回	基礎的概念の確認①	行列と微分
第3回	基礎的概念の確認②	集合と位相
第4回	基礎的概念の確認③	最適値問題および凸解析
第5回	基礎的概念の確認④	不動点定理
第6回	一般均衡分析①	交換経済
第7回	一般均衡分析②	生産経済
第8回	一般均衡分析③	均衡の安定性
第9回	一般均衡分析④	効率性と衡平性
第10回	不確実性下の意思決定①	期待効用と危険に対する態度
第11回	不確実性下の意思決定②	資産選択，保険，モラル・ハザード
第12回	不確実性下の意思決定③	情報の非対称性と逆選択
第13回	不確実性下の意思決定④	教育とシグナリング
第14回	まとめ	今後の学習について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします.

【テキスト（教科書）】
下記の参考書をトピックに応じて使い分けるので, 必要に応じてその都度指示します.

【参考書】
[1] A. Mas-Coell, M.D. Whinston, and J.R. Green, Microeconomic Theory, Oxford Univ. Press, Oxford, 1995.
[2]武隈愼一『数理経済学』（新世社，2001年）
[3]長名寛明『ミクロ経済分析の基礎』(知泉書館, 2011年)
[4]二階堂副包『現代経済学の数学的方法　位相数学による分析入門』(岩波書店，1960年，ペーパーバック版，2022年)
[5]林貴志『意思決定理論』(知泉書館, 2020年)
[6]山崎昭『数理経済学の基礎』(創文社, 1986年: 講談社オンデマンド版, 2022年)

【成績評価の方法と基準】
オンラインにつき平常点100％：受講者は講義毎に出されるレポート課題（演習問題）を解き，それを提出することで平常点が与えられます.

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度に合わせて授業の進行スピードを調整します.

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞
経済理論形成史
＜研究テーマ＞
一般均衡理論，ゲーム理論，および計量経済学の成立過程について

【Outline (in English)】
Course outline. In this course several topics of applied microeconomics are lectured. Revealed preferences, utility maximization and labor supply, intertemporal decisions, decisions under uncertainty, cooperative games are the main theme.
Learning Objectives. The goal of this course is to study various applications of microeconomics to illustrate the power of economic theory.
Learning activities outside of classroom. Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria/Policy. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Reports: 100%.

ECN563C1－3（経済学 / Economics 500）

開発経済論ＤＡ

池上　宗信

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
開発経済学の主要な実証分析手法と論文を学ぶ。
実証分析手法として、クラスター頑健標準誤差、ランダム化比較試験、差の差の分析、Regression Discontinuity Design、操作変数法を学ぶ。
これらの手法を用いて、人的資本、信用、市場、制度に関する問を研究した論文を学ぶ。
先行研究をサーベイするのではなく、特定の論文に焦点をあて、その論文の先行研究の不備、問、貢献、データ、手法を学ぶ。

【到達目標】
各自の研究分野で、この講義で学んだ各実証分析手法を用いた論文が出てきたときに、手法がわからないことが原因でつまづかないようになる。
各実証分析手法を考慮しながら、各自の論文の問、アイデアを探すことができるようになる。
各自の研究分野における先行研究を理解し、あらたな実証研究論文のプロポーザルを執筆できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントとして指定された部分を読む。
各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づく。
授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質門する。
授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをする。
演習問題、試験には統計計算ソフトＲを用いた問題が含まれる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ランダム化比較試験	相関、因果、ルービンの因果モデル
第2回	ランダム化比較試験	記述統計、回帰係数の推定、外生性、内生性
第3回	ランダム化比較試験	検定、 教育、学力追跡と成績、Duflo, Esther and Dupas, Pascaline and Kremer, Michael (2011)
第4回	ランダム化比較試験	クラスター、不均一分散、クラスターに対して頑健な標準誤差、欠落変数バイアス、重回帰
第5回	ランダム化比較試験	信用、アドバース・セレクション、モラル・ハザード, Karlan, Dean and Zinman, Jonathan (2009)、2段階ランダム化、結合仮説の検定
第6回	Regression Discontinuity Design	連続性条件、局所回帰、制度、投票と貧困対策、Fujiwara, Thomas (2015)
第7回	まとめと復習、中間試験	第1回から第6回までの内容を復習、中間試験
第8回	Regression Discontinuity Design	tidyverse, ggplot2パッケージを用いた図の描き方
第9回	Regression Discontinuity Design	局所平均
第10回	Regression Discontinuity Design	局所線形回帰、条件付き平均トリートメント効果
第11回	操作変数法	内生変数、外生変数、操作変数、2段階最小2乗推定量、制度、植民地と経済成長、Acemoglu, Daron and Johnson, Simon and Robinson, James A. (2001)
第12回	固定効果	パネルデータ、Acemoglu, Daron and Johnson, Simon and Robinson, James A. and Yared, Pierre (2008)
第13回	差の差の分析	並行トレンドの仮定、市場、携帯電話と魚市場、Jensen, Robert and Miller, Nolan H. (2018)
第14回	まとめと復習、期末試験	第8回から第13回までの内容を復習、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義スライドの基となっている文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読む。
授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。

【参考書】
高野久紀(2014, 2015)「実践 開発経済学 1-8」『経済セミナー』2014年6/7月号-2015年8/9号
Acemoglu, Daron, Simon Johnson, and James A. Robinson. 2001. “The colonial origins of comparative development: An empirical investigation.” American Economic Review 91 (5).
Acemoglu, Daron, Simon Johnson, James A. Robinson, and Pierre Yared. 2008. “Income and democracy: Comment.” American Economic Review 98 (3):808– 842.
Duflo, Esther, Pascaline Dupas, and Michael Kremer. 2011. “Peer effects, teacher incentives, and the impact of tracking: Evidence from a randomized evaluation in Kenya.” American Economic Review 101 (5): 1739– 1774.
Fujiwara, Thomas. 2015. “Voting Technology, Political Responsiveness, and Infant Health: Evidence From Brazil.” Econometrica 83 (2): 423– 464.
Jensen, Robert and Nolan H. Miller. 2018. “Market integration, demand, and the growth of firms: Evidence from a natural experiment in India.” American Economic Review 108 (12):3583– 3625.
Karlan, Dean, and Jonathan Zinman. 2009. “Observing Unobservables: Identifying Information Asymmetries With a Consumer Credit Field Experiment.” Econometrica 77 (6): 1993– 2008.

【成績評価の方法と基準】
中間試験40％、期末レポート40％、平常点20％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は2022-2023年度は開講されなかった。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
開発ミクロ経済学
＜研究テーマ＞
家計の異時点間の意思決定と貧困動学
東アフリカ乾燥地におけるインデックス型家畜保険
＜主要研究業績＞
“Can Insurance Alter Poverty Dynamics and Reduce the Cost of Social Protection in Developing Countries?” Journal of Risk and Insurance, 88(2), pp. 293-324. 2021.

“Does Index Insurance Crowd In or Crowd Out Informal Risk Sharing? Evidence from Rural Ethiopia.” American Journal of Agricultural Economics, Volume 101, Issue 3, pp. 672-691. 2019.
“Poverty Traps and the Social Protection Paradox” in C. B. Barrett, M. R. Carter and J.-P. Chavas eds. The Economics of Poverty Traps, chapter 6. pp.223-256. University of Chicago Press. 2019.

【Outline (in English)】
＜ Course outline ＞
We will study major empirical methods and papers in Development Economics.
As the major empirical methods, we will study difference in difference, regression discontinuity design, and instrument variable method.
We will study papers using these empirical methods and analyzing questions related to human capital, credit, market, and institution.
＜ Learning Objectives ＞
We will try to become able to understand the empirical methods in journal articles. We will try to become able to look for research paper idea keeping the empirical methods in our minds.
＜ Learning activities outside of classroom ＞
Before each class, we will read assigned article, on which class slides are based.
After each class, if needed, we will review class materials by ourselves.
We expect 2 hours for preparing for each class and 2 hours to review class materials by ourselves after class.
If we need to have online classes for combating infectious diseases, we will take online mini test or assignment after each class.
＜ Grading Criteria/Policies ＞
We will make class grade based on the following factors and weights: mid-term exam 40%; end-term report 40%; participation 20%.

ECN542C1－1（経済学 / Economics 500）

金融ファイナンス論ＤＡ

胥　鵬

備考（履修条件等）：（2021年度以降入学者用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融ファイナンス理論は、リスクに始まりリスクに終わる。しかし、リスクの定義とはなんであろうか？ リスクの定義の出発点として、収益率のばらつきを表す標準偏差から出発し、二つの銘柄の株式投資収益率の相関と分散投資を中心に講義をする。その上で、リスキー資産から有効ポートフォリオ・フロンティアを導く。さらに、安全資産についてわかりやすく解説し、安全資産を含む資本市場線と証券市場線の考え方を用いて均衡におけるリスクの定義及びリスクとリターンの関係を説明する。

【到達目標】

緊急事態宣言を受けて、航空会社、観光旅行会社、飲食関連会社の株価が大きく変動する。日々の株価を用いて、金融・ファイナンスだけではなく、様々な経済政策を研究することが可能である。この授業は金融ファイナンスの基礎理論を紹介し、とりわけ、株式投資のリターンとリスクとの関係に関する理論分析を理解することを目的とする。学生には、日々の株価変動の背後にある個別リスクとシステマチック・リスクの意味について考え、経済研究への応用を理解してもらうことをめざす。博士課程受講生は、株価データを用いて、イベントスタディーを応用して論文を書くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、パソコンなどで自分のために自分の手で自分の問題を解くことによって講義内容をマスターします。さらに，FQなどの学内データベースの活用方法を紹介し，修士論文作成へのステップアップを目指す。

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論や実証分析を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	景気・業況・金利の変動と株価	日々の株価の変動、リスクとリターン
2	投資のリターンとは何か？	期待投資収益率はリターン
3	リスクとは何か？	投資収益率のばらつきはリスク
4	二株を追う者は何を得る？	2銘柄の分散投資の収益率
5	2銘柄の分散投資からの拡張	複数銘柄の分散投資
6	リスクとリターンのトレードオフ	危険資産からなる有効ポートフォリオ・フロンティア
7	資本市場線	安全資産の導入
8	証券市場線	安全資産を含む有効ポートフォリオ・フロンティア
9	βの導出	個別銘柄株式のリスク
10	マーケット・モデル	個別銘柄株式のリスクの計測
11	株式相場の影響	株式増場の影響を除いた異常収益率の計算
12	イベント・スタディー	利益・配当・政策などの変動の株価に対する効果を計測する分析手法
13	データ収集	株価データを収集する
14	仮説検定	集計した異常収益率に基づいて経済学・金融・ファイナンスの様々な仮説を検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

簡単な予習はもちろん、理解できない点については必ず復習してください。宿題や課題を通じて自分の理解を深めましょう。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

斉藤誠　『金融技術の考え方・使い方：リスクと流動性の経済分析』、有斐閣

『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹, 芹田敏夫, 胥鵬, 佐々木隆文, 鈴木健嗣, 佐々木寿記、白桃書房

【参考書】

必要に応じて、専門誌論文を授業支援システムにアップロードする。

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、課題レポート(40%)と学期レポート(60%)。博士課程受講生は、株価データを用いて、イベントスタディーを応用して論文を書くことが必須。

【学生の意見等からの気づき】

他のテーマについてもリクエストに応じて適宜に取り上げる。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン持参。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を皆様に届ける。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞　企業金融（コーポレート・ファイナンス）、企業統治（コーポレート・ガバナンス）、法と経済学、不動産価格、中国経済

＜研究テーマ＞　ＭＢＯ、敵対的買収案と株式議決権行使、ホットマネー（熱銭）と中国の不動産価格

＜主要研究業績＞

『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹, 芹田敏夫, 胥鵬, 佐々木隆文, 鈴木健嗣, 佐々木寿記 (6,7章) 白桃書房 2020年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index,Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng　International Review of Finance 2020年

Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

In this course, we learn basic monetary and finance theories. Finance theory begins and ends with risk. The goal of the course is to understand risks based on the Capital Asset Pricing Model and the method of event study. Students are expected to calculate abnormal return and test economic hypotheses. Before/after each class meeting, students will be expected to download the relevant data and documents. Your required study time is about four hours for each class meeting. Short reports (40%) and term report (60%) are both required for grading. An essay is required for students of doctoral program.

ECN565C1－3（経済学 / Economics 500）

地域経済論ＩＤＡ

馬場　敏幸

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
おもに第二次世界大戦後に発展した新興経済発展国について、それらの国の文化、経済、産業、発展の経緯、現状などを学びます。国・地域についてはアジアを中心にしますが、アフリカや北米・中南米、ヨーロッパなども必要に応じて紹介したいと考えています。

【到達目標】
　対象各国の経済の現状、問題点、発展の経緯、産業動向などについて理解を深めることを到達目標とします。各国の経済状況や発展の過程、背後にあるメカニズムについて十分理解することを目標とします。さらに産業ごとでの理解も深めてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は多摩キャンパスで開講を考えていますが、Zoomを用いてハイフレックス型の講義を行うので、市谷キャンパスや社会人の場合は会社からも受講できます。
当初は講義により説明を行いますが、より学びを深めるために受講生交代で課題を発表し、相互に意見交換する、双方向型の授業が行えればよいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の進め方について説明します
第2回	経済データベース１	オンラインデータベースを学び、主要な経済統計を検索・取得できるようにします。
第3回	アジア地域のアウトライン	主要な経済統計によりアジア各国を概観します
第4回	通貨とグローバリゼーション	為替レートとグローバリゼーションについて学びます
第5回	工業化と技術学習	技術導入戦略、技術学習の経路、OEM戦略などについて学びます
第6回	経済データベース２	貿易データベースについて学び、データの検索・取得を行えるようにします。
第7回	エリアスタディ1	シンガポール
第8回	エリアスタディ2	香港
第9回	エリアスタディ3	韓国
第10回	エリアスタディ4	タイ
第11回	エリアスタディ5	インドネシア
第12回	エリアスタディ6	マレーシア
第13回	エリアスタディ7	フィリピン
第14回	総括	講義の総括を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義前１時間、講義後３時間、合計４時間の授業外学習を想定しています。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
必要に応じて紹介します

【成績評価の方法と基準】
授業態度（40%）、課題やプレゼンテーション（60%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
PCを推奨します

【地域経済】
新興工業国の経済発展
自動車産業
サポーティングインダストリー

【Outline (in English)】
In this class, you learn economics, geographies, industries of Asian countries and other emerging countries. You learn various economic backgrounds and development engines of each country. As outside studies, I hope one and half hour before classroom and two and half hours after classroom. Grading is based on attitude for class study(40%) and reports & presentations(60%).

ECN565C1－4（経済学 / Economics 500）

地域経済論ＩＤＢ

馬場　敏幸

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
おもに第二次世界大戦後に発展した新興経済発展国について、それらの国の産業について学びます。特に自動車産業およびサポーティングインダストリィーの現状と発展について学びます。国・地域についてはアジアを中心にしますが、アフリカや北米・中南米、ヨーロッパなども必要に応じて紹介したいと考えています。

【到達目標】
自動車産業およびサポーティングインダストリーの歴史、特質、現状、今後の発展の方向性などについてグローバルな視点から理解することを目標とします。自動車産業の特質、各国での発展史、現状について理解を深めてください。さらにサポーティングインダストリーの状況、グローバルバリューチェーンなどについても理解を深めてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は多摩キャンパスで開講を考えていますが、Zoomを用いてハイフレックス型の講義を行うので、市谷キャンパスや社会人の場合は会社からも受講できます。
当初は講義により説明を行いますが、より学びを深めるために受講生交代で課題を発表し、相互に意見交換する、双方向型の授業が行えればよいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の進め方について説明します
第2回	自動車産業データベース	オンラインデータベースを学び、自動車産業の主要なデータを検索・取得できるようにします
第3回	貿易データベース	貿易データベースについて学びます
第4回	自動車産業の現状１	自動車産業の現状について学びます
第5回	自動車産業の現状２	世界の自動車産業の状況について概観します
第6回	サポーティング産業	サポーティング産業について学びます
第7回	自動車産業の発展史1	自動車産業の発展史について学びます
第8回	自動車産業の発展史2	自動車産業の発展史について学びます
第9回	グローバルバリューチェーン１	自動車部品のGVCについて学びます
第10回	グローバルバリューチェーン２	自動車部品のGVCについて学びます
第11回	各国の自動車産業1	各国の自動車産業のケーススタディ
第12回	各国の自動車産業2	各国の自動車産業のケーススタディ
第13回	各国の自動車産業3	各国の自動車産業のケーススタディ
第14回	総括	講義の総括を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義前１時間、講義後３時間、合計４時間の授業外学習を想定しています。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
必要に応じて紹介します

【成績評価の方法と基準】
授業態度（40%）、課題やプレゼンテーション（60%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
PCを推奨します

【地域経済】
自動車産業・サポーティング産業

【Outline (in English)】
In this class, you learn economics and industries of Asian countries and other emerging countries. In this class, we especially focus on automobile industry and supporting industries. As outside studies, I hope one and half hour before classroom and two and half hours after classroom. Grading is based on attitude for class study(40%) and reports & presentations(60%).

ECN523C1－3（経済学 / Economics 500）

統計学ＤＡ

菅　幹雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
データサイエンスおよび統計のリテラシーを身に着けること。

【到達目標】
データサイエンスの基礎を固め、さらにそれを実際に応用できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
教員は教科書の内容に基づいて、それをExcelおよびRで実際に計算する方法を説明する。学生は章末の問題を宿題としてExcelおよびRを用いて解き、それを授業内で発表する。さらに学んだ技法を応用した実証分析を行った小論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、Rの基礎	授業の進め方、Rの基礎
第2回	データの表現	度数分布とそのグラフ、ローレンツ曲線、パレート図、2変量データの表現
第3回	データの特性値	データの中心的位置をとらえる代表値、データの散らばりの程度をとらえる指標、データの標準化
第4回	データの収集	統計的探究プロセス、　母集団と標本、標本抽出の方法、インターネット調査、ビッグデータの偏り、実験研究と調査観察研究
第5回	確率(1)	確率を定義するための枠組み、確率の定義とモデリング、確率の性質、条件付き確率と乗法定理、独立な事象の確率、ベイズの定理
第6回	確率(2)	確率を定義するための枠組み、確率の定義とモデリング、確率の性質、条件付き確率と乗法定理、独立な事象の確率、ベイズの定理
第7回	不確実な現象のモデリング(1)	確率変数と確率分布、　確率変数の平均と分散・標準偏差、代表的な確率分布、母集団分布とそのモデリング、　標本分布
第8回	不確実な現象のモデリング(2)	確率変数と確率分布、　確率変数の平均と分散・標準偏差、代表的な確率分布、母集団分布とそのモデリング、　標本分布
第9回	統計的推測（推定）(1)	点推定、区間推定
第10回	統計的推測（推定）(2)	点推定、区間推定
第11回	統計的推測（仮説検定）(1)	仮説検定の考え方、母数の検定、χ2検定、独立性の検定
第12回	統計的推測（仮説検定）(2)	仮説検定の考え方、母数の検定、χ2検定、独立性の検定
第13回	相関と回帰(1)	相関関係、回帰分析
第14回	相関と回帰(2)	相関関係、回帰分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
大内 俊二『データサイエンス指向の統計学』2021年、学術図書出版社、2200円。

【参考書】
金城俊哉『R統計解析パーフェクトマスター（R4完全対応）［統計＆機械学習第2版］』、2022年、3190円。

【成績評価の方法と基準】
授業内での章末問題の解答50％、小論文50％。

【学生の意見等からの気づき】
学部で統計学を履修していない学生も統計学の基礎を理解できるように授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞経済統計
＜研究テーマ＞産業連関表、物価指数。経済センサス、人口予測
＜主要研究業績＞『物価指数の測定論』、『アメリカ経済センサス研究』（共著）、『東京都の人口予測』（共著）

【Outline (in English)】
（Course outline）The aim of this course is to help students acquire statistical literacy.
（Learning Objectives） The goals of this course are to master statistics and apply them by using data.
（Learning activities outside of classroom）Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policies）Grading will be decided based on answering end-of-chapter questions in class.

ECN523C1 – 4（経済学 / Economics 500）

統計学ＤＢ

菅　幹雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Rを用いたデータサイエンスを学ぶ

【到達目標】
Rを用いて実際にデータ分析ができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストに従い実際にRを用いて分析する。学生は学習したデータ分析手法を応用した分析を毎週提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	データ分析の基礎	データの演算、固有値と特異値の分解、基本統計量、棒グラフ、円グラフ、ヒストグラム、折れ線グラフ、箱ひげ図、散布図
第2回	主成分分析	主成分分析の基礎、ケーススタディ
第3回	因子分析	因子分析の基礎、ケーススタディ
第4回	クラスター分析	階層的クラスター分析、非階層的クラスター分析、モデルに基づいたクラスター分析
第5回	線形回帰分析	単回帰分析、重回帰分析
第6回	非線形回帰分析(1)	ロジスティック回帰、多項式回帰
第7回	1非線形回帰分析(2)	一般化線形モデル、平滑化回帰と加法モデル
第8回	線形判別分析	判別分析の基礎、ケーススタディ
第9回	非線形判別分析	判別関数による判別分析、距離による判別分析、多数決による判別分析、ベイズ判別法
第10回	ツリーモデル	ツリーモデルの基礎、ケーススタディ
第11回	集団学習	バギング、ブースティング、ランダムフォレスト
第12回	時系列分析(1)	自己共分散と自己相関、スペクトル分析、ランダムウオークと単位根
第13回	時系列分析(2)	AR、ARMA、ARIMA
第14回	生存分析	ノンパラメトリックモデル、セミパラメトリックモデル、パラメトリックモデル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
金 明哲『Rによるデータサイエンス(第2版):データ解析の基礎から最新手法まで』森北出版、3,960円。

【参考書】
金城俊哉『R統計解析パーフェクトマスター（R4完全対応）[統計＆機械学習第2版]』、2022年、3190円。

【成績評価の方法と基準】
課題の提出により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
今年が初めての講義のため、未だ学生からの意見はない。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞経済統計
＜研究テーマ＞産業連関表、物価指数。経済センサス、人口予測
＜主要研究業績＞『物価指数の測定論』、『アメリカ経済センサス研究』（共著）、『東京都の人口予測』（共著）

【Outline (in English)】
（Course outline）The aim of this course is to help students acquire statistical literacy using R.
（Learning Objectives） The goals of this course are to master statistics and apply them by using data.
（Learning activities outside of classroom）Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policies）Grading will be decided based on reports.

ECN544C1 − 4（経済学 / Economics 500）

企業経済学ＤＢ

砂田　充

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、産業組織論（Industrial Organization）・企業経済学（Business Economics）・競争政策の経済学（Antitrust Economics）の基本・応用モデルを学習する。特に価格差別，カルテル，合併および垂直的取引の様々なモデルについて学習する。また，関連する実証的先行研究についても受講者と議論する予定である。授業形態については未定としているが，詳細は学習支援システムを通じて連絡する。

【到達目標】
産業組織論・企業経済学・競争政策の経済学の基本・応用モデルを自ら構築・解析できる能力および実証的産業組織論の学術論文を読解する能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
スライドと黒板を使った講義形式がメイン。学生による報告（輪読による報告を含む）を求める場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	オリエンテーション
第2回	寡占市場①	寡占市場の基本モデル（復習）
第3回	寡占市場②	製品差別化（復習）
第4回	寡占市場③	消費者の離散選択モデル/Logitモデル
第5回	需要分析①	回帰分析（復習）
第6回	需要分析②	需要関数の推定/操作変数法
第7回	価格差別①	価格差別の基礎/グループ別価格
第8回	価格差別②	バンドル
第9回	価格差別③	メニュー価格
第10回	カルテル①	カルテルの最適化行動と安定性/報復の脅威による協調の維持
第11回	カルテル②	カルテル規制/不当な取引制限
第12回	合併①	企業結合規制/水平的合併と効率性/水平的合併と社会的厚生
第13回	合併②	合併シミュレーション/合併の実証研究
第14回	総括	これまでの内容のおさらいと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は各講義前に講義資料を授業支援システムよりDLして予習（2時間程度），講義後には講義資料および自筆ノート等を使って復習（2時間程度）することが必要である。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
小田切宏之『新しい産業組織論：理論・実証・政策』（有斐閣，2001年），丸山雅祥『経営の経済学[第3版]』（有斐閣，2017年），Belleflamme, P. and M. Peitz Industrial Organization: Markets and Strategies, Cambridge Univ. Press, 2010，Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Shaefer Economics of Strategy, 6th edition, John Wiley & Sons, 2013，Motta, M. Competition Policy: Theory and Practice, Cambridge Univ.Press, 2004，Shy, O. Industrial Organization: Theory and Applications, MIT Press,1996，Tirole, J. The Theory of Industrial Organization, MIT Press, 1988他適宜紹介する予定。

【成績評価の方法と基準】
期末試験および課題（50～95%），平常点（50～5%），により評価をする。

【学生の意見等からの気づき】
学生が自らの研究テーマについて分析モデルを構築できるように指導を心掛けたい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
産業組織論・企業経済学・競争政策の経済学
＜研究テーマ＞
企業の経営戦略と公共政策の経済分析
＜主要研究業績＞
"Competition among Movie Theaters: An Empirical Investigation of the Toho-Subaru Antitrust Case," Journal of Cultural Economics, Vol. 36,Number 3, pp. 179-206, August 2012.
"Coverage Area Expansion, Customer Switching, and Household Profiles in the Japanese Broadband Access Market," Information Economics and Policy, Vol. 23, Issue 1, pp. 12-23, March 2011 (with Masato Noguchi,Hiroshi Ohashi, and Yosuke Okada).
"Measuring the Cost of Living Index, Output Growth, and Productivity Growth in the Retail Industry: An Application to Japan," Review of Income and Wealth, Vol. 56, Issue 4, pp. 667-692, December 2010.

【Outline (in English)】
This course is graduate-level introduction to industrial organization and managerial economics.
The goal of this course is that students understand various models in the fields and acquire modeling skills for their own research interests. This course will focus on, but not limited to, the topics as follows: pricing strategy, cartel, horizontal merger, demand analysis, and so on.
Students will be expected to thoroughly prepare each class meeting using course materials which provided through Hoppii (about two hours required), and, if required, to complete a homework assignment through Hoppii (about two hours required).
Students are also expected to have solid comprehension of undergraduate microeconomics.
The grade will be based on the final exam & report (50-95%) and the homework (5-50%).

ECN562C1－3（経済学 / Economics 500）

国際金融論ＤＡ

ブー　トウン　カイ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の世界では、対外取引は各国の経済にとってますます重要になっている。対外取引は多くの場合異なった通貨を媒介として行われる。「国際金融論DA/DB」の講義ではこうした一国経済の対外取引、特に通貨がかかわっているその金融的側面について学ぶ。春学期の講義では、経済全体の中の対外取引の位置づけ、対外取引の意義やその内容と統計データ、為替市場の仕組み・取引内容、為替レートと金利や物価との関係、短期と長期における為替レート決定の理論および理論の実証的検証方法などについて学ぶ。博士後期課程では専門誌掲載の論文を通じて国際金融論の理論体系や実証研究手法の取得・応用に重点を置く。

【到達目標】
対外取引の意義や内容、その統計データの活用、為替市場の仕組みと為替取引、為替レートと金利や物価との関係、為替レート決定などを理解でき、さらにこれらの内容に関する現実の様々な問題に関心を持ち、経済学の手法を用いて理論的・実証的に分析できることを目標とする。博士後期課程の受講者には、期末課題として、講義で学んだことを活用し、国際金融論のテーマを設定し研究を行い、その研究成果をまとめるレポートの提出を求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業で扱うテキストの各章を受講者間で担当を決め、毎回の授業で最初に受講者が事前に準備した各章の内容を発表し、最後に教員が総括を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際金融論の紹介
2	国際金融の基本的視点の設定	金融取引の意義、国際的視点
3	統計でマクロ経済をみる	国民所得勘定、資金循環勘定
4	統計で対外取引をみる	国際収支表
5	貨幣	貨幣、貨幣需要、貨幣供給
6	貨幣と物価	貨幣市場の均衡、短期と長期における貨幣と物価との関係
7	貨幣と物価に関する理論と実証研究	貨幣需要関数の理論と推定、貨幣と物価との関係の実証分析
8	為替レート	名目為替レート、実質為替レート、実効為替レート、データを用いる実効為替レートの算出
9	外国為替市場	外国為替市場、直物・先物レート、通貨デリバティブ
10	金利と為替レート	金利裁定、カバー付金利平価、カバーなし金利平価、均衡為替レート
11	為替レート決定の理論（1）	貨幣市場と外国為替市場、リスク・プレミアム
12	金利平価の検証	金利平価の実証研究文献、データとパソコンを用いる演習
13	物価と為替レート、及び為替レート決定の理論（2）	生産物裁定と購買力平価、マネタリーモデル
14	購買力平価からの乖離	データでみる実質為替レートの長期的トレンド、労働生産性とバラッサ・サミュエルソン効果

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自で毎回の授業までにその前回で学んだ内容を2時間程度で復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
1.『コア・テキスト国際金融論』第2版、藤井英次、新世社 2014年.
2.『MBAのための国際金融』小川 英治・川崎 健太郎、有斐閣 2007年.

【参考書】
1.“International Finance: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 第11版 (2018/1/25) (英語) ペーパーバック.
2.“International Finance and Open-Economy Macroeconomics,”by Giancarlo Gandolfo, Springer; 2nd Edition (2016/7/12)（ハードカバー）.
3.『新しい国際金融論 – 理論・歴史・現実』勝 悦子、有斐閣 2011年.

【成績評価の方法と基準】
以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。
小テスト・宿題：25%、中間レポート：25％、学期末レポート：50％
（博士後期課程の受講者には、期末に自らテーマを設定し研究を行い、その研究成果を提出することを求められる。）

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度を見ながら若干内容を変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】
コンピュータによるデータ分析の演習があるので、ノートパソコンをもつことが望ましい。

【その他の重要事項】
教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などはしないこと。 授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際マクロ経済学、国際金融論
＜研究テーマ＞
開放経済の理論と実証、経済政策の効果、東アジアの為替制度、アジア諸国のマクロ経済問題
＜主要研究業績＞
(1) "Physical Capital Accumulation in Asia 12: Past Trends and Future Projections," Japan and the World Economy, Vol.24, Issue 2, pp.38-149, 2012 (with Etsuro Shioji).
(2) "Oil Price Fluctuations and the Small Open Economies of Southeast Asia: An Analysis Using Vector Autoregression with Block Exogeneity," Journal of Asian Economics 54 (2018),1– 21 (with Hayato Nakata).
(3) "Remittances, the Dutch Disease, and Premature Deindustrialization in the Philippines," 法政大学経済学部学会, 経済志林 90(1-2), 147-164, 2022年10月.

【Outline (in English)】
International transactions have become increasingly important to every country in the world today. These are mainly transactions in goods, services and financial assets that require currencies as the medium of exchange. In this course we will learn about these international transactions, with a special focus on financial assets and currencies. In the PhD course we put more weight on understanding and applying basic theories and empirical methods in international finance.
To deepen understanding, the students are expected to read the class materials (lecture notes, textbooks, and related journal papers) after each lecture. Also, homework is assigned frequently.
Grading is based on the students’ homework and (midterm & final) report performance.

ECN562C1－4（経済学 / Economics 500）

国際金融論ＤＢ

ブー　トウン　カイ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の世界では、対外取引は各国の経済にとってますます重要になっている。対外取引は多くの場合異なった通貨を媒介として行われる。「国際金融論DA/DB」の講義ではこうした一国経済の対外取引、特に通貨がかかわっているその金融的側面について学ぶ。秋学期の講義では、春学期の講義内容を踏まえ、為替レート決定の諸理論およびその実証的検証の方法、為替市場の効率性、為替レートと実物経済財との関係、開放経済を分析する諸モデル、そして国際金融論の発展・応用的なトピック（為替介入、為替制度、通貨危機、国際金融市場の役割、国際金融協力）などについて学ぶ。博士後期課程では専門誌掲載の論 文を通じて国際金融論の理論体系や実証研究手法の取得・応用に重点を置く。

【到達目標】
為替レート決定の諸理論の内容や相違点、為替市場の特徴や役割、為替レートと実物経済財との関係、開放経済におけるマクロ経済政策の仕組みや効果などを理解でき、さらに為替介入や為替制度選択、共通通貨としてのユーロ、発展途上国の国際金融、世界的な経常収支不均衡といった国際金融分野の現実における様々な問題に関心を持ち、経済学の手法を用いて理論的・実証的に分析できることを目標とする。博士後期課程の受講者には、期末課題として、講義で学んだことを活用し、国際金融論のテーマを設定し研究を行い、その研究成果をまとめるレポートの提出を求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業で扱うテキストの各章を受講者間で担当を決め、毎回の授業で最初に受講者が事前に準備した各章の内容を発表し、最後に教員が総括を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	為替レート決定の理論（3）	ポートフォリオ・アプローチとその実証分析
2	為替レート決定の理論（4）	ニュースの理論とその実証分析
3	外国為替市場の効率性	効率的市場仮説、先物相場と直物相場、先物相場プレミアムに関する実証分析
4	為替レートと実体経済（1）	総需要と総供給、内需と外需、生産物市場の短期均衡
5	為替レートと実体経済（2）	為替レートと経常収支、弾力性アプローチとその実証分析
6	マクロ経済分析の理論的枠組み	IS-LMモデルの復習：名目価格硬直性、短期と長期、短期のマクロ経済理論としてのIS-LMモデル、総生産の決定、外生ショックと景気変動、マクロ経済政策の効果
7	開放経済分析の理論的枠組み（1）	マンデル・フレミングモデルの構築、それを用いる分析：変動相場制下の金融・財政政策の効果
8	開放経済分析の理論的枠組み（2）	マンデル・フレミングモデルを用いる分析：固定相場制下の金融・財政・為替政策の効果
9	マンデル・フレミングモデルから動学的開放マクロ経済学へ	動学的開放マクロ経済学の理論と実証
10	為替介入	為替介入の定義、実際、仕組み、理論・実証的効果、固定相場制維持介入と通貨危機
11	為替制度の選択	開放経済におけるトリレンマ、世界各国の為替制度の現状、為替制度選択問題と「両極の解」の議論
12	通貨同盟と最適通貨圏	EUとユーロの概要、最適通貨圏の理論と実証分析
13	発展途上国の国際金融	発展途上国の国際金融の現実の諸問題と政策
14	東アジアの経済統合と地域的通貨協力	東アジアにおける貿易や投資の面での経済統合やアジア通貨危機、そして地域的通貨協力について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自で毎回の授業までにその前回で学んだ内容を復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
1.『コア・テキスト国際金融論』第2版、藤井英次、新世社2014 年.
2.『MBA のための国際金融』小川英治・川崎健太郎、有斐閣2007 年.

【参考書】
1.“International Economics: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 第12版 (2022年) (英語) ペーパーバック.
2.“International Finance and Open-Economy Macroeconomics,”by Giancarlo Gandolfo, Springer; 2nd Edition (2016年)（ハードカバー）.
3.『新しい国際金融論– 理論・歴史・現実』勝悦子、有斐閣 2011 年.

【成績評価の方法と基準】
以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。
小テスト・宿題： 25%、中間レポート： 25 ％、学期末レポート：50 ％
（博士後期課程の受講者には、期末に自らテーマを設定し研究を行い、その研究成果を提出することを求められる。）

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度を見ながら若干内容を変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】
コンピュータによるデータ分析の演習があるので、ノートパソコンをもつことが望ましい。

【その他の重要事項】
教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などはしないこと。授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際マクロ経済学、国際金融論
＜研究テーマ＞
開放経済の理論と実証、経済政策の効果、東アジアの為替制度、アジア諸国のマクロ経済問題
＜主要研究業績＞
(1) "Physical Capital Accumulation in Asia 12: Past Trends and Future Projections," Japan and the World Economy, Vol.24, Issue 2, pp.38-149, 2012 (with Etsuro Shioji).
(2) "Oil Price Fluctuations and the Small Open Economies of Southeast Asia: An Analysis Using Vector Autoregression with Block Exogeneity," Journal of Asian Economics 54 (2018),1– 21 (with Hayato Nakata).
(3) "Remittances, the Dutch Disease, and Premature Deindustrialization in the Philippines," 法政大学経済学部学会, 経済志林 90(1-2), 147-164, 2022年10月.

【Outline (in English)】
International transactions have become increasingly important to every country in the world today. These are mainly transactions in goods, services and financial assets that require currencies as the medium of exchange. In this course we will learn about these international transactions, with a special focus on financial assets and currencies. In the PhD course we put more weight on understanding and applying basic theories and empirical methods in international finance.
To deepen understanding, the students are expected to read the class materials (lecture notes, textbooks, and related journal papers) after each lecture. Also, homework is assigned frequently.
Grading is based on the students' homework and (midterm & final) report performance.

ECN552C1－3（経済学 / Economics 500）

環境政策論ＤＡ

西澤　栄一郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか)】
環境政策の経済分析－政策手法を中心に－

【到達目標】
①環境問題に関わる政策手法を理解する。
②環境政策の経済学的分析手法を身につけ、実証分析が行えるようになる。
③他国・地域の環境政策の手法について調べ、日本と対比する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
環境政策の経済分析を主たるテーマとする。環境問題の経済的分析手法を解説し、具体的な政策手法について分析する。
講義と輪読を併用するが、具体的な進め方については受講者と相談して決める。期末にはリポート提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション・日本の環境問題の史的変遷	オリエンテーション、江戸時代から20世紀末までの歴史
第2回	地球温暖化対策	気候変動枠組み条約、京都議定書、パリ協定
第3回	環境問題の経済分析	余剰分析、厚生経済学の基本定理、市場の失敗、公共財、外部性
第4回	環境政策の手段①	政策手段の分類、直接規制、環境税
第5回	環境政策の手段②	排出取引、環境補助金、デポジット制度
第6回	生物多様性の保全	生態系サービス、生物多様性条約
第7回	環境政策の実証研究	実証論文の講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
下記の参考書や各回に紹介する参考文献を読むこと。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書)】
テキストは指定しない。配付資料により講義を行う。

【参考書】
①ハンレー・ショグレン・ホワイト(2021)『環境経済学入門』昭和堂
②大沼あゆみ・柘植隆宏(2021)『環境経済学の第一歩』有斐閣
③栗山浩一・馬奈木俊介(2020)『環境経済学をつかむ 第4版』有斐閣
④有村俊秀・片山東・松本茂編(2017)『環境経済学のフロンティア』日本評論社

【成績評価の方法と基準】
輪読およびリポートとその内容に関する発表（50％）、平常点と授業への参加（50％）

【学生の意見等からの気づき】
アンケートを実施していないため、該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境政策論、農業経済学
＜研究テーマ＞欧米の環境政策・農業環境問題
＜主要研究業績＞
①「農業環境政策のポリティカル・サイエンス：環境政策統合からのアプローチ」『農業経済研究』第94巻2号，pp.106-119，2022年.
②『環境政策史－なぜいま歴史から問うのか』（共編著）ミネルヴァ書房，2017年.
③『農業環境政策の経済分析』（編著）日本評論社，2014年.

【Outline (in English)】
（Course outline）This course deals with economic analyses of environmental policies.
（Learning Objectives）The goals of this course are to acquire methods of economic analysis on environmental issues and to comprehend environmental conservation measures.
（Learning activities outside of classroom）Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）Grading will be decided based on the term-end report (50%) and in-class contribution including presentation (50%).

ECN552C1 – 4（経済学 / Economics 500）

環境政策論ＤＢ

西澤　栄一郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然資源管理政策―日本の農林水産政策の現状と課題―

【到達目標】
①農林水産業に関わる政策手法を理解する。
②農林水産業の経済学的分析手法を身につけ、実証分析が行えるようにする。
③他国・地域の農林水産政策について調べ、日本と対比する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
日本の農林水産業を主たる分析対象とする。農林水産行政を概観し、具体的な政策手法について解説する。
講義と輪読を併用するが、具体的な進め方については受講者と相談して決める。期末にはリポート提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	農林水産政策の展開過程
第2回	食料・農業政策の手法	価格政策と所得政策
第3回	公共財提供者としての農業	生態系サービス、農業環境政策
第4回	海外の農業政策	EUとアメリカ
第5回	林業	森林資源の管理
第6回	水産業	水産資源の管理
第7回	農林水産政策の実証研究	実証論文の講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
下記の参考書や各回に紹介する参考文献を読む。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しない。配付資料により講義を行う。

【参考書】
①荏開津典生・鈴木宣弘(2020)『農業経済学 第5版』岩波書店
②バリー・C・フィールド(2016)『入門自然資源経済学』日本評論社

【成績評価の方法と基準】
輪読およびリポートとその内容に関する発表（50 %）、平常点と授業への参加（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
アンケートを実施していないため、該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境政策論、農業経済学
＜研究テーマ＞欧米の環境政策・農業環境問題
＜主要研究業績＞
①「農業環境政策のポリティカル・サイエンス：環境政策統合からのアプローチ」『農業経済研究』第94巻2号，pp.106-119，2022年.
②『環境政策史－なぜいま歴史から問うのか』（共編著）ミネルヴァ書房，2017年.
③『農業環境政策の経済分析』（編著）日本評論社，2014年.

【Outline (in English)】
（Course outline）This course deals with management policies for natural resources, specifically in the field of agriculture, forestry, and fisheries.
（Learning Objectives）The goals of this course are to acquire methods of economic analysis on natural resource issues and to comprehend agriculture, forestry, and fisheries in Japan.
（Learning activities outside of classroom）Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）Grading will be decided based on the term-end report (50%) and in-class contribution including presentation (50%).

ECN564C1－4（経済学 / Economics 500）

経済地理学ＤＢ

近藤　章夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済地理学の主要テーマに関する重要論文および展望論文の読解を通して、分析手法やアプローチについて議論する。

【到達目標】
経済地理学の最先端での研究を理解し、国際的に名声の高い学術誌に掲載された論文の分析手法を理解できるようになることと、研究領域のフロンティアとアプローチを拡張していく能力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
輪読文献リストを初回に配布する。また関連文献については適宜紹介する。参加者には輪読文献の報告を求める。毎回の出席と積極的な議論への参加を重視する。なお、履修者の関心および講義の進捗状況によっては、輪読文献を柔軟に変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	輪読文献の概要と講義の進め方
第2回	経済学と地理・空間（1）	主要論文の読解
第3回	経済学と地理・空間（2）	主要論文の読解
第4回	経済学と地理・空間（3）	主要論文の読解
第5回	都市と集積（1）	主要論文の読解
第6回	都市と集積（2）	主要論文の読解
第7回	都市と集積（3）	主要論文の読解
第8回	イノベーションとネットワーク（1）	主要論文の読解
第9回	イノベーションとネットワーク（2）	主要論文の読解
第10回	イノベーションとネットワーク（3）	主要論文の読解
第11回	空間経済の理論と実証（1）	主要論文の読解
第12回	空間経済の理論と実証（2）	主要論文の読解
第13回	空間経済の理論と実証（3）	主要論文の読解
第14回	経済地理学のフロンティアとまとめ	展望論文を通じた整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。テキストおよび参考文献の読解および事後の課題への取り組みを求める。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
Brakman, S., et al.（2019）『An Introduction to Geographical and Urban Economics: A Spiky World（3rd edition）』Cambridge University Press
Clark, G. L., et al.（2018）『The New Oxford Handbook of Economic Geography』Oxford University Press
Combes, P. P., et al.（2008）『Economic Geography: The Integration of Regions and Nations』Princeton University Press
Duranton, G. et al.（2015）『Handbook of Regional and Urban Economics Vol.5』North Holland
松原宏（2006）『経済地理学－立地・地域・都市の理論－』東京大学出版会
佐藤泰裕ほか（2011）『空間経済学』有斐閣
その他の参考文献は適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加が評価の中心となる。
平常点（出席および輪読文献の紹介等）80%、期末レポート20%

【学生の意見等からの気づき】
受講生の関心と理解度に最大限配慮して柔軟に授業計画を進める。

【学生が準備すべき機器他】
授業内容のお知らせ、資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
授業は対面形式を原則とするが、履修者と相談のうえ、オンライン形式で実施することがある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞経済地理学、都市・地域経済学、空間情報科学
＜主要研究業績＞
①共著（2015）『都市空間と産業集積の経済地理分析』日本評論社
②共著（2012）『産業立地と地域経済』放送大学教育振興会
③単著（2007）『立地戦略と空間的分業』古今書院

【Outline (in English)】
Course outline and objectives:
Through the reading of key and prospective papers on major topics in economic geography, we will discuss the achievements of their research methods and approaches.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy:
Final grade will be calculated according to the following process Term-end report(20%), and in-class contribution(80%).

ECN556C1－3（経済学 / Economics 500）

社会保障論ＤＡ

小黒　一正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
急速に進む少子高齢化や人口減少に伴い、年金や医療などの社会保障制度は様々な課題に直面している。このうち、本講義（社会保障論DA）では、年金制度に関連する主要論点をテーマに取り上げる。なお、年金制度・医療介護制度は互いに関連する部分があり、医療制度に関する主要論点は社会保障論DBで扱うが、この関係も若干補足的に説明する。

【到達目標】
年金制度に関連する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。博士後期課程の研究に資するよう、より高い水準の考察や分析ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
（1）前半は、年金制度に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
（2）後半は、医療制度に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
（3）必要に応じて、参加者に、参考文献の報告を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	年金制度（1）	ガイダンス
2	年金制度（2）	年金制度間の財政調整
3	年金制度（3）	財源調達の仕組みと問題点
4	年金制度（4）	給付水準と留意点
5	年金制度（5）	人口動態と賦課方式、所得代替率の定義と留意点、世代間格差
6	年金制度（6）	2004年改正と課題
7	年金制度（7）	雇用形態の多様化と公的年金
8	年金制度（8）	厚生年金と共済年金の一元化
9	年金制度（9）	スウェーデンの年金制度
10	年金制度（10）	カナダの年金制度
11	年金制度（11）	イギリスの年金制度
12	年金制度（12）	社会保障・税の一体改革、2016年改正
13	年金制度（13）	2019年財政検証
14	年金制度（14）	年金改革の方向性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考文献（テキストや主要論文）を事前に読んでおくことが望ましい。また報告にあたっては、当該文献のみでなく、関連文献にも目を通しておくこと。準備・復習時間は、各2時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
参加者と相談して決めるが、現在のところ、以下を予定している。
・西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社, 2008
・吉原健二・畑満『日本公的年金制度史: 戦後七〇年・皆年金半世紀』中央法規出版, 2016

【参考書】
①Persson and Tabellini, Political Economics, MIT Press, 2002
②西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社, 2008
③吉原健二・畑満『日本公的年金制度史: 戦後七〇年・皆年金半世紀』中央法規出版, 2016
④小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社, 2020

【成績評価の方法と基準】
授業内での貢献（70％）＋レポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
基本は対面だが、感染が再拡大した場合、Zoomを利用したオンラインで授業を行うことも検討する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
財政学、公共経済学
＜研究テーマ＞
人口動態と政治経済の相互作用や世代間問題の分析
＜主要研究業績＞
①)Child Benefit and Fiscal Burden in the Endogenous Fertility Setting, Economic Modelling, 44, 252-265, 2015
② Impact of Deflation on Real Interest rate of Government Bonds, The Economic Review, 64(2), 147-159, 2013
③ Demographic Change, Intergenerational Altruism, and Fiscal Policy - A Political Economy Approach -, Studies in Applied Economics, 6, 1-15, 2013
④ Ability transmission, endogenous fertility, and educational subsidy, Applied Economics, 45(17), 2469-2479, 2012

【Outline (in English)】
The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of Japanese social security system, by using the approaches of public economics. This will also help you to predict the future direction of Japanese social security system at a much deeper level. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your overall grade in the class will be decided based on the following (Short reports : 30%、in class contribution: 70%).

ECN556C1－4（経済学 / Economics 500）

社会保障論ＤＢ

小黒　一正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
急速に進む少子高齢化や人口減少に伴い、年金や医療などの社会保障制度は様々な課題に直面している。このうち、本講義（社会保障論DB）では、医療制度に関連する主要論点をテーマに取り上げる。なお、年金制度・医療介護制度は互いに関連する部分があり、年金制度に関する主要論点は社会保障論DAで扱うが、この関係も若干補足的に説明する。

【到達目標】
医療制度に関連する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。博士後期課程の研究に資するよう、より高い水準の考察や分析ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
（１）前半は、年金制度に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
（２）後半は、医療制度に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
（３）必要に応じて、参加者に、参考文献の報告を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	医療制度（１）	ガイダンス
2	医療制度（２）	日本の医療制度の沿革、医療制度の確立・拡張期
3	医療制度（３）	医療制度の改革期
4	医療制度（４）	医療制度・政策の国際比較①（ドイツの医療制度改革）
5	医療制度（５）	医療制度・政策の国際比較②（アメリカの医療制度改革）
6	医療制度（６）	医療制度・政策の国際比較③（スウェーデンの医療制度改革）
7	医療制度（７）	医療保険制度の基本問題
8	医療制度（８）	各医療保険制度の構造と政策課題
9	医療制度（９）	医療供給制度の構造と改革の方向性
10	医療制度（10）	医療供給の改革手法
11	医療制度（11）	薬価制度・高額薬剤の現状と課題
12	医療制度（12）	医薬品の現状と改題
13	医療制度（13）	薬価制度改革と今後の方向性
14	医療制度（14）	年金改革の方向性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考文献（テキストや主要論文）を事前に読んでおくことが望ましい。また報告にあたっては、当該文献のみでなく、関連文献にも目を通しておくこと。準備・復習時間は、各2時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
参加者と相談して決めるが、現在のところ、以下を予定している。
・島崎謙治『日本の医療: 制度と政策』東京大学出版会, 2020
・小黒一正・菅原琢磨編『薬価の経済学』日本経済新聞出版社, 2018

【参考書】
①Persson and Tabellini, Political Economics, MIT Press, 2002
②島崎謙治『日本の医療: 制度と政策』東京大学出版会, 2020
③小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社, 2020
④小黒一正・菅原琢磨編『薬価の経済学』日本経済新聞出版社, 2018

【成績評価の方法と基準】
授業内での貢献（70％）＋レポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
基本は対面だが、感染が再拡大した場合、Zoomを利用したオンラインで授業を行うことも検討する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
財政学、公共経済学
＜研究テーマ＞
人口動態と政治経済の相互作用や世代間問題の分析
＜主要研究業績＞
①)Child Benefit and Fiscal Burden in the Endogenous Fertility Setting, Economic Modelling, 44, 252-265, 2015
② Impact of Deflation on Real Interest rate of Government Bonds, The Economic Review, 64(2), 147-159, 2013
③ Demographic Change, Intergenerational Altruism, and Fiscal Policy - A Political Economy Approach -, Studies in Applied Economics, 6, 1-15, 2013
④ Ability transmission, endogenous fertility, and educational subsidy, Applied Economics, 45(17), 2469-2479, 2012

【Outline (in English)】
The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of Japanese social security system, by using the approaches of public economics. This will also help you to predict the future direction of Japanese social security system at a much deeper level. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your overall grade in the class will be decided based on the following (Short reports : 30%、in class contribution: 70%).

ECN574C1 – 3（経済学 / Economics 500）

労働経済学ＤＡ

酒井　正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済理論を応用することで，労働市場における諸現象を解釈すると同時に，労働市場に関する統計資料を読み解く力を養うと同時に，労働経済学における高度な分析をおこなう下地とします．

【到達目標】
学生は，この講義を通して，基本的な労働供給・労働需要・市場均衡の理論を理解します．更に，人的資本理論や補償賃金格差といった理論についても学習し，働き方を巡る様々な現象について，何が解っており何が解っていないのかを把握したうえで，この分野の発展に貢献しうる研究をおこなうための実証上の作業仮説を立てられるようになることを最終目標とします．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は，対面授業形式でおこないます．
中間課題等については，基本的に，授業内で講評します．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	労働経済学とは
第2回	労働市場の概観	統計で見る日本の労働市場
第3回	労働供給行動（1）	静学的労働供給モデル
第4回	労働供給行動（2）	静学的労働供給モデルの応用
第5回	労働需要行動（1）	短期・長期の労働需要
第6回	労働需要行動（2）	調整費用モデル等
第7回	市場均衡	競争均衡，買手独占
第8回	実証分析の方法（1）	回帰分析
第9回	実証分析の方法（2）	セレクション・バイアスの概念とその対処
第10回	補償賃金格差	ヘドニック・モデルとその応用（「同一労働同一賃金」等）
第11回	人的資本投資（1）	教育投資モデル，シグナリング・モデル
第12回	人的資本投資（2）	一般的訓練と企業特殊的訓練
第13回	賃金格差・所得格差	所得格差の概観，グループ間賃金格差
第14回	地域間労働移動	ロイ・モデル等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は，講義で使用した資料をよく復習することが求められます．また，授業内で示された文献にも，極力，目を通すことが望まれます．本講義の準備・復習に必要な時間は，4 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし．

【参考書】
Borjas, G『Labor Economics 8th Edition』（McGraw Hill Higher Education, 2019 年）
川口大司『労働経済学理論と実証をつなぐ』（有斐閣，2017 年）

【成績評価の方法と基準】
中間課題（50%）と期末レポート（50%）によって評価する予定です．いずれについても，研究者の養成という目標に沿って評価をおこないます．

【学生の意見等からの気づき】
学生が関心のあるトピックを把握するように努めたいと思います．

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 労働経済学，社会保障論
＜研究テーマ＞ 就業と社会保険
＜主要研究業績＞
『日本のセーフティーネット格差労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会，2020 年）
"Education and Marriage Decisions of Japanese Women and the Role of the Equal Employment Opportunity Act"（共著）Journal of Human Capital 13(2) pp. 260-292, 2019.

【Outline (in English)】
Through this course, students will understand the basic theories of labor supply, labor demand, and market equilibrium. The final goal of this course is to enable students to conduct advanced empirical analyses in labor economics.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated based on mid-term report (50%) and term-end report (50%).

ECN574C1 – 4（経済学 / Economics 500）

労働経済学ＤＢ

酒井　正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
労働経済学Aで学んだことを踏まえ，労働市場に関するより具体的なトピックを取り上げて解説します．特に，労働政策や社会保障等の各種施策が私たちの働き方にもたらす影響について，データに基づいた検討をおこないます．（取り上げるトピックの例．「介護離職」，「長時間労働」，「待機児童問題」等）
また，雇用保険等の労働市場のセーフティーネットに関する議論にも時間を割きます．

【到達目標】
学生が，働き方を巡る「論点」を知り，それを経済学的に考えることを通じて，労働問題や公共政策の議論に貢献しうる高度な実証研究をおこなえるようになることを最終目標とします．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は，対面授業形式でおこないます．
中間課題等については，基本的に，授業内で講評します．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	労働経済学及び実証分析の基本概念の復習
第2回	人事の経済学（1）	固定給と出来高給
第3回	人事の経済学（2）	相対評価，後払い賃金
第4回	労働市場における差別	差別の経済理論，男女間賃金格差
第5回	失業（1）	日本の失業の概観
第6回	失業（2）	失業を説明する理論
第7回	失業保険・労災保険	失業保険に関する実証分析，労働災害の現状
第8回	最低賃金	最低賃金の影響に関する実証分析
第9回	就業形態の多様化	非正規雇用の増加要因，仕事の二極化
第10回	若年就業	若年就業の現状と「烙印効果」
第11回	高齢者就業	引退行動に影響を与える要因，介護離職問題
第12回	労働時間	労働時間の実態とワークライフバランス
第13回	両立支援制度	女性の就業と保育サービス・育児休業
第14回	社会保険料事業主負担の帰着問題	事業主負担の帰着に関する理論と実証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は，講義資料をよく復習する必要があります．また，指示された文献（学術論文等）についても目を通すことが望まれます．本講義の準備・復習に必要な学習時間は，4 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし．

【参考書】
酒井正『日本のセーフティーネット格差労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会，2020 年）
Boeri, T., and J. van Ours (2021) The Economics of Imperfect Labor Markets 3rd Edition, Princeton Univ Pr

【成績評価の方法と基準】
中間課題（50%）と期末レポート（50%）によって評価する予定です．いずれについても，研究者の養成という目標に沿って評価をおこないます．

【学生の意見等からの気づき】
論文等の執筆の役に立つように，実証分析で何が解っており，何が解っていないかを明らかにすることを心がけたいと思います．

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 労働経済学，社会保障論
＜研究テーマ＞ 就業と社会保険
＜主要研究業績＞
"Education and Marriage Decisions of Japanese Women and the Role of the Equal Employment Opportunity Act"（共著） Journal of Human Capital 13(2), pp. 260-292, 2019.
"Are Elderly Workers More Likely to Die in Occupational Accidents? Evidence from Both Industry-aggregated Data and Administrative Individual-level Data in Japan"（共著） Japan and The World Economy 48, pp. 79-89, 2018.

【Outline (in English)】
Based on what students have learned in Labor Economics A, more specific topics on the labor market will be discussed. The final goal of this course is to enable students to conduct advanced empirical research that can contribute to discussions of labor issues and public policy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated based on mid-term report (50%) and term-end report (50%).

ECN573C1－2（経済学 / Economics 500）

応用計量経済学ＤＢ

明城　聡

備考（履修条件等）：（2021年度以降入学者用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では経済学分野の実証分析で用いられているミクロ計量手法についてトピックを選んで解説する。近年の実証分析で多く利用されている構造推定アプローチについて焦点を当てた議論をする。特に企業の生産性の推定方法、消費者行動の分析方法を解説するとともに政策評価に必要な技術を習得することを目標とする。

【到達目標】
消費者や企業のミクロデータを利用して実証分析を行う際に利用可能な構造推定の手法を学習する。特に生産関数の推定（内生問題への対応、規模の経済および学習効果の推定）、同質財の需要と価格付け、差別化された財の需要と価格付け（垂直的差別化モデル、離散選択モデル）、および動学的意思決定モデルを利用した投資行動などのトピックを扱う。博士後期課程の学生は理論モデルを学ぶだけでなく、それを論文執筆に生かせるような計量分析能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義では実証分析を行う際の問題点とそれを克服するための分析手法について解説する。また統計パッケージRによる演習を行って理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業についての説明
第2回	企業の生産性の推定(1)	・生産関数の推定 ・内生性の問題
第3回	企業の生産性の推定(2)	・パネルデータの利用 ・誤差項の系列相関
第4回	企業の生産性の推定(3)	・投資ショックによる内生性の識別
第5回	学習効果と規模の経済	・費用関数の推定 ・学習効果と規模の経済の識別
第6回	演習(1)	・情報処理室にて演習
第7回	同質財市場	・コンダクトパラメータの識別問題 ・小麦輸送市場の分析
第8回	差別化された財市場(1)	・垂直的差別化モデルによる自動車市場の分析
第9回	差別化された財市場(2)	・離散選択モデル(1)
第10回	差別化された財市場(3)	・離散選択モデル(2)
第11回	演習(2)	・情報処理室にて演習
第12回	動学モデル(1)	・動学モデルについて ・状態遷移とマルコフ完全均衡 ・価値関数とベルマン方程式
第13回	動学モデル(2)	・Nested Fixed Pointアプローチと Two Step法 ・離散選択モデルによる動学推定
第14回	動学モデル(3)	・シミュレーションによる価値関数の推定 ・米国生コンクリート市場の分析 ・米国自動車市場の分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業担当者が作成した講義資料を授業で配布する。

【参考書】
【産業組織論】
(1) D. Carlton and J. Perloff, Modern Industrial Organization, Harper-Collins, 2005.
(2) R. Schmalensee and R. Willig, eds., Handbook of Industrial Organization vol.1, North-Holland, 1989.
(3) M. Armstrong and R. H. Porter ed., Handbook of Industrial Organization vol.3, North-Holland, 2007.
(4) J. Tirole, the Theory of Industrial Organization, MIT, 1998.
【ミクロ経済学】
(1) Hal R. Varian, Microeconomic Analysis, 3rd ed., Norton, 1992
(2) 奥野正寛『ミクロ経済学』、東大出版会、2008年
【計量経済学】
(1) J. M. Wooldridge, Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data, MIT, 2002.
(2) 浅野皙、中村二郎『計量経済学・第二版』、有斐閣、2009年
・K. E. Train, Discrete Choice Methods with Simulation, 2nd ed., Cambridge, 2009.
(3) A. C. Cameron and P. K. Trivedi, Microeconometrics Using Stata, Stata Press, 2009.

【成績評価の方法と基準】
課題レポートで評価する(100%)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
実証産業組織論、応用統計学
＜研究テーマ＞
構造推定を用いた市場分析
＜主要研究業績＞
1.　On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available, International Economic Review, Vol.53, no.3, pp.887-937, 2012.
2.　Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: The Case of Solar Photovoltaic Systems in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, vol.48, pp.55-67, 2018.

【Outline (in English)】
This course provides advanced econometric tools to analyze economic micro data. Especially, structural estimation approaches used in recent empirical industrial economics are covered.
Students also learn these estimation techniques and programming algorithms applied to the firm-level and product-level data analysis using R.
Preparation and review: 2 hours including homework assignments.
Grading: term report 100%

ECN703C1-1（経済学 / Economics 700）

経済学演習ＶＡ

池上　宗信

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
課程博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させる。

【到達目標】
博士論文を構成する少なくとも3本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、博士論文を完成させる。博士論文の研究から、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめる
第2回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第3回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第4回	研究報告③	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第5回	研究報告④	博士論文を構成する研究成果を報告
第6回	研究報告⑤	博士論文を構成する研究成果を報告
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第12回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第13回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討
第14回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
開発ミクロ経済学
＜研究テーマ＞
家計の異時点間の意思決定と貧困動学
東アフリカ乾燥地におけるインデックス型家畜保険
＜主要研究業績＞
“Can Insurance Alter Poverty Dynamics and Reduce the Cost of Social Protection in Developing Countries?” Journal of Risk and Insurance, 88(2), pp. 293-324. 2021.
“Does Index Insurance Crowd In or Crowd Out Informal Risk Sharing? Evidence from Rural Ethiopia.” American Journal of Agricultural Economics, 101(3), pp. 672-691. 2019.
“Poverty Traps and the Social Protection Paradox” in C. B. Barrett, M. R. Carter and J.-P. Chavas eds. The Economics of Poverty Traps, chapter 6, pp.223-256. University of Chicago Press. 2019.

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course participants will complete his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.
（Learning Objectives）
Participants will complete at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1-2（経済学 / Economics 700）

経済学演習ＶＢ

池上　宗信

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させ提出する。博士論文提出後は、提出した博士論文の改善を行う。

【到達目標】
博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士論文を完成させ、提出後は、審査委員会からの助言を受けて、論文を改善する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また、指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	研究報告③	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第12回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第13回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基く再検討
第14回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
開発ミクロ経済学
＜研究テーマ＞
家計の異時点間の意思決定と貧困動学
東アフリカ乾燥地におけるインデックス型家畜保険
＜主要研究業績＞
“Can Insurance Alter Poverty Dynamics and Reduce the Cost of Social Protection in Developing Countries?” Journal of Risk and Insurance, 88(2), pp. 293-324. 2021.
“Does Index Insurance Crowd In or Crowd Out Informal Risk Sharing? Evidence from Rural Ethiopia.” American Journal of Agricultural Economics, 101(3), pp. 672-691. 2019.
“Poverty Traps and the Social Protection Paradox” in C. B. Barrett, M. R. Carter and J.-P. Chavas eds. The Economics of Poverty Traps, chapter 6, pp.223-256. University of Chicago Press. 2019.

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course participants will complete and submit his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.
（Learning Objectives）
After submitting the dissertation, participants will make improvements on the submitted dissertation. Furthermore, in this course participants will complete a Ph. D. dissertation by putting together the academic articles which he/she has written in the doctor’s course. Participants will revise the submitted dissertation by the instructions from a review committee, and complete the Ph. D. dissertation. Participants will contribute the academic articles of the doctoral dissertation to academic journals and/or make presentations at a conference.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1-1（経済学 / Economics 700）

経済学演習ＶＡ

後藤　浩子

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
課程博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させる。

【到達目標】
博士論文を構成する少なくとも3本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、博士論文を完成させる。博士論文の研究から、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめる
第2回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第3回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第4回	研究報告③	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第5回	研究報告④	博士論文を構成する研究成果を報告
第6回	研究報告⑤	博士論文を構成する研究成果を報告
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第12回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第13回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討
第14回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞社会思想史
＜研究テーマ＞フランス革命期共和主義、フェミニズム思想
＜主要研究業績＞
①『世界歴史大系アイルランド史』（第4章執筆、共著）山川出版社、2018年。
②ウルストンクラフト著、清水和子・後藤浩子・梅垣千尋訳『人間の権利の擁護・他』京都大学学術出版会、2020年。
③「未来に投企する者としての〈母〉：ドゥルシラ・コーネル追悼」『大原社会問題研究所雑誌』785号、2024年。

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course participants will complete his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.
（Learning Objectives）
Participants will complete at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1-2（経済学 / Economics 700）

経済学演習ＶＢ

後藤　浩子

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させ提出する。博士論文提出後は、提出した博士論文の改善を行う。

【到達目標】
博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士論文を完成させ、提出後は、審査委員会からの助言を受けて、論文を改善する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また、指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	研究報告③	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第12回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第13回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基く再検討
第14回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞社会思想史
＜研究テーマ＞フランス革命期共和主義、フェミニズム思想
＜主要研究業績＞
①『世界歴史大系アイルランド史』（第4章執筆、共著）山川出版社、2018年。
②ウルストンクラフト著、清水和子・後藤浩子・梅垣千尋訳『人間の権利の擁護・他』京都大学学術出版会、2020年。
③「未来に投企する者としての〈母〉：ドゥルシラ・コーネル追悼」『大原社会問題研究所雑誌』785号、2024年。

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course participants will complete and submit his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.
（Learning Objectives）
After submitting the dissertation, participants will make improvements on the submitted dissertation. Furthermore, in this course participants will complete a Ph. D. dissertation by putting together the academic articles which he/she has written in the doctor's course. Participants will revise the submitted dissertation by the instructions from a review committee, and complete the Ph. D. dissertation. Participants will contribute the academic articles of the doctoral dissertation to academic journals and/or make presentations at a conference.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1-1（経済学 / Economics 700）

経済学演習ＶＡ

酒井　正

備考（履修条件等）：**2021年度以降入学者用**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
課程博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させる。

【到達目標】
博士論文を構成する少なくとも3本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、博士論文を完成させる。博士論文の研究から、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめる
第2回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第3回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第4回	研究報告③	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第5回	研究報告④	博士論文を構成する研究成果を報告
第6回	研究報告⑤	博士論文を構成する研究成果を報告
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第12回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第13回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討
第14回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
専門領域：労働経済学、社会保障論
研究テーマ：就業と社会保障制度の関係についての実証分析
＜主要研究業績＞
『日本のセーフティーネット格差 労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会，2020年）
"Education and Marriage Decisions of Japanese Women and the Role of the Equal Employment Opportunity Act"（共著）Journal of Human Capital 13(2) pp. 260-292, 2019.

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course participants will complete his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.
（Learning Objectives）
Participants will complete at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1-2（経済学 / Economics 700）

経済学演習ＶＢ

酒井　正

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させ提出する。博士論文提出後は、提出した博士論文の改善を行う。

【到達目標】
博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士論文を完成させ、提出後は、審査委員会からの助言を受けて、論文を改善する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また、指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	研究報告③	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第12回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第13回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基く再検討
第14回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
専門領域：労働経済学、社会保障論
研究テーマ：就業と社会保障制度の関係についての実証分析
＜主要研究業績＞
『日本のセーフティーネット格差 労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会，2020年）
"Education and Marriage Decisions of Japanese Women and the Role of the Equal Employment Opportunity Act"（共著）Journal of Human Capital 13(2) pp. 260-292, 2019.

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course participants will complete and submit his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.
（Learning Objectives）
After submitting the dissertation, participants will make improvements on the submitted dissertation. Furthermore, in this course participants will complete a Ph. D. dissertation by putting together the academic articles which he/she has written in the doctor's course. Participants will revise the submitted dissertation by the instructions from a review committee, and complete the Ph. D. dissertation. Participants will contribute the academic articles of the doctoral dissertation to academic journals and/or make presentations at a conference.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN702C1-1（経済学 / Economics 700）

経済学演習ⅣＡ

松波　淳也

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第2論文の第1稿を春学期末までに完成させるよう努力する。また、第1論文の改訂も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめ、研究テーマを確認する
第2回	文献サーベイと研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第3回	文献サーベイと研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第4回	文献サーベイと研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第5回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
第6回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
第7回	論文執筆指導③	研究を論文にまとめる
第8回	論文執筆指導④	執筆した論文に基く指導
第9回	論文執筆指導⑤	執筆した論文に基く指導
第10回	論文執筆指導⑥	執筆した論文に基く指導
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの振り返りと論文テーマ・分析の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める
第14回	まとめ	春学期の研究成果をまとめ、夏期休暇中の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士2年次の講義科目（専攻分野コースワーク2年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
環境経済学
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001408/profile.html

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose the doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation. Participants will make an effort to complete the first draft of a second treatise which composes the doctoral dissertation by the end of spring semester. Furthermore, participants will revise the first treatise as well.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing work for their doctoral dissertation. As for the specialized knowledge that they want to reinforce, they will take lecture courses in the second year of their master's degree (second year courses of coursework in their major field) and reinforce it by themselves
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN702C1-2（経済学 / Economics 700）

経済学演習ⅣＢ

松波　淳也

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第3論文の第1稿を年度末までに完成させるよう努力する。また、第1, 2論文の改訂も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	今までの研究成果のまとめ	夏期休暇中の研究成果を報告する
第2回	文献サーベイと研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第3回	文献サーベイと研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第4回	文献サーベイと研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第5回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
第6回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
第7回	論文執筆指導③	研究を論文にまとめる
第8回	論文執筆指導④	執筆した論文に基く指導
第9回	論文執筆指導⑤	執筆した論文に基く指導
第10回	論文執筆指導⑥	執筆した論文に基く指導
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの振り返りと論文テーマ・分析の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める
第14回	まとめ	今年度の研究成果をまとめ、来年度の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士2年次の講義科目（専攻分野コースワーク2年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
環境経済学
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001408/profile.html

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation. Participants will make an effort to complete the first draft of a third treatise which composes the doctoral dissertation by the end of the school year. Furthermore, participants will revise the first and the second treatise as well.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing work for their doctoral dissertation. As for the specialized knowledge that they want to reinforce, they will take lecture courses in the second year of their master’s degree (second year courses of coursework in their major field) and reinforce it by themselves
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN702C1-1（経済学 / Economics 700）

経済学演習Ⅳ A

宮﨑　憲治

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第2論文の第1稿を春学期末までに完成させるよう努力する。また、第1論文の改訂も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめ、研究テーマを確認する
第2回	文献サーベイと研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第3回	文献サーベイと研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第4回	文献サーベイと研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第5回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
第6回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
第7回	論文執筆指導③	研究を論文にまとめる
第8回	論文執筆指導④	執筆した論文に基く指導
第9回	論文執筆指導⑤	執筆した論文に基く指導
第10回	論文執筆指導⑥	執筆した論文に基く指導
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの振り返りと論文テーマ・分析の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める
第14回	まとめ	春学期の研究成果をまとめ、夏期休暇中の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士2年次の講義科目（専攻分野コースワーク2年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
マクロ経済学・計量経済学

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose the doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation. Participants will make an effort to complete the first draft of a second treatise which composes the doctoral dissertation by the end of spring semester. Furthermore, participants will revise the first treatise as well.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing work for their doctoral dissertation. As for the specialized knowledge that they want to reinforce, they will take lecture courses in the second year of their master’s degree (second year courses of coursework in their major field) and reinforce it by themselves
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN702C1-2（経済学 / Economics 700）

経済学演習ⅣＢ

宮﨑　憲治

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第3論文の第1稿を年度末までに完成させるよう努力する。また、第1, 2論文の改訂も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	今までの研究成果のまとめ	夏期休暇中の研究成果を報告する
第2回	文献サーベイと研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第3回	文献サーベイと研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第4回	文献サーベイと研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第5回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
第6回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
第7回	論文執筆指導③	研究を論文にまとめる
第8回	論文執筆指導④	執筆した論文に基く指導
第9回	論文執筆指導⑤	執筆した論文に基く指導
第10回	論文執筆指導⑥	執筆した論文に基く指導
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの振り返りと論文テーマ・分析の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める
第14回	まとめ	今年度の研究成果をまとめ、来年度の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士2年次の講義科目（専攻分野コースワーク2年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
マクロ経済学・計量経済学

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation. Participants will make an effort to complete the first draft of a third treatise which composes the doctoral dissertation by the end of the school year. Furthermore, participants will revise the first and the second treatise as well.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing work for their doctoral dissertation. As for the specialized knowledge that they want to reinforce, they will take lecture courses in the second year of their master's degree (second year courses of coursework in their major field) and reinforce it by themselves
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN701C1-1（経済学 / Economics 700）

経済学演習ⅢA

JESS DIAMO N D

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第1論文の第1稿の執筆を開始する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの確認	今までの研究成果をまとめ、研究テーマを確認する
第2回	文献サーベイと研究報告①	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第3回	文献サーベイと研究報告②	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第4回	文献サーベイと研究報告③	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第5回	文献サーベイと研究報告④	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第6回	研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第7回	研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第8回	研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第9回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
第10回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの振り返りと論文テーマ・分析の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める
第14回	まとめ	春学期の研究成果をまとめ、夏期休暇中の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士2年次の講義科目（専攻分野コースワーク2年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose the doctoral dissertation. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Participants will start writing the first draft of a first treatise which composes the doctoral dissertation.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing work for their doctoral dissertation. As for the specialized knowledge that they want to reinforce, they will take lecture courses in the second year of their master's degree (second year courses of coursework in their major field) and reinforce it by themselves.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN701C1-2（経済学 / Economics 700）

経済学演習ⅢＢ

JESS DIAMO N D

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第1論文の第1稿を年度末までに完成させるよう努力する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	今までの研究成果のまとめ	夏期休暇中の研究成果を報告する
第2回	文献サーベイと研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第3回	文献サーベイと研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第4回	文献サーベイと研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第5回	文献サーベイと研究報告④	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第6回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
第7回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
第8回	論文執筆指導③	研究を論文にまとめる
第9回	論文執筆指導④	研究を論文にまとめる
第10回	論文執筆指導⑤	研究を論文にまとめる
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの振り返りと論文テーマ・分析の再検討	これまでの指摘に基づき、論文の改訂を進める
第14回	まとめ	今年度の研究成果をまとめ、来年度の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士2年次の講義科目（専攻分野コースワーク2年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose the doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation. Participants will make an effort to complete the first draft of a first treatise which composes the doctoral dissertation by the end of the school year.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing work for their doctoral dissertation. As for the specialized knowledge that they want to reinforce, they will take lecture courses in the second year of their master’s degree (second year courses of coursework in their major field) and reinforce it by themselves
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN703C1-1（経済学 / Economics 700）

論文指導ＶＡ

鈴木　豊

備考（履修条件等）：2017～2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】

課程博士論文を構成する少なくとも3本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文として、結論をまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	いままでの研究成果をまとめる
第2回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第3回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第4回	研究報告③	博士論文を構成する研究成果を報告
第5回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第6回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第7回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点100％。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会報告、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001407/profile.html
を参照のこと。

【Outline (in English)】

（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will complete writing at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN706C1-1（経済学 / Economics 700）

博士ワークショップⅢＡ

鈴木　豊

備考（履修条件等）：2017～2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程3年次春学期のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】
9月末の提出に向けて、博士論文の最終確認を行うとともに、学会での研究発表やレフェリー付き学術誌への論文掲載につながる質の高い研究論文の執筆と報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップⅢＡでは、博士論文の提出に向けた最終的な報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ワークショップ報告テーマ	ワークショップ報告テーマの決定
第2回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第3回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第4回	ワークショップ発表準備①	ワークショップの発表準備
第5回	ワークシップ発表準備②	ワークショップ報告リハーサル
第6回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第7回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップでの中間報告の事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001407/profile.html
を参照のこと。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results.
（Learning Objectives）
This course will have students prepared for the first workshop of a third-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, for submission at the end of September, participants will do a final check on the dissertation and write and report a high quality treatise which leads to article publications in a refereed journal or giving research presentations at a conference.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing for their doctoral dissertations. In addition, students will prepare in advance for the interim report at the workshop, sort out the issues afterwards, and provide feedback for improving the dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the normal score. The accumulation of research up to the presentation of the doctoral workshop and the results of that research and presentation will be evaluated comprehensively. In addition, the reply to the two nominated discussants at the workshop will be added to the evaluation.

ECN703C1-2（経済学 / Economics 700）

論文指導ⅤＢ

鈴木　豊

備考（履修条件等）：2017～2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめ、提出する。提出後は、審査委員会からの指導により改訂を進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士論文の最終確認を行い、提出後は、審査委員会からの助言を受け、論文を改訂する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第7回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会報告、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001407/profile.html
を参照のこと。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will complete and submit the doctoral dissertation. After submitting the dissertation, participants will revise the dissertation by the instruction of the review committee.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the normal score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN706C1-2（経済学 / Economics 700）

博士ワークショップⅢＢ

鈴木　豊

備考（履修条件等）：2017～2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程3年次秋学期のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】
提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。博士論文公聴会の最終リハーサルとして、ワークショップ報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップⅢＢでは、公聴会に向けた博士論文の最終段階の報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ワークショップ報告テーマ	ワークショップ報告テーマの決定
第2回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第3回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第4回	ワークショップ発表準備	ワークショップ報告リハーサル
第5回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第6回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省
第7回	ワークショップ報告論文の修正	ワークショップでのコメントをもとに報告論文を修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップの事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001407/profile.html
を参照のこと。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results.
（Learning Objectives）
This course will have students prepared for the second workshop of a third-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, participants will revise the submitted dissertation by the instruction of a review committee, and complete the doctoral dissertation. Participants will contribute the academic articles which compose the doctoral dissertation to academic journals or give presentations at a conference. As a last rehearsal of the doctoral dissertation defense, participants will have a workshop report.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing for their doctoral dissertations. In addition, students will prepare in advance for the interim report at the workshop, sort out the issues afterwards, and provide feedback for improving the dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the normal score. The accumulation of research up to the presentation of the doctoral workshop and the results of that research and presentation will be evaluated comprehensively. In addition, the reply to the two nominated discussants at the workshop will be added to the evaluation

ECN703C1-1（経済学 / Economics 700）

論文指導ＶＡ

田村　晶子

備考（履修条件等）：2017～2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
課程博士論文を構成する少なくとも3本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文として、結論をまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	いままでの研究成果をまとめる
第2回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第3回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第4回	研究報告③	博士論文を構成する研究成果を報告
第5回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第6回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第7回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会報告、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001448/profile.html

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will complete writing at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN706C1-1（経済学 / Economics 700）

博士ワークショップⅢＡ

田村　晶子

備考（履修条件等）：2017～2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程3年次春学期のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】
9月末の提出に向けて、博士論文の最終確認を行うとともに、学会での研究発表やレフェリー付き学術誌への論文掲載につながる質の高い研究論文の執筆と報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップⅢＡでは、博士論文の提出に向けた最終的な報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ワークショップ報告テーマ	ワークショップ報告テーマの決定
第2回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第3回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第4回	ワークショップ発表準備①	ワークショップの発表準備
第5回	ワークシップ発表準備②	ワークショップ報告リハーサル
第6回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第7回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップでの中間報告の事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001448/profile.html

【Outline (in English)】
（Course outline）
The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results.
（Learning Objectives）
This course will have students prepared for the first workshop of a third-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, for submission at the end of September, participants will do a final check on the dissertation and write and report a high quality treatise which leads to article publications in a refereed journal or giving research presentations at a conference.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing for their doctoral dissertations. In addition, students will prepare in advance for the interim report at the workshop, sort out the issues afterwards, and provide feedback for improving the dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the normal score. The accumulation of research up to the presentation of the doctoral workshop and the results of that research and presentation will be evaluated comprehensively. In addition, the reply to the two nominated discussants at the workshop will be added to the evaluation.

ECN703C1-2（経済学 / Economics 700）

論文指導ＶＢ

田村　晶子

備考（履修条件等）：2017〜2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめ、提出する。提出後は、審査委員会からの指導により改訂を進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士論文の最終確認を行い、提出後は、審査委員会からの助言を受け、論文を改訂する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第7回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会報告、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001448/profile.html

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will complete and submit the doctoral dissertation. After submitting the dissertation, participants will revise the dissertation by the instruction of the review committee.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the normal score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN706C1-2（経済学 / Economics 700）

博士ワークショップⅢＢ

田村　晶子

備考（履修条件等）：2017～2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程3年次秋学期のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】
提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。博士論文公聴会の最終リハーサルとして、ワークショップ報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップⅢＢでは、公聴会に向けた博士論文の最終段階の報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ワークショップ報告テーマ	ワークショップ報告テーマの決定
第2回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第3回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第4回	ワークショップ発表準備	ワークショップ報告リハーサル
第5回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第6回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省
第7回	ワークショップ報告論文の修正	ワークショップでのコメントをもとに報告論文を修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップの事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001448/profile.html

【Outline (in English)】
（Course outline）
The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results.
（Learning Objectives）
This course will have students prepared for the second workshop of a third-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, participants will revise the submitted dissertation by the instruction of a review committee, and complete the doctoral dissertation. Participants will contribute the academic articles which compose the doctoral dissertation to academic journals or give presentations at a conference. As a last rehearsal of the doctoral dissertation defense, participants will have a workshop report.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing for their doctoral dissertations. In addition, students will prepare in advance for the interim report at the workshop, sort out the issues afterwards, and provide feedback for improving the dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the normal score. The accumulation of research up to the presentation of the doctoral workshop and the results of that research and presentation will be evaluated comprehensively. In addition, the reply to the two nominated discussants at the workshop will be added to the evaluation

ECN703C1-1（経済学 / Economics 700）

論文指導ＶＡ

宮﨑　憲治

備考（履修条件等）：2017〜2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
課程博士論文を構成する少なくとも3本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文として、結論をまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	いままでの研究成果をまとめる
第2回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第3回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第4回	研究報告③	博士論文を構成する研究成果を報告
第5回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第6回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第7回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会報告、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
マクロ経済学・計量経済学

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will complete writing at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN706C1-1（経済学 / Economics 700）

博士ワークショップⅢＡ

宮崎　憲治

備考（履修条件等）：2017～2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程3年次春学期のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】

9月末の提出に向けて、博士論文の最終確認を行うとともに、学会での研究発表やレフェリー付き学術誌への論文掲載につながる質の高い研究論文の執筆と報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップⅢＡでは、博士論文の提出に向けた最終的な報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ワークショップ報告テーマ	ワークショップ報告テーマの決定
第2回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第3回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第4回	ワークショップ発表準備①	ワークショップの発表準備
第5回	ワークシップ発表準備②	ワークショップ報告リハーサル
第6回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第7回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップでの中間報告の事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点100％。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

マクロ経済学・計量経済学

【Outline (in English)】

（Course outline）

The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results.

（Learning Objectives）

This course will have students prepared for the first workshop of a third-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, for submission at the end of September, participants will do a final check on the dissertation and write and report a high quality treatise which leads to article publications in a refereed journal or giving research presentations at a conference.

（Learning activities outside of classroom）

Students will conduct daily research and writing for their doctoral dissertations. In addition, students will prepare in advance for the interim report at the workshop, sort out the issues afterwards, and provide feedback for improving the dissertation.

（Grading Criteria /Policy）

100% of the normal score. The accumulation of research up to the presentation of the doctoral workshop and the results of that research and presentation will be evaluated comprehensively. In addition, the reply to the two nominated discussants at the workshop will be added to the evaluation.

ECN703C1-2（経済学 / Economics 700）

論文指導ⅤＢ

宮﨑　憲治

備考（履修条件等）：2017～2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめ、提出する。提出後は、審査委員会からの指導により改訂を進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士論文の最終確認を行い、提出後は、審査委員会からの助言を受け、論文を改訂する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第7回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会報告、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
マクロ経済学・計量経済学

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will complete and submit the doctoral dissertation. After submitting the dissertation, participants will revise the dissertation by the instruction of the review committee.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the normal score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN706C1-2（経済学 / Economics 700）

博士ワークショップⅢＢ

宮﨑　憲治

備考（履修条件等）：2017〜2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程3年次秋学期のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】

提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。博士論文公聴会の最終リハーサルとして、ワークショップ報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップⅢＢでは、公聴会に向けた博士論文の最終段階の報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ワークショップ報告テーマ	ワークショップ報告テーマの決定
第2回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第3回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第4回	ワークショップ発表準備	ワークショップ報告リハーサル
第5回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第6回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省
第7回	ワークショップ報告論文の修正	ワークショップでのコメントをもとに報告論文を修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップの事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点100％。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

マクロ経済学・計量経済学

【Outline (in English)】

（Course outline）

The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results.

（Learning Objectives）

This course will have students prepared for the second workshop of a third-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, participants will revise the submitted dissertation by the instruction of a review committee, and complete the doctoral dissertation. Participants will contribute the academic articles which compose the doctoral dissertation to academic journals or give presentations at a conference. As a last rehearsal of the doctoral dissertation defense, participants will have a workshop report.

（Learning activities outside of classroom）

Students will conduct daily research and writing for their doctoral dissertations. In addition, students will prepare in advance for the interim report at the workshop, sort out the issues afterwards, and provide feedback for improving the dissertation.

（Grading Criteria /Policy）

100% of the normal score. The accumulation of research up to the presentation of the doctoral workshop and the results of that research and presentation will be evaluated comprehensively. In addition, the reply to the two nominated discussants at the workshop will be added to the evaluation

ECN703C1-1（経済学 / Economics 700）

論文指導ＶＡ（2016年度以前入学者）

小黒　一正

備考（履修条件等）：2016年度以前入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
課程博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させる。

【到達目標】
博士論文を構成する少なくとも３本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、１本の課程博士論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、博士論文を完成させる。博士論文の研究から、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめる
第2回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第3回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第4回	研究報告③	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第5回	研究報告④	博士論文を構成する研究成果を報告
第6回	研究報告⑤	博士論文を構成する研究成果を報告
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第12回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第13回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討
第14回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
財政学、公共経済学
＜研究テーマ＞
人口動態と政治経済の相互作用や世代間問題の分析
＜主要研究業績＞
①)Child Benefit and Fiscal Burden in the Endogenous Fertility Setting, Economic Modelling, 44, 252-265, 2015
② Impact of Deflation on Real Interest rate of Government Bonds, The Economic Review, 64(2), 147-159, 2013
③ Demographic Change, Intergenerational Altruism, and Fiscal Policy - A Political Economy Approach -, Studies in Applied Economics, 6, 1-15, 2013
④ Ability transmission, endogenous fertility, and educational subsidy, Applied Economics, 45(17), 2469-2479, 2012

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course participants will complete his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.
（Learning Objectives）
Participants will complete at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1-2（経済学 / Economics 700）

論文指導ＶＢ（2016年度以前入学者）

小黒　一正

備考（履修条件等）：2016年度以前入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させ提出する。博士論文提出後は、提出した博士論文の改善を行う。

【到達目標】
博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士論文を完成させ、提出後は、審査委員会からの助言を受けて、論文を改善する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また、指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	研究報告③	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第12回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第13回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基く再検討
第14回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
財政学、公共経済学
＜研究テーマ＞
人口動態と政治経済の相互作用や世代間問題の分析
＜主要研究業績＞
①)Child Benefit and Fiscal Burden in the Endogenous Fertility Setting, Economic Modelling, 44, 252-265, 2015
② Impact of Deflation on Real Interest rate of Government Bonds, The Economic Review, 64(2), 147-159, 2013
③ Demographic Change, Intergenerational Altruism, and Fiscal Policy - A Political Economy Approach -, Studies in Applied Economics, 6, 1-15, 2013
④ Ability transmission, endogenous fertility, and educational subsidy, Applied Economics, 45(17), 2469-2479, 2012

【Outline (in English)】
(Course outline)
In this course participants will complete and submit his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.
(Learning Objectives)
After submitting the dissertation, participants will make improvements on the submitted dissertation. Furthermore, in this course participants will complete a Ph. D. dissertation by putting together the academic articles which he/she has written in the doctor's course. Participants will revise the submitted dissertation by the instructions from a review committee, and complete the Ph. D. dissertation. Participants will contribute the academic articles of the doctoral dissertation to academic journals and/or make presentations at a conference.
(Learning activities outside of classroom)
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
(Grading Criteria /Policy)
100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1-1（経済学 / Economics 700）

論文指導ＶＡ（2016年度以前入学者）

馬場　敏幸

備考（履修条件等）：2016年度以前入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

課程博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させる。

【到達目標】

博士論文を構成する少なくとも３本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、１本の課程博士論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、博士論文を完成させる。博士論文の研究から、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめる
第2回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第3回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第4回	研究報告③	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第5回	研究報告④	博士論文を構成する研究成果を報告
第6回	研究報告⑤	博士論文を構成する研究成果を報告
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第12回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第13回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討
第14回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点100％。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

新興工業国の経済発展
自動車産業
サポーティングインダストリー

【Outline (in English)】

（Course outline）
In this course participants will complete his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.
（Learning Objectives）
Participants will complete at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1-2（経済学 / Economics 700）

論文指導ＶＢ（2016年度以前入学者）

馬場　敏幸

備考（履修条件等）：2016年度以前入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させ提出する。博士論文提出後は、提出した博士論文の改善を行う。

【到達目標】
博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士論文を完成させ、提出後は、審査委員会からの助言を受けて、論文を改善する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また、指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	研究報告③	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第12回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第13回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基く再検討
第14回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
新興工業国の経済発展
自動車産業
サポーティングインダストリー

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course participants will complete and submit his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.
（Learning Objectives）
After submitting the dissertation, participants will make improvements on the submitted dissertation. Furthermore, in this course participants will complete a Ph. D. dissertation by putting together the academic articles which he/she has written in the doctor's course. Participants will revise the submitted dissertation by the instructions from a review committee, and complete the Ph. D. dissertation. Participants will contribute the academic articles of the doctoral dissertation to academic journals and/or make presentations at a conference.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN601C1-1（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅠＡ（代表シラバス）

経済学専攻教員

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての基本的な知識を習得し、論文作成の準備を行う。

【到達目標】
基礎文献の輪読・報告を通じ、問題意識を醸成するとともに、分析手法を身につける。また、論文のサーチの方法、論文作法やプレゼンの方法についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文について	論文とは何か、問題意識の持ち方、文献の探し方
第2回	問題意識の醸成	検索した文献などを通じて問題意識を醸成する
第3回	基礎知識の習得①	問題意識に関連する基礎知識をテキストや基本文献の輪読等で習得する
第4回	基礎知識の習得②	テキスト、基本文献の輪読
第5回	基礎知識の習得③	テキスト、基本文献の輪読
第6回	基礎知識の習得④	テキスト、基本文献の輪読
第7回	基礎知識の習得⑤	テキスト、基本文献の輪読
第8回	基礎知識の習得⑥	テキスト、基本文献の輪読
第9回	基礎知識の習得⑦	テキスト、基本文献の輪読
第10回	基礎知識の習得⑧	テキスト、基本文献の輪読
第11回	基本文献における問題意識や分析方法のまとめ	サーベイした基本文献から学んだことをまとめる
第12回	基本的な研究報告①	サーベイした基本文献に基づき、自らの問題意識と分析方法で研究報告を行う
第13回	基本的な研究報告②	研究報告のつづき
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
標準的なテキストや基本文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master’s theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master’s thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student’s own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1-2（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅠB（代表シラバス）

経済学専攻教員

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての応用的な知識を習得し、論文作成の準備をさらに進める。

【到達目標】
応用文献の輪読・報告を通じ、自身の研究テーマを絞り込む。また、分析手法についての理解をさらに深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した応用知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの確認	春学期、夏期休暇中に勉強したテキストや先行研究の基づき、研究テーマを確認する
第2回	先行研究の輪読①	研究テーマに添った先行研究（応用研究）を輪読する
第3回	先行研究の輪読②	先行研究（応用研究）の輪読
第4回	先行研究の輪読③	先行研究（応用研究）の輪読
第5回	先行研究の輪読④	先行研究（応用研究）の輪読
第6回	先行研究の輪読⑤	先行研究（応用研究）の輪読
第7回	先行研究の輪読⑥	先行研究（応用研究）の輪読
第8回	先行研究の輪読⑦	先行研究（応用研究）の輪読
第9回	先行研究の輪読⑧	先行研究（応用研究）の輪読
第10回	先行研究の輪読⑨	先行研究（応用研究）の輪読
第11回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第12回	応用的な研究報告①	サーベイした先行研究に基づき、春学期より進んだ応用的な研究報告を行う
第13回	応用的な研究報告②	研究報告のつづき
第14回	最終報告	1年目のまとめとしての研究報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究テーマに沿った標準的なテキストや応用的な先行文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅡＡ（代表シラバス）

経済学専攻教員

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第１回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】
研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第１稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master’s theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master’s thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student’s own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅡＢ（代表シラバス）

経済学専攻教員

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し，修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第２回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】
すでに第１稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master’s theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master’s thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student’s own problem awareness and analytical methods.

ECN701C1-1（経済学 / Economics 700）

経済学演習ⅢＡ（代表シラバス）

経済学専攻教員

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第1論文の第1稿の執筆を開始する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの確認	今までの研究成果をまとめ、研究テーマを確認する
第2回	文献サーベイと研究報告①	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第3回	文献サーベイと研究報告②	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第4回	文献サーベイと研究報告③	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第5回	文献サーベイと研究報告④	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第6回	研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第7回	研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第8回	研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第9回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
第10回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの振り返りと論文テーマ・分析の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める
第14回	まとめ	春学期の研究成果をまとめ、夏期休暇中の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士2年次の講義科目（専攻分野コースワーク2年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose the doctoral dissertation. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Participants will start writing the first draft of a first treatise which composes the doctoral dissertation.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing work for their doctoral dissertation. As for the specialized knowledge that they want to reinforce, they will take lecture courses in the second year of their master's degree (second year courses of coursework in their major field) and reinforce it by themselves.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN701C1-2（経済学 / Economics 700）

経済学演習ⅢＢ（代表シラバス）

経済学専攻教員

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第1論文の第1稿を年度末までに完成させるよう努力する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	今までの研究成果のまとめ	夏期休暇中の研究成果を報告する
第2回	文献サーベイと研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第3回	文献サーベイと研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第4回	文献サーベイと研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第5回	文献サーベイと研究報告④	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第6回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
第7回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
第8回	論文執筆指導③	研究を論文にまとめる
第9回	論文執筆指導④	研究を論文にまとめる
第10回	論文執筆指導⑤	研究を論文にまとめる
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの振り返りと論文テーマ・分析の再検討	これまでの指摘に基づき、論文の改訂を進める
第14回	まとめ	今年度の研究成果をまとめ、来年度の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士2年次の講義科目（専攻分野コースワーク2年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose the doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation. Participants will make an effort to complete the first draft of a first treatise which composes the doctoral dissertation by the end of the school year.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing work for their doctoral dissertation. As for the specialized knowledge that they want to reinforce, they will take lecture courses in the second year of their master's degree (second year courses of coursework in their major field) and reinforce it by themselves
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN702C1-1（経済学 / Economics 700）

経済学演習ⅣＡ（代表シラバス）

経済学専攻教員

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第2論文の第1稿を春学期末までに完成させるよう努力する。また、第1論文の改訂も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめ、研究テーマを確認する
第2回	文献サーベイと研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第3回	文献サーベイと研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第4回	文献サーベイと研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第5回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
第6回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
第7回	論文執筆指導③	研究を論文にまとめる
第8回	論文執筆指導④	執筆した論文に基く指導
第9回	論文執筆指導⑤	執筆した論文に基く指導
第10回	論文執筆指導⑥	執筆した論文に基く指導
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの振り返りと論文テーマ・分析の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める
第14回	まとめ	春学期の研究成果をまとめ、夏期休暇中の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士2年次の講義科目（専攻分野コースワーク2年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose the doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation. Participants will make an effort to complete the first draft of a second treatise which composes the doctoral dissertation by the end of spring semester. Furthermore, participants will revise the first treatise as well.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing work for their doctoral dissertation. As for the specialized knowledge that they want to reinforce, they will take lecture courses in the second year of their master’s degree (second year courses of coursework in their major field) and reinforce it by themselves
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN702C1-2（経済学 / Economics 700）

経済学演習ⅣＢ（代表シラバス）

経済学専攻教員

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第3論文の第1稿を年度末までに完成させるよう努力する。また、第1, 2論文の改訂も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	今までの研究成果のまとめ	夏期休暇中の研究成果を報告する
第2回	文献サーベイと研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第3回	文献サーベイと研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第4回	文献サーベイと研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第5回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
第6回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
第7回	論文執筆指導③	研究を論文にまとめる
第8回	論文執筆指導④	執筆した論文に基く指導
第9回	論文執筆指導⑤	執筆した論文に基く指導
第10回	論文執筆指導⑥	執筆した論文に基く指導
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの振り返りと論文テーマ・分析の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める
第14回	まとめ	今年度の研究成果をまとめ、来年度の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士2年次の講義科目（専攻分野コースワーク2年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation. Participants will make an effort to complete the first draft of a third treatise which composes the doctoral dissertation by the end of the school year. Furthermore, participants will revise the first and the second treatise as well.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing work for their doctoral dissertation. As for the specialized knowledge that they want to reinforce, they will take lecture courses in the second year of their master's degree (second year courses of coursework in their major field) and reinforce it by themselves
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN703C1-1（経済学 / Economics 700）

経済学演習ＶＡ（代表シラバス）

経済学専攻教員

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
課程博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させる。

【到達目標】
博士論文を構成する少なくとも3本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、博士論文を完成させる。博士論文の研究から、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめる
第2回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第3回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第4回	研究報告③	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第5回	研究報告④	博士論文を構成する研究成果を報告
第6回	研究報告⑤	博士論文を構成する研究成果を報告
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第12回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第13回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討
第14回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course participants will complete his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.
（Learning Objectives）
Participants will complete at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1-2（経済学 / Economics 700）

経済学演習ＶＢ（代表シラバス）

経済学専攻教員

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させ提出する。博士論文提出後は、提出した博士論文の改善を行う。

【到達目標】
博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士論文を完成させ、提出後は、審査委員会からの助言を受けて、論文を改善する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また、指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	研究報告③	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第12回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第13回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基く再検討
第14回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course participants will complete and submit his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.
（Learning Objectives）
After submitting the dissertation, participants will make improvements on the submitted dissertation. Furthermore, in this course participants will complete a Ph. D. dissertation by putting together the academic articles which he/she has written in the doctor's course. Participants will revise the submitted dissertation by the instructions from a review committee, and complete the Ph. D. dissertation. Participants will contribute the academic articles of the doctoral dissertation to academic journals and/or make presentations at a conference.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1-1（経済学 / Economics 700）

論文指導ＶＡ（代表シラバス）

経済学専攻教員

備考（履修条件等）：2017～2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
課程博士論文を構成する少なくとも3本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文として、結論をまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	いままでの研究成果をまとめる
第2回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第3回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第4回	研究報告③	博士論文を構成する研究成果を報告
第5回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第6回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第7回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会報告、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will complete writing at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN706C1-1（経済学 / Economics 700）

博士ワークショップⅢＡ（代表シラバス）

経済学専攻教員

備考（履修条件等）：2017～2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程3年次春学期のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】
9月末の提出に向けて、博士論文の最終確認を行うとともに、学会での研究発表やレフェリー付き学術誌への論文掲載につながる質の高い研究論文の執筆と報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップⅢＡでは、博士論文の提出に向けた最終的な報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ワークショップ報告テーマ	ワークショップ報告テーマの決定
第2回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第3回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第4回	ワークショップ発表準備①	ワークショップの発表準備
第5回	ワークシップ発表準備②	ワークショップ報告リハーサル
第6回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第7回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップでの中間報告の事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results.
（Learning Objectives）
This course will have students prepared for the first workshop of a third-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, for submission at the end of September, participants will do a final check on the dissertation and write and report a high quality treatise which leads to article publications in a refereed journal or giving research presentations at a conference.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing for their doctoral dissertations. In addition, students will prepare in advance for the interim report at the workshop, sort out the issues afterwards, and provide feedback for improving the dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the normal score. The accumulation of research up to the presentation of the doctoral workshop and the results of that research and presentation will be evaluated comprehensively. In addition, the reply to the two nominated discussants at the workshop will be added to the evaluation.

ECN703C1-2（経済学 / Economics 700）

論文指導ＶＢ（代表シラバス）

経済学専攻教員

備考（履修条件等）：2017〜2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめ、提出する。提出後は、審査委員会からの指導により改訂を進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士論文の最終確認を行い、提出後は、審査委員会からの助言を受け、論文を改訂する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第7回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会報告、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will complete and submit the doctoral dissertation. After submitting the dissertation, participants will revise the dissertation by the instruction of the review committee.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the normal score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN706C1-2（経済学 / Economics 700）

博士ワークショップⅢＢ（代表シラバス）

経済学専攻教員

備考（履修条件等）：2017〜2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程3年次秋学期のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】
提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。博士論文公聴会の最終リハーサルとして、ワークショップ報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップⅢＢでは、公聴会に向けた博士論文の最終段階の報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ワークショップ報告テーマ	ワークショップ報告テーマの決定
第2回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第3回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第4回	ワークショップ発表準備	ワークショップ報告リハーサル
第5回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第6回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省
第7回	ワークショップ報告論文の修正	ワークショップでのコメントをもとに報告論文を修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップの事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results.
（Learning Objectives）
This course will have students prepared for the second workshop of a third-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, participants will revise the submitted dissertation by the instruction of a review committee, and complete the doctoral dissertation. Participants will contribute the academic articles which compose the doctoral dissertation to academic journals or give presentations at a conference. As a last rehearsal of the doctoral dissertation defense, participants will have a workshop report.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing for their doctoral dissertations. In addition, students will prepare in advance for the interim report at the workshop, sort out the issues afterwards, and provide feedback for improving the dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the normal score. The accumulation of research up to the presentation of the doctoral workshop and the results of that research and presentation will be evaluated comprehensively. In addition, the reply to the two nominated discussants at the workshop will be added to the evaluation

ECN703C1-1（経済学 / Economics 700）

論文指導ＶＡ（2016年度以前入学者）（代表シラバス）

経済学専攻教員

備考（履修条件等）：2016年度以前入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
課程博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させる。

【到達目標】
博士論文を構成する少なくとも3本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、博士論文を完成させる。博士論文の研究から、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめる
第2回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第3回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第4回	研究報告③	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第5回	研究報告④	博士論文を構成する研究成果を報告
第6回	研究報告⑤	博士論文を構成する研究成果を報告
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第12回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第13回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討
第14回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course participants will complete his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.
（Learning Objectives）
Participants will complete at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1-2（経済学 / Economics 700）

論文指導ＶＢ（2016年度以前入学者）（代表シラバス）

経済学専攻教員

備考（履修条件等）：2016年度以前入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させ提出する。博士論文提出後は、提出した博士論文の改善を行う。

【到達目標】
博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士論文を完成させ、提出後は、審査委員会からの助言を受けて、論文を改善する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また、指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	研究報告③	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第12回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第13回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基く再検討
第14回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course participants will complete and submit his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.
（Learning Objectives）
After submitting the dissertation, participants will make improvements on the submitted dissertation. Furthermore, in this course participants will complete a Ph. D. dissertation by putting together the academic articles which he/she has written in the doctor’s course. Participants will revise the submitted dissertation by the instructions from a review committee, and complete the Ph. D. dissertation. Participants will contribute the academic articles of the doctoral dissertation to academic journals and/or make presentations at a conference.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

法政大学
HOSEI University